

第二次ときがわ町
総合振興計画後期基本計画
に係る住民アンケート調査

報告書

令和 7 年 8 月

埼玉県ときがわ町

目 次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 調査項目	1
4 回収結果	1
5 報告書の見方	2
第2章 住民アンケート調査	3
1 回答者の属性	3
2 調査結果の概要について	7
3 町の住みやすさ・定住意向について	12
4 後期基本計画の取り組み施策について	26
5 結婚について	53
6 出産について	60
7 子育て環境について	66
8 教育環境について	74
9 産業について	89
10 移住や定住について	92
11 防災について	102
12 まちづくりの方向性について	108
13 今後のまちづくりに対する意見・要望	117

第1章 調査の概要

1 調査の目的

第二次ときがわ町総合振興計画後期基本計画に係る事業実施成果について、町民意識を把握するためアンケート調査を実施しました。

2 調査の方法

- ・調査対象：ときがわ町内に在住する満15歳以上の男女
- ・対象者数：1,500人（15～34歳 500人、35歳以上 1,000人）
- ・抽出方法：住民基本台帳（令和7年4月1日現在）から無作為抽出
- ・調査方法：郵送による配布及び回答の回収・インターネットによる回答を併用
- ・調査期間：令和7年5月30日（金）～6月30日（月）

3 調査項目

- ・町の住みやすさ・定住意向について
- ・後期基本計画の取組み施策について
- ・結婚について
- ・出産について
- ・子育て環境について
- ・教育環境について
- ・町の産業について
- ・移住について
- ・防災について
- ・まちづくりの方向性

4 回収結果

- ・調査票発送数： 1,500通
- ・有効回収数： 494件（うち郵送回答：352件、Web回答：142件）
- ・有効回収率： 32.9%

5 報告書の見方

(1) 用語について

- ・各設問が単回答の場合は[単回答]、複数回答の場合は[複数回答]と表記している。
- ・調査結果の数値は原則として回答率（％）で表記している。％の母数は、その質問項目に該当する回答者の数であり、（n＝回答者数）と表記している。また、複数回答についても「回答者の数」としている。

(2) 集計について

- ・集計は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。このため、各数値を足しあげても100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答可の質問では、母数（回答者数）に対する回答率のため、各回答率の足し上げは100.0%を超える場合がある。
- ・回答者数が30未満と小さいものについては、割合が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。
- ・本文や図表中では、選択肢の表記語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ・グラフの中には、「無回答」を除いて集計しているところがある。

(3) 前回調査との比較について

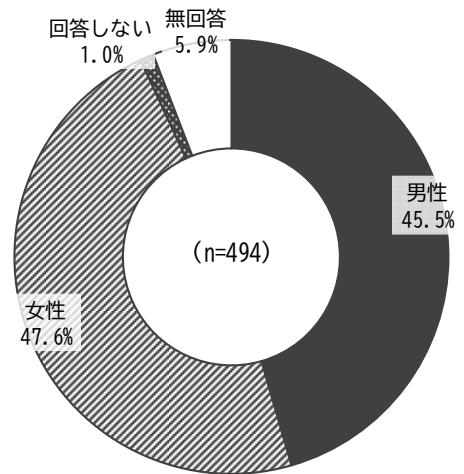
- ・「前回調査との比較」を行っている部分は、ときがわ町が令和3年度に実施したアンケート調査結果を用いている。
- ・前回調査と今回調査において選択肢、回答対象に相違がある場合もあり参考にとどめる。

第2章 住民アンケート調査

1 回答者の属性

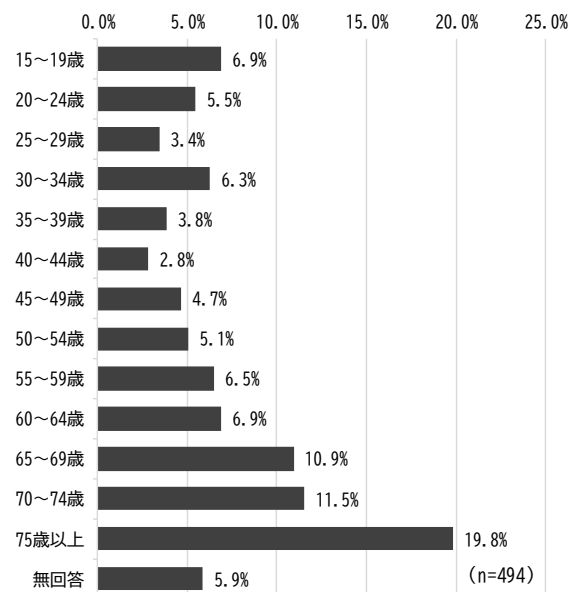
(1) 性別 [単回答]

	回答数	構成比
男性	225	45.5%
女性	235	47.6%
回答しない	5	1.0%
無回答	29	5.9%
計	494	100.0%



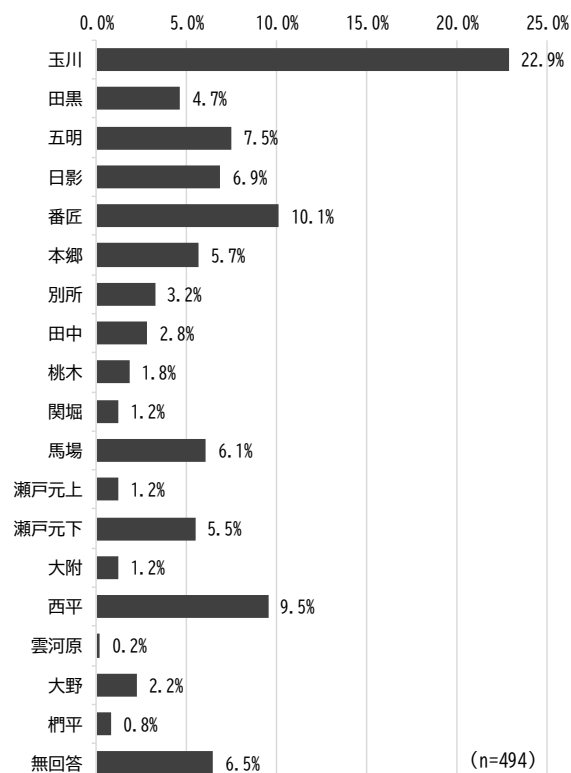
(2) 年齢 [単回答]

	回答数	構成比
15～19歳	34	6.9%
20～24歳	27	5.5%
25～29歳	17	3.4%
30～34歳	31	6.3%
35～39歳	19	3.8%
40～44歳	14	2.8%
45～49歳	23	4.7%
50～54歳	25	5.1%
55～59歳	32	6.5%
60～64歳	34	6.9%
65～69歳	54	10.9%
70～74歳	57	11.5%
75歳以上	98	19.8%
無回答	29	5.9%
計	494	100.0%



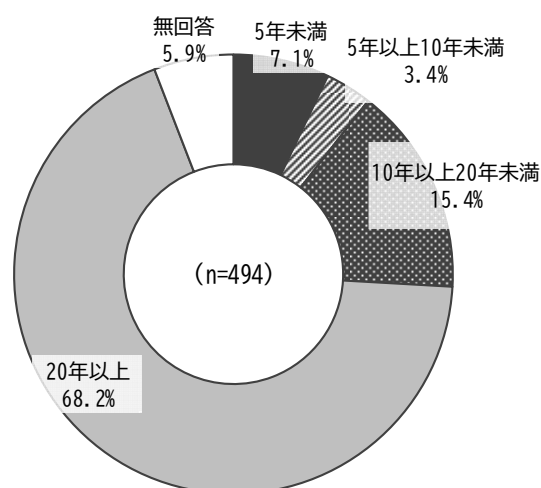
(3) 居住地区 [単回答]

	回答数	構成比
玉川	113	22.9%
田黒	23	4.7%
五明	37	7.5%
日影	34	6.9%
番匠	50	10.1%
本郷	28	5.7%
別所	16	3.2%
田中	14	2.8%
桃木	9	1.8%
関堀	6	1.2%
馬場	30	6.1%
瀬戸元上	6	1.2%
瀬戸元下	27	5.5%
大附	6	1.2%
西平	47	9.5%
雲河原	1	0.2%
大野	11	2.2%
櫛平	4	0.8%
無回答	32	6.5%
計	494	100.0%



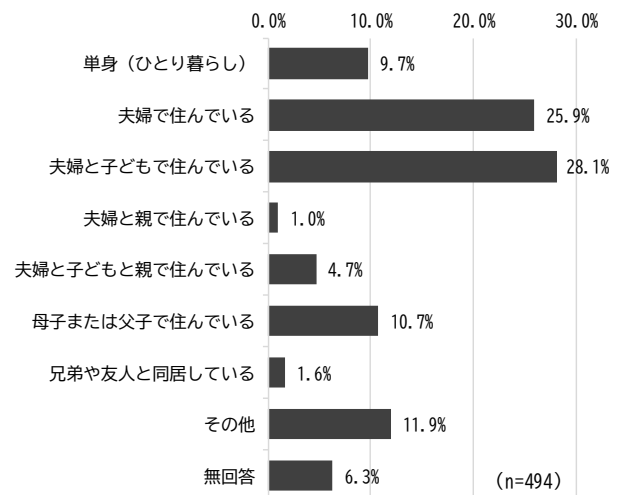
(4) 居住年数 [単回答]

	回答数	構成比
5年未満	35	7.1%
5年以上10年未満	17	3.4%
10年以上20年未満	76	15.4%
20年以上	337	68.2%
無回答	29	5.9%
計	494	100.0%



(5) 家族構成 [単回答]

	回答数	構成比
単身（ひとり暮らし）	48	9.7%
夫婦で住んでいる	128	25.9%
夫婦と子どもで住んでいる	139	28.1%
夫婦と親で住んでいる	5	1.0%
夫婦と子どもと親で住んでいる	23	4.7%
母子または父子で住んでいる	53	10.7%
兄弟や友人と同居している	8	1.6%
その他	59	11.9%
無回答	31	6.3%
計	494	100.0%

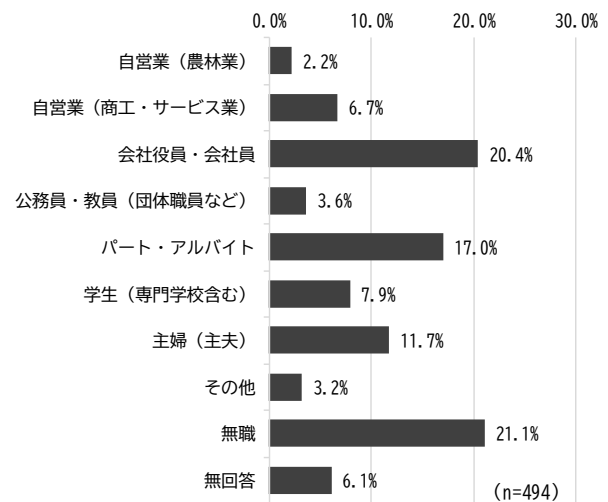


〈その他の回答〉

親と兄弟	15
両親と同居	15
3世帯同居	10
親と祖母	4
母と兄弟	1
下宿	1

(6) 職業 [単回答]

	回答数	構成比
自営業（農林業）	11	2.2%
自営業（商工・サービス業）	33	6.7%
会社役員・会社員	101	20.4%
公務員・教員（団体職員など）	18	3.6%
パート・アルバイト	84	17.0%
学生（専門学校含む）	39	7.9%
主婦（主夫）	58	11.7%
その他	16	3.2%
無職	104	21.1%
無回答	30	6.1%
計	494	100.0%



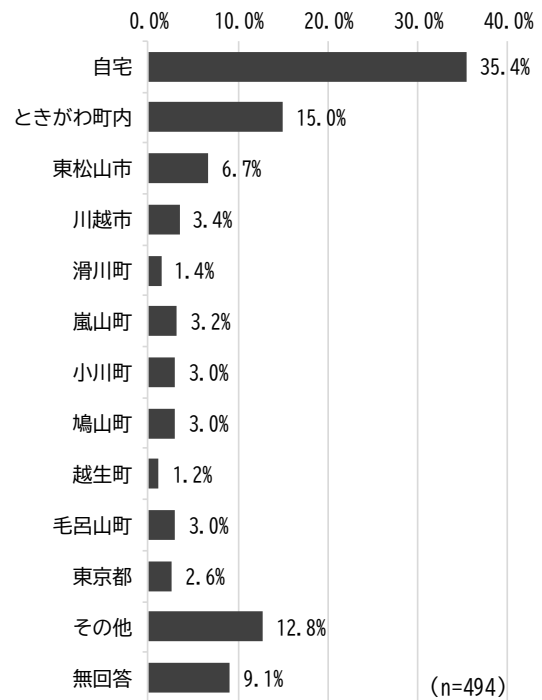
〈その他の回答〉

派遣	2	事業団	1
NPO 職員	1	自営業とパート	1
シルバー	1	職人	1
ダンサー	1	接客サービス業	1
フリーランス	1	B型支援で	1
医療関係	1	年金生活者	1

(7) 通勤先または通学先 [単回答]

	回答数	構成比
自宅	175	35.4%
ときがわ町内	74	15.0%
東松山市	33	6.7%
川越市	17	3.4%
滑川町	7	1.4%
嵐山町	16	3.2%
小川町	15	3.0%
鳩山町	15	3.0%
越生町	6	1.2%
毛呂山町	15	3.0%
東京都	13	2.6%
その他	63	12.8%
無回答	45	9.1%
計	494	100.0%

※通勤・通学をしていない方は「1 自宅」を選択



〈その他の回答〉

熊谷市	10	入間市	1
坂戸市	9	毛呂山町	1
日高市	4	川島町	1
深谷市	3	三芳町	1
寄居町	3	上里町	1
所沢市	2	東秩父村	1
狭山市	2	神奈川県	1
さいたま市	1	栃木県	1
ふじみ野市	1	海外（留学）	1
戸田市	1	不特定多数	2
秩父市	1		

2 調査結果の概要について

(1) ときがわ町の住みやすさ・定住意向（詳細：P12～）

1) ときがわ町の住みやすさ

「住みやすい」または「まあ住みやすい」と感じる町民は合わせて 68.2%に上り、肯定的な評価が多数を占めています。男女差はほとんど見られない一方、15～34 歳（36.7%）と 35～49 歳（35.7%）の若年層や、居住年数 5 年以上 10 年未満（35.3%）、10 年以上 20 年未満（43.4%）の層では、「住みにくい」または「やや住みにくい」とする割合が比較的高くなっています。なお、前回調査（令和 3 年度）との比較では、回答傾向に大きな変化は見られませんでした。

2) ときがわ町での居住意向

ときがわ町に「いつまでも住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と回答した町民は合わせて 76.9%となり、居住継続意欲が高いことが示された。しかし、前回調査の 82.5%から 5.6 ポイント減少しており、居住継続意欲は微減傾向となっています。

転出意向を示す「できれば他に移りたい」や「既に移ることが決まっている」の割合は、前回の 14.9%から 5.5 ポイント増加し、20.4%となっています。特に 15～34 歳の若年層や、居住年数 10 年以上 20 年未満の層では、「いつまでも住み続けたい」の割合が低く、「できれば他に移りたい」の割合が高い傾向が見られます。

3) 住み続けたい理由

主に「自然や生活環境が良いなど住みやすいから（50.8%）」、「生まれ育ったまちで愛着があるから（33.4%）」、「先祖代々の土地や墓を守っていききたいから（25.8%）」が挙げられています。

年齢別では、35～49 歳の層と居住 5 年未満の層で「子どもを育てる環境に適しているから」の回答が高くなっています（それぞれ 25.6%、29.0%）。

4) 住み続けたくない理由

最も多かった理由は「交通や買い物など不便なことが多いから（86.4%）」で、これは前回調査から 4.6 ポイント増加しています。次いで、「自分の希望する仕事が近くになく、または収入が少ないから（25.2%）」、「高齢者や障がいのある人でも暮らしやすい土地で生活したいから（25.2%）」、「生活環境に問題が多く、住みにくいから（24.3%）」が続いています。全体として、交通や買い物の不便さに加え、生活環境や福祉に対する課題意識が高まっており、住民の転出意向に影響していると推察されます。

(2) 後期基本計画の取り組み施策に対する満足度・重要度（詳細：P26～）

ときがわ町が実施するサービスや取り組みに対する住民の「満足度」と「重要度」を評価点に換算してポートフォリオ分析を行ったところ、次の結果が示されました。

1) 重点維持項目（満足度・重要度ともに高い項目）

この項目は、高い満足度を維持するための継続的な取り組みが求められます。

全体では、「保健衛生・医療の充実」、「子育て支援の推進」、「防災・防犯・交通安全体制の充実」、「学校教育の充実」が挙げられています。

年齢別に見ると、15～34歳では「農林業の活性化」、「自然環境の保全・整備」など多くの項目が該当している一方で、35～49歳では「子育て支援の推進」と「保健衛生・医療の充実」のみとなっています。50～64歳では「ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進」、65歳以上では「上水道の管理」「循環型地域社会の形成」「地域環境の保全」などが挙げられます。

定住意向別では、該当する項目にあまり大きな差はみられませんでした。

2) 重点改善項目（満足度が低く、重要度が高い項目）

この項目は、改善・強化することで町民の総合満足度を大きく向上させる可能性があるため、最優先での改善が求められます。

全体では、「道路交通体系の整備」、「雇用の創出」、「効率的な行財政運営」、「定住化の支援」、「自然環境の保全・整備」、「農林業の活性化」が主要な改善点として挙げられています。

年齢別では、15～34歳で「地域の魅力発信による観光活性化」、35～49歳で「学校教育の充実」、50～64歳で「循環型地域社会の形成」、「地域環境の保全」などが該当しています。

(3) 結婚について（詳細：P53～）

「結婚している」と回答した人は全体で58.3%でした。未婚者（※離(死)別を含む）に対する今後の結婚意向では、「いずれ結婚するつもり」が31.0%、「結婚するつもりはない」が27.2%、「わからない・何とも言えない」が40.2%と最も多く、結婚に対して明確な意思を持たない人が多い傾向が見られます。

結婚に必要な支援としては、「結婚後の生活支援（住宅、育児支援など）（57.9%）」、「安定した仕事に就けていること（53.6%）」、「結婚後の仕事・家庭の両立を支援する施策（48.6%）」が上位を占め、経済的安定と生活支援が重視されています。

(4) 出産について（詳細：P60～）

理想の子ども的人数は「2人（41.7%）」、「3人（36.6%）」が多く、合わせて8割近くの人が複数人の子どもを望んでいます。前回調査と比べ「3人」が上昇傾向にあります。

理想の人数を実現できない理由として、「経済的に厳しいから（42.7%）」、「子育てと仕事の両立が厳しいから（30.9%）」、「まだ結婚していない・これから妊活に取り組むから（26.4%）」が上位に挙げられました。女性は「子育てと仕事の両立」に、男性は「経済的厳しさ」に課題を感じる傾向が見られます。

(5) 子育て環境について（詳細：P66～）

幼児の子育てで充実してほしいことは、「保育サービス（43.5%）」と「経済的支援（41.1%）」が特に求められています。

小中学生の子育てでは、「経済的支援（33.4%）」と「放課後の居場所の充実（25.1%）」が上位ニーズです。

高校・大学生の子育てでは、「経済的支援（48.6%）」と「公共交通による通学手段の確保（48.6%）」が同率で最も重要視されています。

(6) 教育環境について（詳細：P74～）

町の教育施策に対する評価は、「わからない」が42.3%と最も多く、施策の認知度や効果の実感が不足している可能性が示唆されます

基礎学力向上のための取り組みとしては、「英語、プログラミング教育の充実（23.3%）」と「教員の支援体制の強化（19.0%）」が特に求められています。

食育の現状については「わからない」が43.9%と高い一方で、41.9%は一定の充実を感じています。推進に必要な取り組みとして、「学校給食を通じた食材や産地などの食育学習の充実（28.3%）」と「地場産食材の活用（21.7%）」が挙げられました。

少子化対策としての小規模校対策（学校統合など）は58.5%が必要だと回答しており、必要性を感じている住民が多数です。

(7) 産業について（詳細：P89～）

町の産業振興で力を入れるべき分野は、「観光業（34.4%）」と「農業・林業（31.8%）」が上位を占めました。地域資源を活用した産業への関心が高いことがうかがえます。

(8) 移住や定住について（詳細：P92～）

回答者の30.8%が移住者でした。ときがわ町を移住先に選んだ理由として、「自然環境が豊かだから（54.0%）」と「住宅や土地が取得しやすいから（38.0%）」が主な要因です。

ときがわ町に住み続けるために必要なこととして、「交通アクセス（公共交通や道路）の充実（72.6%）」が圧倒的に多く、次いで「商業施設（買い物や飲食店）の充実（31.0%）」、「医療・福祉サービスの充実（27.9%）」が求められています。

移住促進のために必要な支援は、「住居探し支援（41.7%）」、「補助金・助成金制度（31.0%）」、「就業支援（27.1%）」が上位でした。

(9) 防災について（詳細：P102～）

ハザードマップについては、「ハザードマップを見て、自宅付近の危険箇所を確認している」が 64.6%と最も多い一方、約 27%はハザードマップを知らないか見たことがない状況です。特に若年層（15～34 歳）では、半数以上がハザードマップを知らないか見たことがないとしています。

防災・減災対策として必要な取り組みは、「災害時の避難場所、避難所などの防災拠点の整備・機能強化（42.1%）」と「災害時の避難路やライフラインの整備・機能強化（40.7%）」が重視されています。また、「自力で避難できない人が速やかに避難できる、支え合いの仕組みづくり（28.9%）」も求められています。

(10) まちづくりの方向性について（詳細：P108～）

町の強みを活かす方法として、「自然環境を活かしてエコツーリズムや観光を促進する（28.9%）」が最も多く、次いで「地元産品や特産物をブランド化して販路を拡大する（12.6%）」が続きました。

人口減少対策としては、「企業誘致や若者が働ける場の創出（44.3%）」と「周辺都市への交通アクセス改善（40.5%）」が重視されています。また、「医療・福祉支援策の充実（22.7%）」、「商業施設の誘致など生活利便性の向上（20.4%）」、「出産・子育て支援策の充実（17.2%）」も上位に挙げられています。特に女性が交通アクセス改善や子育て支援を強く求めています。

前回調査との比較では、出産・子育て支援策の充実や若年層向け等の住宅供給などの回答が増加しています。

(11) 今後のまちづくりに対する意見・要望（自由記述）（詳細：P117～）

今後のまちづくりに関する自由記述では、以下の項目で多くの意見や要望が寄せられました。

【主な意見の概要】

1. 道路・交通環境の改善

- ・高齢者や学生を中心とした交通手段の確保（免許返納後や通学・通院時の移動）
- ・鉄道、バスや乗合タクシーの本数・利便性の改善要望
- ・鉄道アクセスの向上（八高線や明覚駅など）
- ・駅や主要施設までのアクセス強化
- ・狭い道の改善、通学路の安全対策
- ・サイクリングロードの整備、サイクリング来訪者のマナー向上

2. 生活環境・買い物・医療等の基盤整備

- ・空き家・水道・街灯・通信など生活インフラへの要望
- ・コンビニ・スーパー等の店舗減少への不安（移動販売、ネットスーパー等の拡充）
- ・医療機関の整備不足（町内での診療体制の充実）
- ・太陽光パネルの設置による景観や環境への影響、自然保護とのバランス

3. 住宅・移住の受け皿整備

- ・空き家活用と空き家バンクの改善、物件情報の発信強化
- ・若年層・移住希望者が希望する住宅の不足（低価格賃貸・新築志向への対応）
- ・地主の高齢化に伴う土地活用の促進

4. 産業・雇用：農林業支援と地域資源の活用

- ・林業支援の拡充（担い手育成、収益化、国・県の支援）
- ・農業体験や小規模な起業支援、ワーケーションの場づくり
- ・空き地・休耕地の活用と地場産業の育成

5. 子育て・教育：支援強化と将来への投資を求める声

- ・給食の質・費用、LGBTQ 配慮、通学環境など教育内容への改善要望
- ・学童・児童館、遊び場・公園の整備要望（子どもの居場所不足）
- ・若い世代が戻ってきたい子育て支援の強化

6. にぎわいづくり・観光

- ・自然体験（ホテル・川遊び・昆虫観察）や道の駅整備などのソフト／ハード提案
- ・空き家を活用した宿泊施設や店舗誘致、観光資源の磨き上げ
- ・ただし、「観光偏重」や「治安悪化」などへの懸念、バランスを求める意見も

7. コミュニティと情報発信

- ・住民同士の交流の場や世代間・旧新住民間のギャップ解消
- ・外国人との共生、自治会の担い手不足など地域コミュニティが課題
- ・町の魅力や政策を広く伝える工夫（SNS・看板・若者参画の推進）

3 町の住みやすさ・定住意向について

(1) ときがわ町の住みやすさ [単回答]

質問8 ときがわ町は住みやすい町だと思いますか。(1つ選んで○)

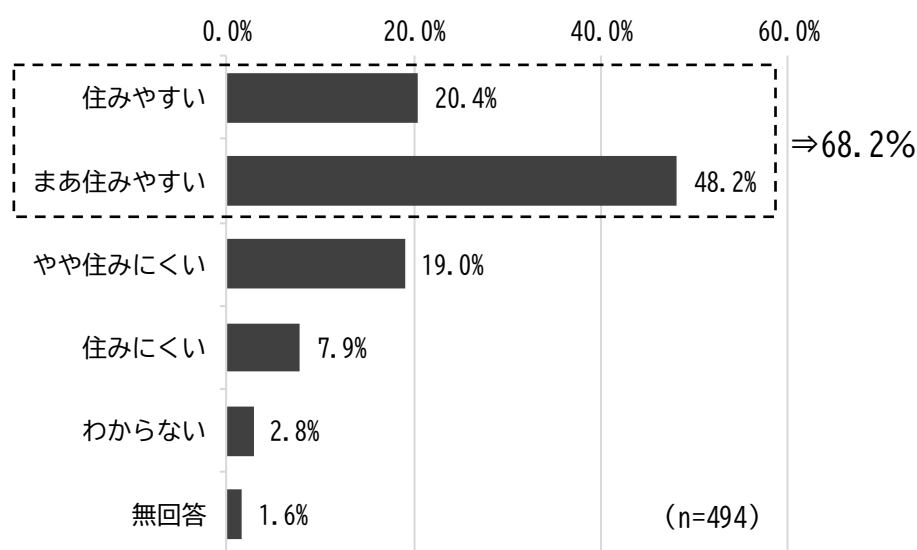
全体では、「住みやすい」が20.4%、「まあ住みやすい」が48.2%となっており、合わせて68.2%が肯定的な回答となっています。

属性ごとのクロス集計結果をみると、男女差では大きな差がみられない一方で、年齢別や居住年数別の一部では、「住みにくい（やや住みにくい）」とする割合が高い属性もあります。

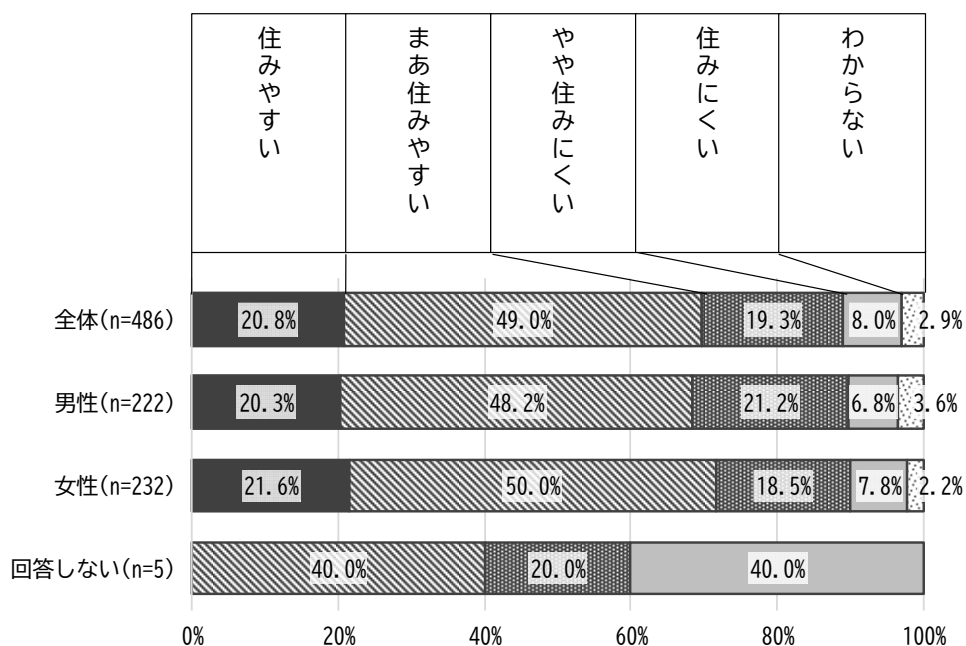
【年齢別】15歳～34歳（36.7%）、35歳～49歳（35.7%）

【居住年数別】5年以上10年未満（35.3%）、10年以上20年未満（43.4%）

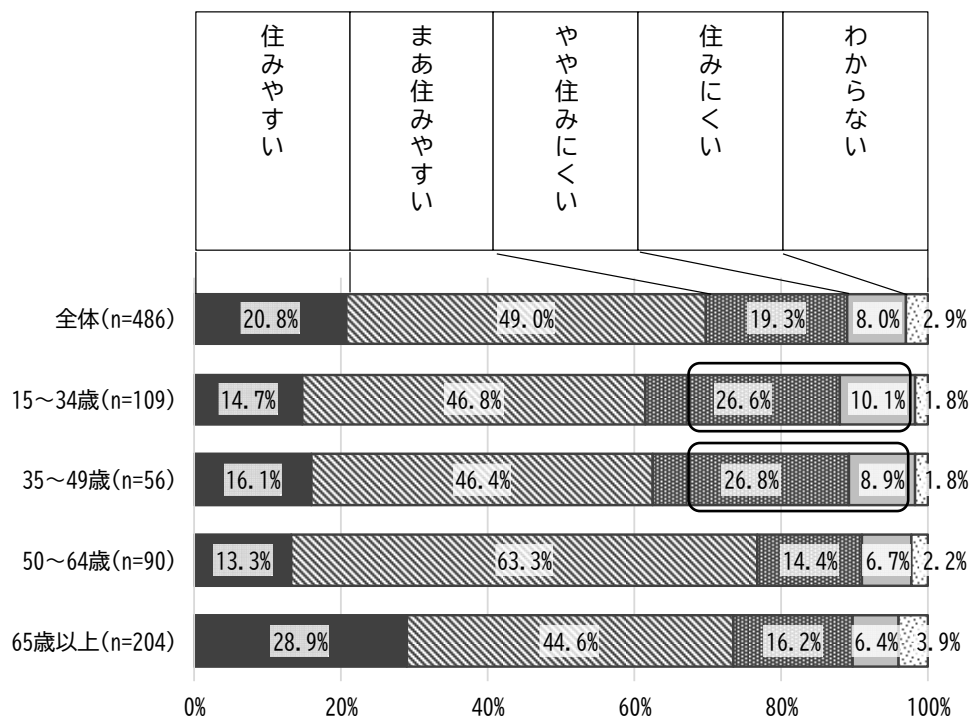
【全体】



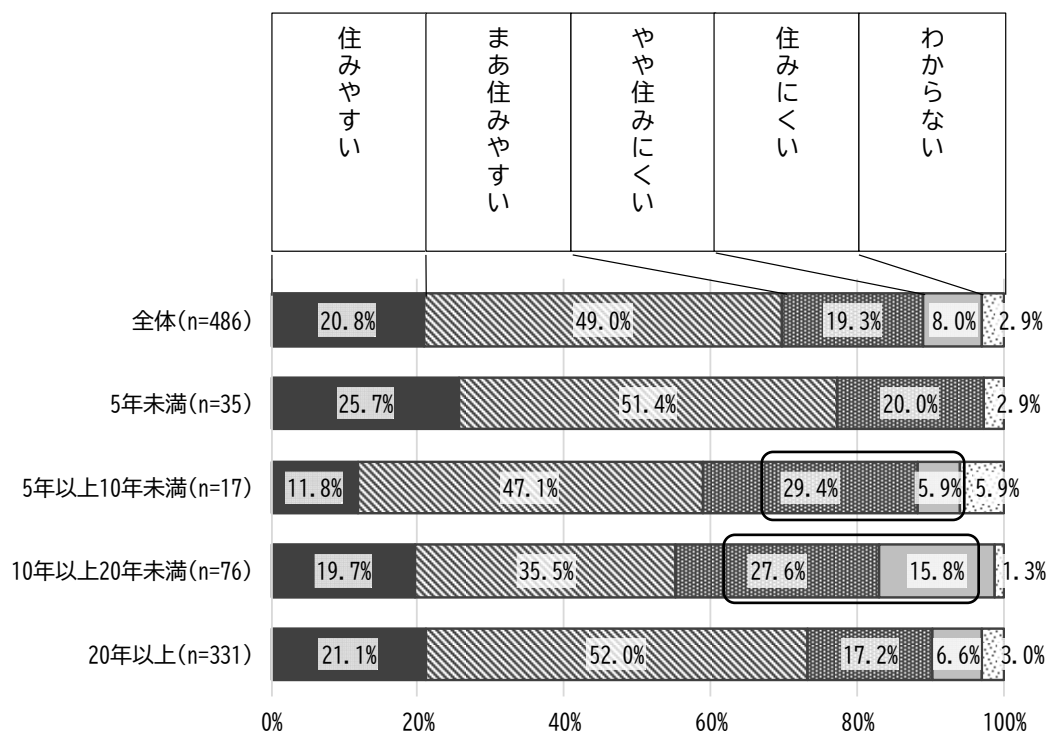
【性別】



【年齢別】

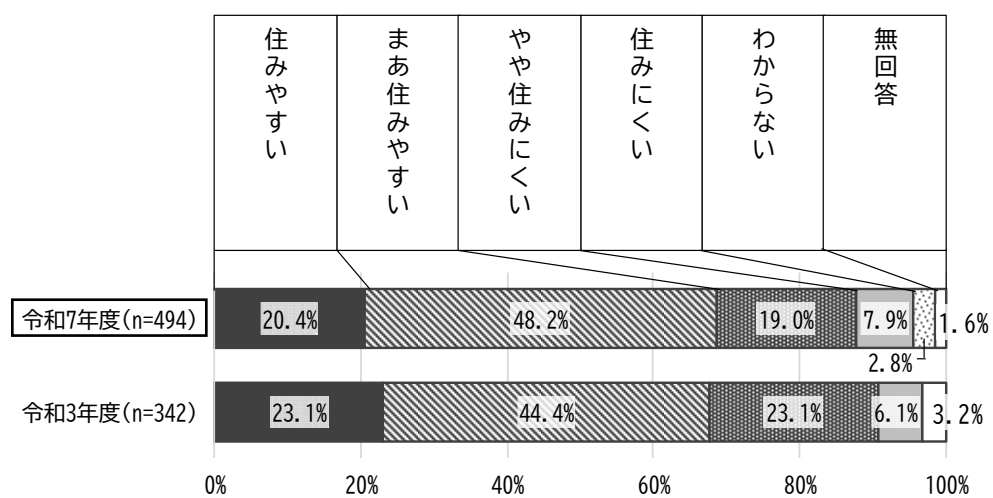


【居住年数別】



【前回調査との比較】

前回調査との比較では、回答の傾向に大きな変化はみられませんでした。



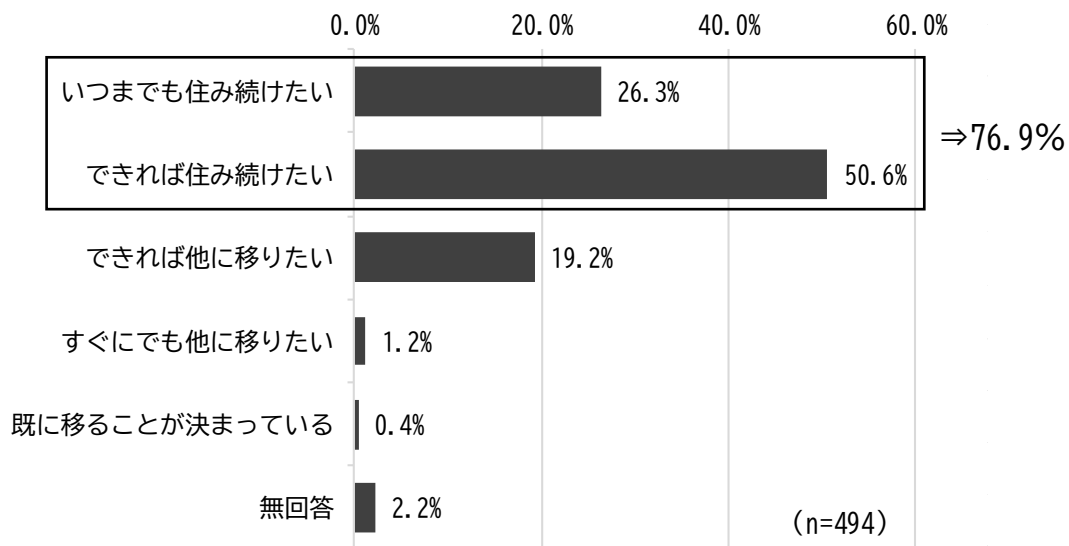
(2) ときがわ町での居住意向 [単回答]

質問 9 ときがわ町に住み続けたいと思いますか。(1つ選んで○)

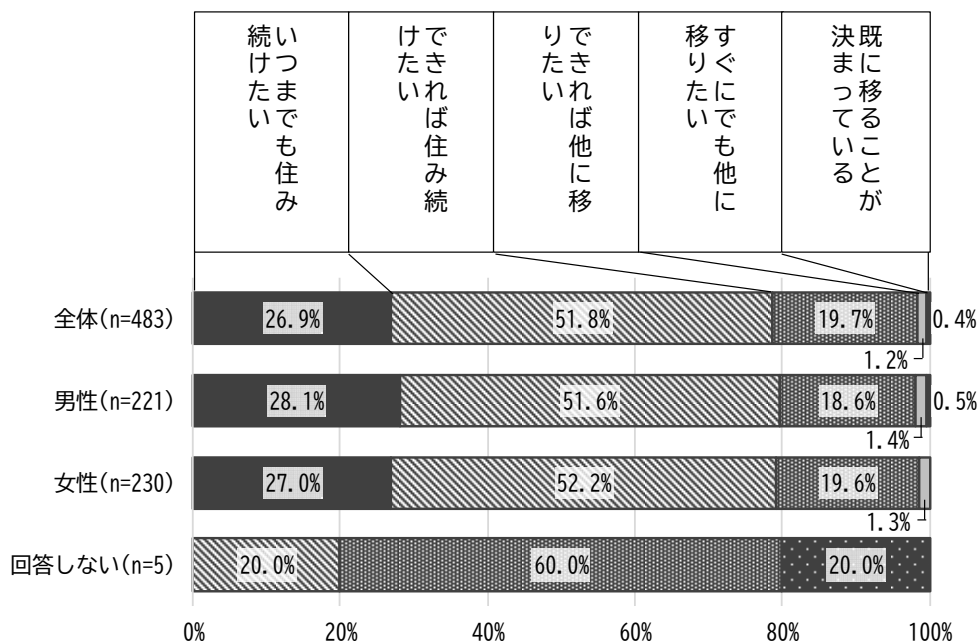
全体では、「いつまでも住み続けたい」26.3%、「できれば住み続けたい」50.6%、合わせた割合が76.9%となり、居住継続意欲は高い傾向となっています。

属性ごとのクロス集計結果をみると、男女差では大きな差がみられない一方で、年齢別や居住年数別の一部では、「いつまでも住み続けたい」の割合が低く、「できれば他に移りたい」の割合が高い属性もあります。【年齢別】15歳～34歳【居住年数別】10年以上20年未満

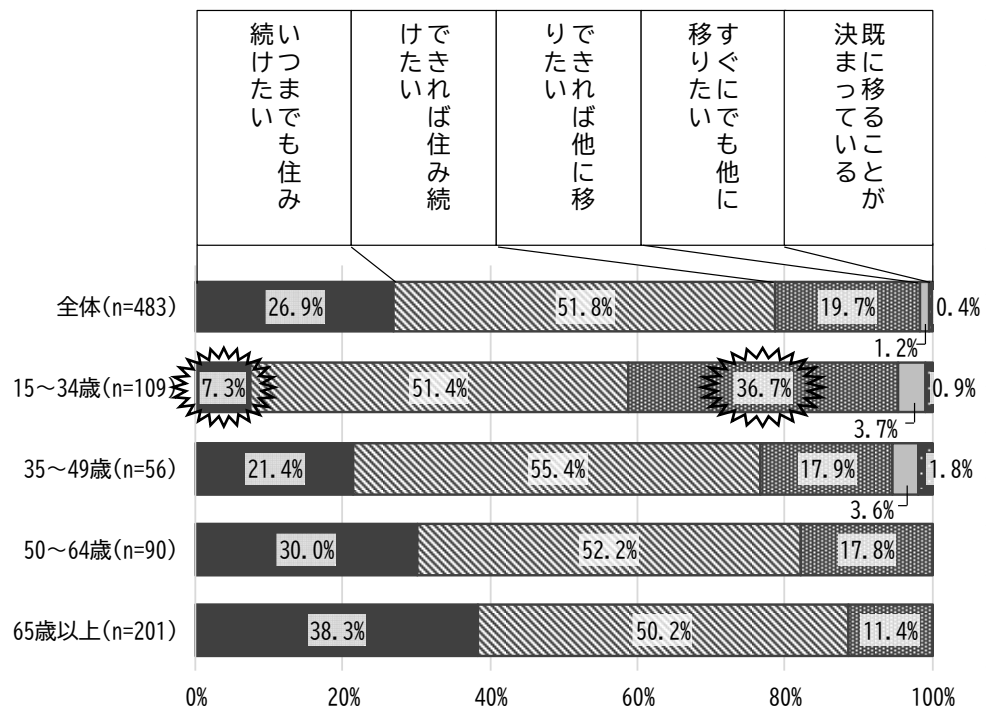
【全体】



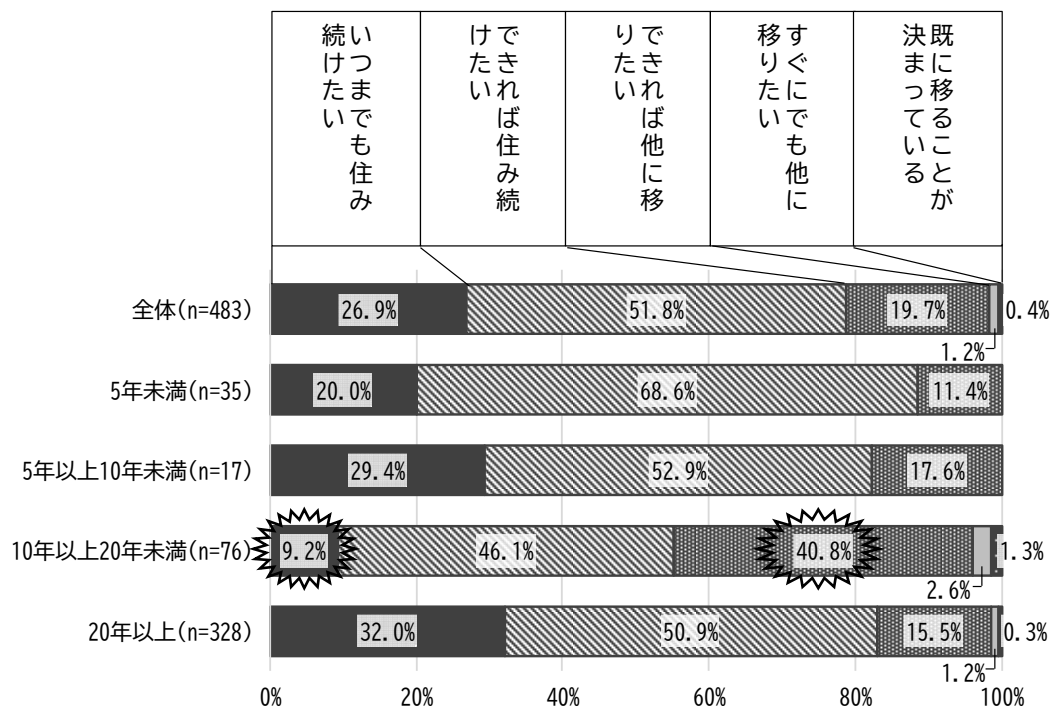
【性別】



【年齢別】



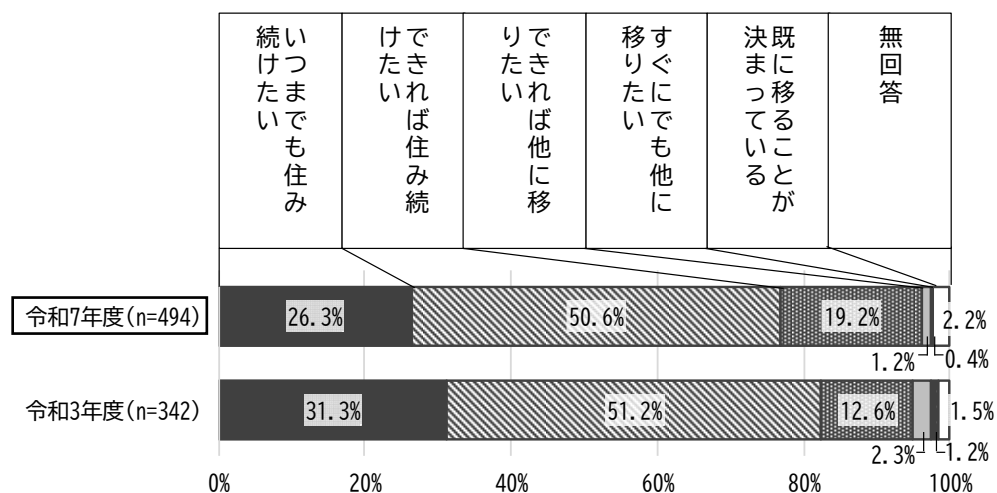
【居住年数別】



【前回調査との比較】

居住継続意向である「いつまでも住みたい」と「できれば住みたい」の回答割合は、前回調査の 82.5%から 5.6 ポイント減少し、76.9%となっています。

一方で転出意向の「できれば他に移りたい」や「既に移ることが決まっている（※）」の割合は、前回の 14.9%から 5.5 ポイント増加し、20.4%となっています。



※前回調査（令和 3 年度）と本調査（令和 7 年度）では次のとおり選択肢を変更している。

令和 3 年度：近いうちに他へ移ることが決まっている

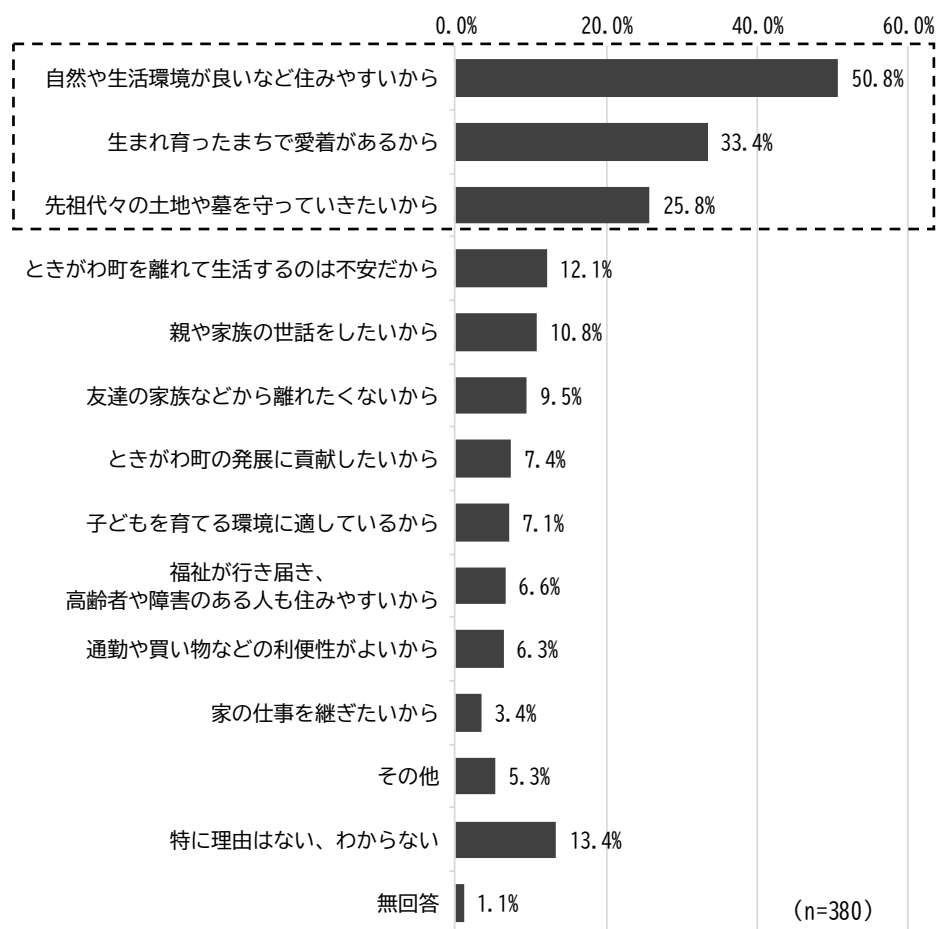
令和 7 年度：既に移ることが決まっている

(3) ときがわ町に住み続けたい理由〔複数回答〕

質問 10 問 9 で「いつまでも住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と回答した方にお聞きします。
 あなたが住み続けたいと思う理由を教えてください。（3 つまで選んで○）

全体では、「自然や生活環境が良いなど住みやすい」50.8%、「生まれ育ったまちで愛着がある」33.4%、先祖代々の土地や墓を守っていききたい」25.8%が主な理由となっています。

【全体】



【性別・年齢別・居住年数別】

クロス集計では、次の属性の比率が他と比べて高い傾向となっています。

〔子育て環境〕 35～49 歳（25.6%）、居住 5 年未満（29.0%）

〔先祖代々の土地や墓〕 男性（31.4%）、65 歳以上（37.7%）、居住 20 年以上（34.9%）

〔まちへの愛着〕 男性（41.7%）、15～34 歳（50.0%）、居住 20 年以上（39.4%）

〔町を離れるのが不安〕 女性（17.2%）、15 歳～34 歳（12.5%）、65 歳以上（17.7%）

〔町の発展に貢献したい〕 35 歳～49 歳（20.9%）、居住 5 年未満（22.6%）

		家の仕事を継ぎたいから	親や家族の世話をしたいから	友達や家族などから離れたくない	通勤や買い物などの利便性がよいから	福祉が行き届き、高齢者や障害のある人も住みやすいから	子どもを育てる環境に適しているから	先祖代々の土地や墓を守りたいから	自然や生活環境が良いなど住みやすいから	生まれ育ったまちで愛着があるから	ときがわ町を離れて生活するのは不安だから	ときがわ町の発展に貢献したいから	その他	特に理由はない、わからない
全体(n=376)		3.5%	10.9%	9.6%	6.4%	6.6%	7.2%	26.1%	51.3%	33.8%	12.2%	7.4%	5.3%	13.6%
性別	男性(n=175)	4.6%	11.4%	8.0%	8.6%	2.3%	8.6%	31.4%	51.4%	41.7%	7.4%	10.9%	5.1%	11.4%
	女性(n=180)	1.7%	10.0%	11.1%	4.4%	10.6%	6.1%	22.2%	51.1%	24.4%	17.2%	3.9%	5.6%	15.6%
	回答しない(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
年齢	15～34歳(n=64)	3.1%	12.5%	14.1%	9.4%	1.6%	9.4%	1.6%	50.0%	50.0%	12.5%	9.4%	1.6%	15.6%
	35～49歳(n=43)	2.3%	18.6%	7.0%	7.0%	0.0%	25.6%	9.3%	62.8%	32.6%	2.3%	20.9%	4.7%	9.3%
	50～64歳(n=74)	4.1%	14.9%	6.8%	8.1%	2.7%	5.4%	32.4%	47.3%	24.3%	5.4%	2.7%	8.1%	12.2%
	65歳以上(n=175)	2.9%	6.3%	9.7%	4.6%	11.4%	2.9%	37.7%	50.9%	30.9%	17.7%	5.7%	5.7%	14.3%
居住年数	5年未満(n=31)	0.0%	9.7%	6.5%	6.5%	3.2%	29.0%	0.0%	64.5%	3.2%	0.0%	22.6%	9.7%	12.9%
	5年以上10年未満(n=14)	0.0%	14.3%	14.3%	7.1%	0.0%	21.4%	7.1%	64.3%	7.1%	7.1%	0.0%	7.1%	14.3%
	10年以上20年未満(n=42)	0.0%	2.4%	11.9%	16.7%	4.8%	11.9%	0.0%	69.0%	23.8%	7.1%	7.1%	4.8%	14.3%
	20年以上(n=269)	4.1%	11.9%	9.3%	4.8%	7.4%	3.3%	34.9%	46.5%	39.4%	14.9%	6.3%	4.8%	13.4%

【前回調査との比較】

前回調査との比較では、次の項目で変化がみられました。

【増加】福祉が行き届き、高齢者や障害のある人も住みやすい（3.2%⇒6.6%）

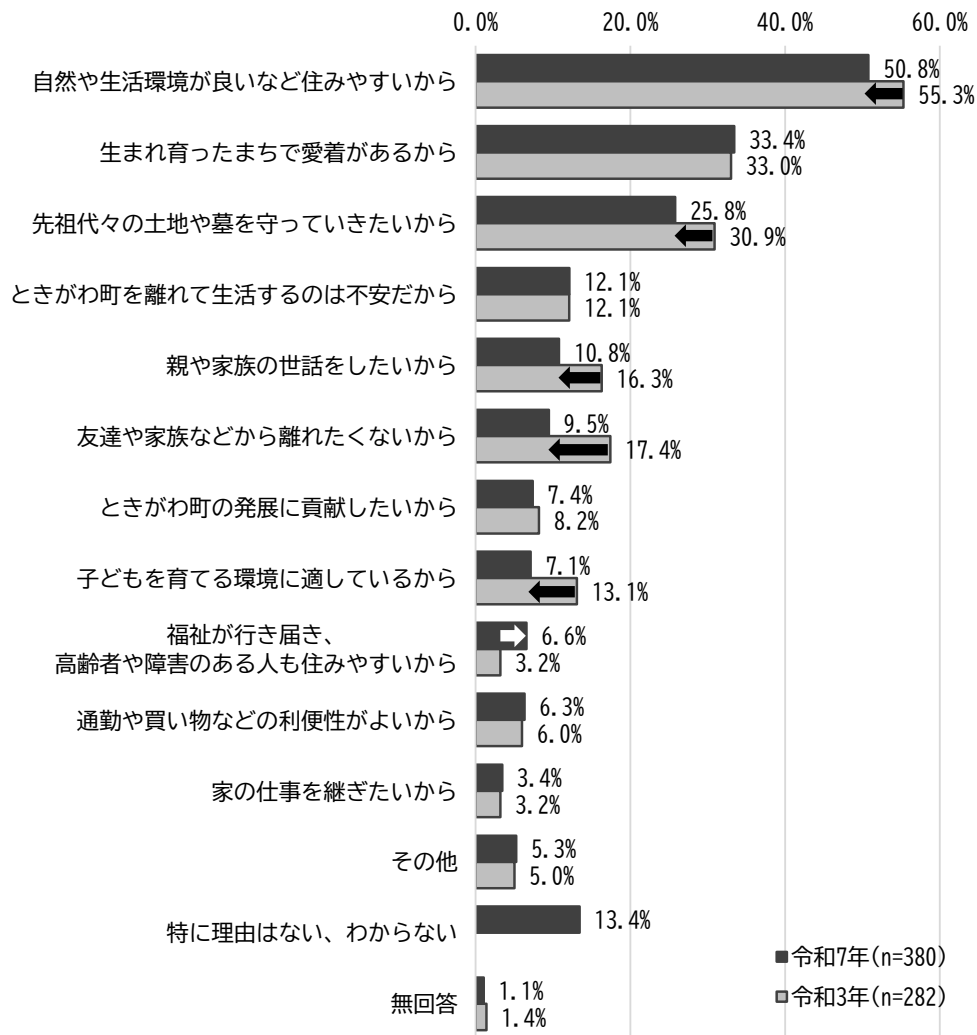
【減少】自然や生活環境が良いなど住みやすい（55.3%⇒50.8%）

先祖代々の土地や墓を守っていききたい（30.9%⇒25.8%）

親や家族の世話をしたい（16.3%⇒10.8%）

友達や家族などから離れたくない（17.4%⇒9.5%）

子どもを育てる環境に適している（13.1%⇒7.1%）



※「特に理由はない、わからない」は今回調査から追加した。

〈その他の回答〉

家を建てた/持ち家がある。	6
引越する資金がない。	2
自然豊かだから。	1
交通の便はやや不便ですが、閑静で自然豊かな西側の山村エリアへの車でのアクセスも良いので車の免許を返納する迄は住み続けたいと思います。	1
東京に行くにも、埼玉を観光するにも、全ての真ん中に位置してるので住みやすいし、自然がある。秩父が気に入ってるがそこにも行きやすい。	1
ときがわ町を守りたいから。	1
他に移るとい生活の変化が想像できない。	1
学校を変えるのが面倒くさい。	1
医療の充実。	1
現在 84 才なので今の所何んとか生活しているが村内の施設へお世話になりたい。	1
近所の方々が良い方たちだから。	1
老人になったので。	1
できれば住みつづけたいが、質問 11 の 4 の問題があると思っている。	1
子どもの帰ってくる場所だから。	1

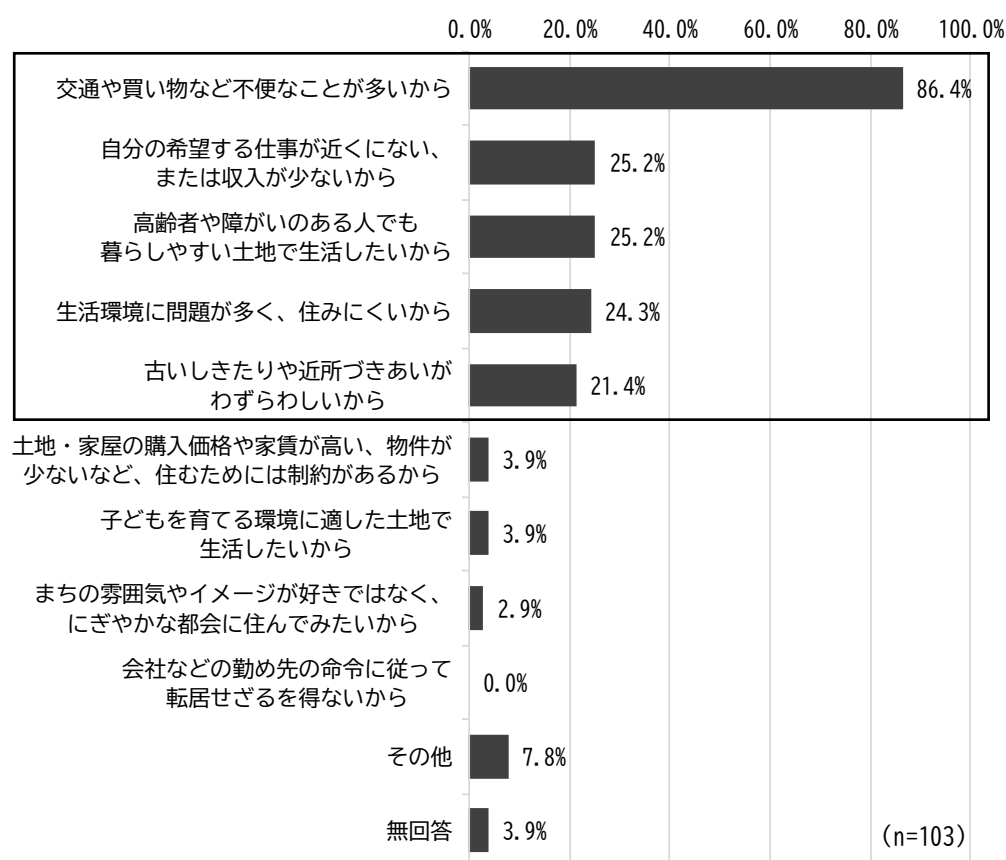
(4) ときがわ町に住み続けたくない理由〔複数回答〕

問 11 問 9 で「できれば他に移りたい」「すぐにでも他に移りたい」「既に移ることが決まっている」と回答した方にお聞きします。

あなたが住み続けたくないと思う理由を教えてください。（3 つまで選んで○）

全体では、「交通や買い物など不便なことが多い」86.4%が最も多くなっており、次いで「希望する仕事が近くにない、または収入が少ない」25.2%、「高齢者や障がい者でも暮らしやすい土地で生活したい」25.2%、「生活環境に問題が多い」24.3%、「古いしきたりや近所づきあいがわずらわしい」21.4%の順となっています。

【全体】



【性別・年齢別・居住年数別】

クロス集計では、次の属性の比率が他と比べて高い結果となっています。

〔希望する仕事・収入〕 15～34 歳（34.9%）

〔住宅購入・家賃など〕 35～49 歳（25.0%）

〔暮らしやすい土地〕 65 歳以上（63.6%）

〔生活環境の問題〕 65 歳以上（40.9%）

		い、自分の希望する仕事がないから	多い交通や買い物など不便なことが	古いしきたりや近所づきあいが	高い土地・家屋の購入価格や家賃がために物件が少ないから	子どもを育てる環境に適した土地で生活したいから	暮らしやすい土地で生活したいから	生活環境に問題が多く、住みにくいから	まちなぎやイメージが好きな都会に住みたいから	会社などの勤め先の命令に従って転居せざるを得ないから	その他
全体(n=99)		26.3%	89.9%	22.2%	4.0%	4.0%	26.3%	25.3%	3.0%	0.0%	8.1%
性別	男性(n=42)	33.3%	88.1%	28.6%	7.1%	2.4%	23.8%	23.8%	2.4%	0.0%	7.1%
	女性(n=48)	22.9%	93.8%	12.5%	2.1%	4.2%	31.3%	29.2%	2.1%	0.0%	8.3%
	回答しない(n=3)	0.0%	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	15～34歳(n=43)	34.9%	88.4%	11.6%	2.3%	2.3%	0.0%	23.3%	2.3%	0.0%	9.3%
	35～49歳(n=12)	25.0%	100.0%	25.0%	25.0%	8.3%	25.0%	33.3%	8.3%	0.0%	0.0%
	50～64歳(n=16)	25.0%	81.3%	25.0%	0.0%	6.3%	50.0%	6.3%	0.0%	0.0%	12.5%
	65歳以上(n=22)	13.6%	95.5%	31.8%	0.0%	0.0%	63.6%	40.9%	0.0%	0.0%	9.1%
居住年数	5年未満(n=3)	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%
	5年以上10年未満(n=3)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	10年以上20年未満(n=33)	30.3%	87.9%	12.1%	6.1%	6.1%	21.2%	33.3%	3.0%	0.0%	6.1%
	20年以上(n=54)	27.8%	92.6%	27.8%	3.7%	0.0%	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	9.3%

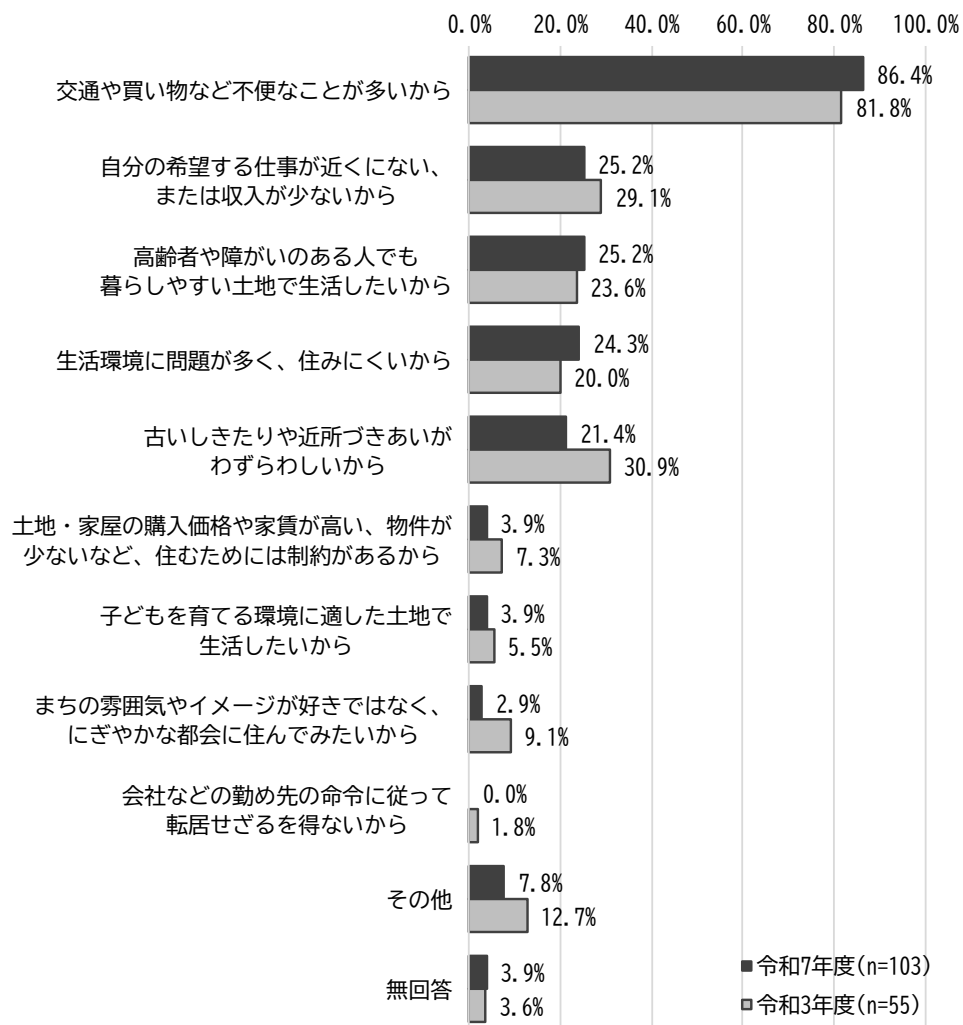
【前回調査との比較】

最も多く選ばれた理由は、「交通や買い物など不便なことが多い」で 86.4%となっており、前回調査（81.8%）から 4.6 ポイント増加しています。

また、「生活環境に問題が多く、住みにくいから」は 20.0%から 24.3%と 4.3 ポイント増加しています。同様に、「高齢者や障がい者でも暮らしやすい土地で生活したい」は 23.6%から 25.2%と 1.6 ポイント増加しています。

一方、「自分の希望する仕事が近くない、または収入が少ない」は 29.1%から 25.2%、「古いしきたりや近所づきあいがわずらわしい」は 30.9%から 21.4%と、それぞれ減少となっています。

全体として、交通・買い物の不便さに加え、生活環境や福祉に対する課題意識が高まっており、住民の転出意向に影響していると推察されます。



〈その他の回答〉

結婚し互いの勤務先の間に住む為
結婚相手の仕事場が遠いため
もう少し栄えた場所に行きたい
生まれ育った町で大好きだけど、違う所にも住んで見たいと思うから。
なんとなく、ほかのところに住んでみたいから
他に住みたいと思っている地域があるから
6の人が相談先がわからず交通が不便で役場まで行けない
車がないと生活が不便。駅を作ってほしい。
子供がいない自分としては老後一人で暮らしていくには無理がある
花粉が多い為
町制が保守的で町長が町民の声を聞いていると思えない。

4 後期基本計画の取り組み施策について

(1) 施策に対する満足度・重要度 [単回答]

問 12 あなたは、ときがわ町（行政）が行うサービス等について、現況どの程度満足していますか。また、今後の取り組みとしてどのくらい重要だと思いますか。
(それぞれ1つずつ選んで○)

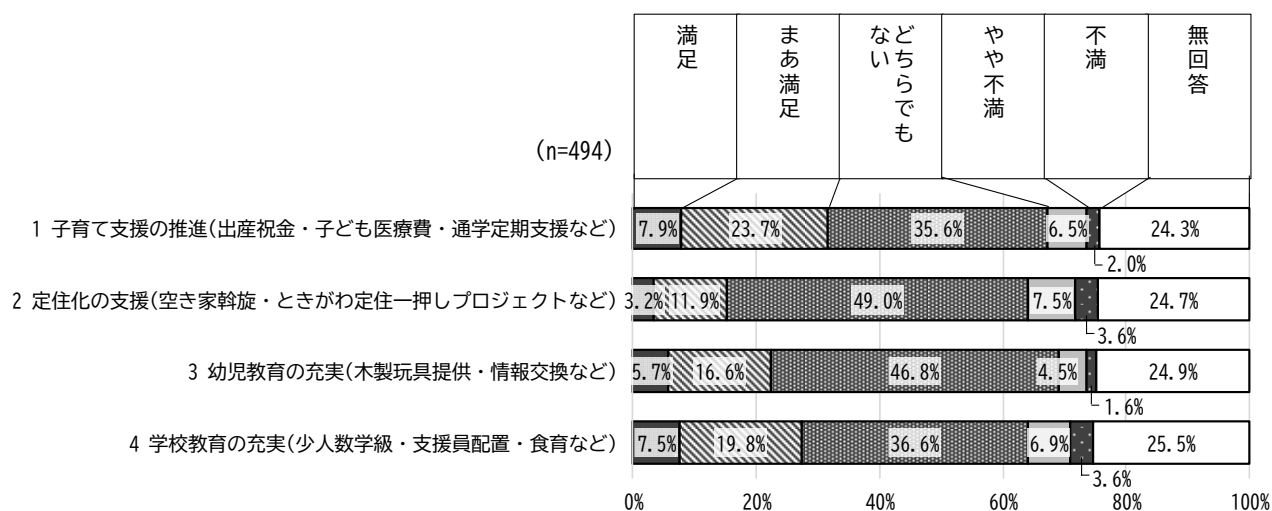
1) 現況の満足度

全体において、「満足」や「まあ満足」の割合が高い項目は次のとおりです。

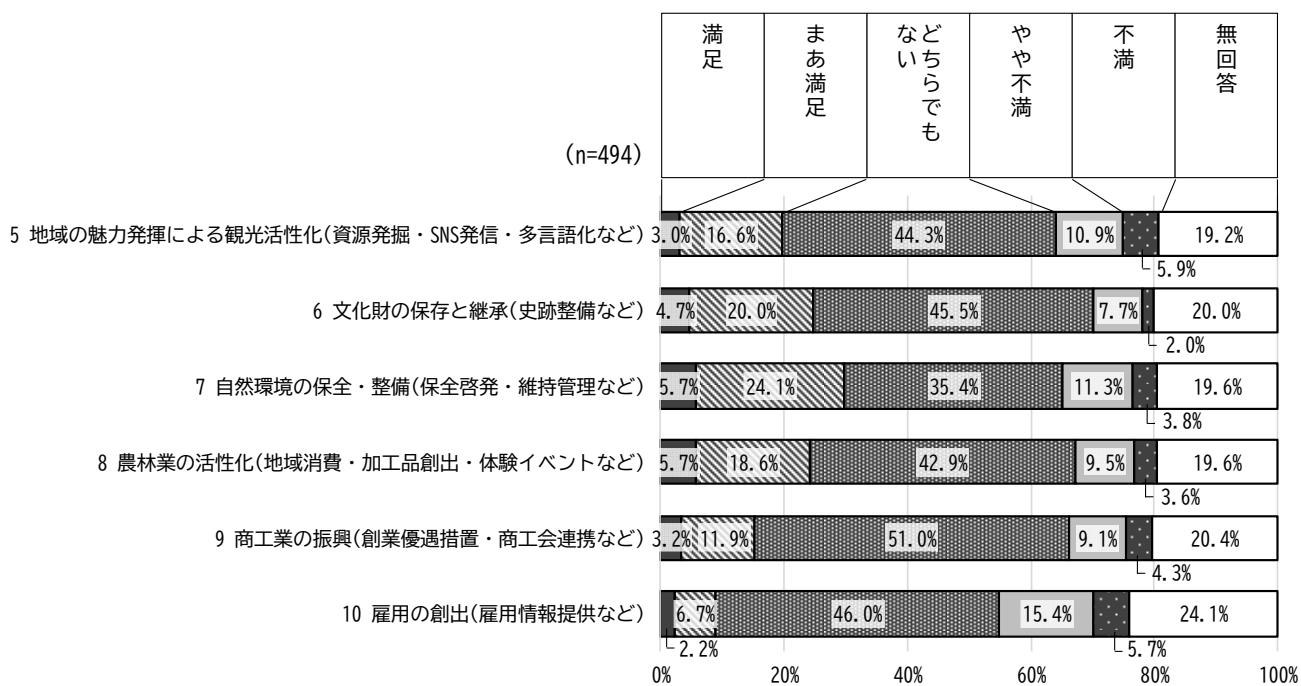
- 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：45.3% (満足・まあ満足の合算値)
- 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：36.2%
- 上水道の管理：34.0%

【全体】

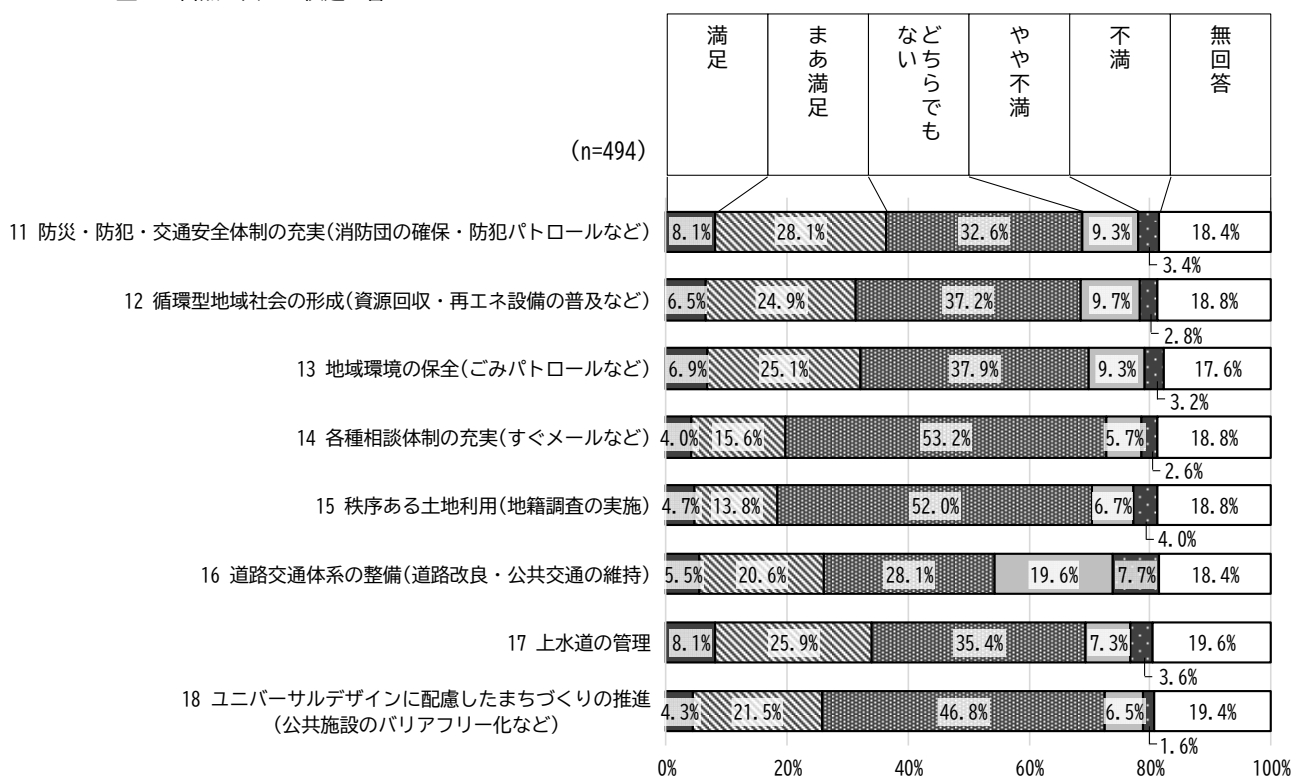
■ I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり



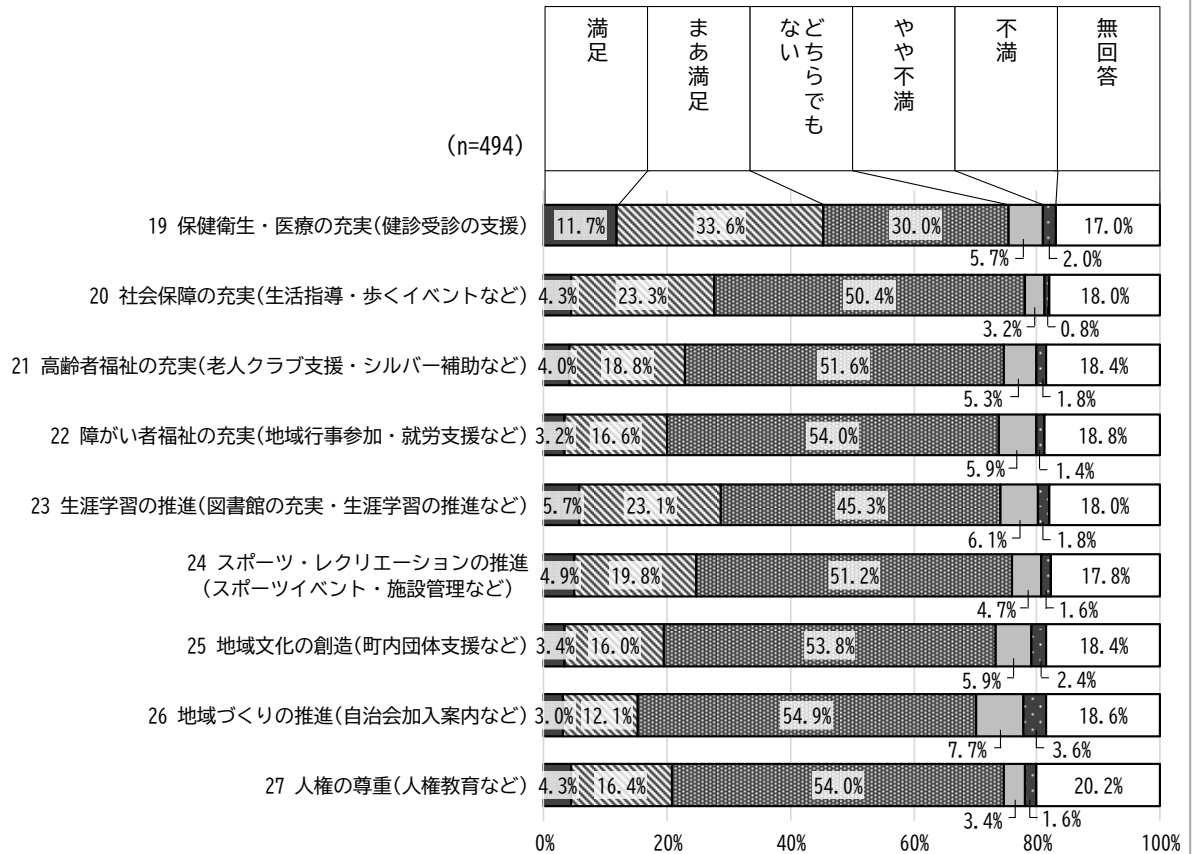
■Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり



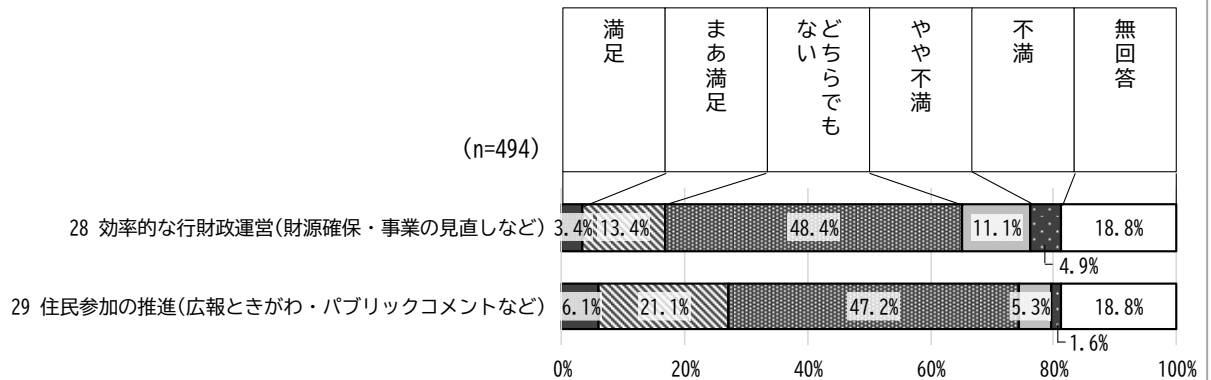
■Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり



■IVあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり



■V町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり



【年齢別】

若年層（15～34 歳）において、「満足」や「まあ満足」の割合が高い項目は次のとおりです。

- 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)：57.8%
- 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：56.7%
- 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：54.6%
- 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)：52.2%

◆年齢：15～34歳

		満足	まあ満足	いどちらでもな	やや不満	不満
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=93)	15.1%	31.2%	40.9%	9.7%	3.2%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=92)	6.5%	16.3%	70.7%	4.3%	2.2%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=93)	16.1%	26.9%	53.8%	1.1%	2.2%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=92)	25.0%	27.2%	38.0%	4.3%	5.4%
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=97)	6.2%	18.6%	53.6%	16.5%	5.2%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=97)	17.5%	28.9%	47.4%	6.2%	0.0%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=97)	22.7%	35.1%	28.9%	11.3%	2.1%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=97)	20.6%	30.9%	46.4%	2.1%	0.0%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=97)	12.4%	18.6%	62.9%	4.1%	2.1%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=96)	6.3%	12.5%	55.2%	21.9%	4.2%
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=97)	25.8%	30.9%	27.8%	12.4%	3.1%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=97)	16.5%	26.8%	45.4%	8.2%	3.1%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=97)	20.6%	23.7%	44.3%	9.3%	2.1%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=97)	11.3%	21.6%	60.8%	3.1%	3.1%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=97)	11.3%	21.6%	60.8%	3.1%	3.1%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=97)	15.5%	25.8%	26.8%	22.7%	9.3%
	17 上水道の管理(n=97)	19.6%	23.7%	46.4%	8.2%	2.1%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=97)	15.5%	28.9%	43.3%	11.3%	1.0%
Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=97)	17.5%	37.1%	36.1%	5.2%	4.1%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=97)	10.3%	25.8%	59.8%	3.1%	1.0%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=97)	9.3%	17.5%	68.0%	3.1%	2.1%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=97)	7.2%	22.7%	62.9%	6.2%	1.0%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=97)	14.4%	29.9%	45.4%	9.3%	1.0%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=97)	10.3%	29.9%	50.5%	8.2%	1.0%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=96)	9.4%	25.0%	61.5%	3.1%	1.0%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=96)	8.3%	16.7%	67.7%	4.2%	3.1%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=97)	11.3%	30.9%	50.5%	6.2%	1.0%
Ⅴ町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行財政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=97)	9.3%	15.5%	62.9%	10.3%	2.1%
	29 住民参加の推進(広報とときがわ・パブリックコメントなど)(n=97)	14.4%	22.7%	57.7%	5.2%	0.0%

【年齢別：35～49 歳】

中年層（35～49 歳）において、「満足」や「まあ満足」の割合が高い項目は次のとおりです。

- 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：39.6%
- 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：39.6%
- 地域環境の保全(ごみパトロールなど)：37.7%
- 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)：34.0%

一方で、「Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり」と「Ⅴ町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり」では、全ての項目において「不満」または「やや不満」とした割合が高くなっています。

■年齢：35～49歳

		満足	まあ満足	いどちらでもな	やや不満	不満
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=50)	14.0%	20.0%	50.0%	12.0%	4.0%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=49)	4.1%	8.2%	61.2%	14.3%	12.2%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=50)	4.0%	14.0%	66.0%	12.0%	4.0%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=50)	6.0%	14.0%	50.0%	20.0%	10.0%
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=53)	3.8%	11.3%	50.9%	20.8%	13.2%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=53)	1.9%	11.3%	64.2%	15.1%	7.5%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=53)	1.9%	18.9%	49.1%	22.6%	7.5%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=53)	1.9%	18.9%	47.2%	24.5%	7.5%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=53)	0.0%	13.2%	64.2%	7.5%	15.1%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=50)	0.0%	4.0%	60.0%	24.0%	12.0%
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=53)	1.9%	37.7%	43.4%	7.5%	9.4%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=53)	3.8%	18.9%	60.4%	11.3%	5.7%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=53)	0.0%	37.7%	50.9%	3.8%	7.5%
	14 各種相談体制の充実(すくメールなど)(n=53)	3.8%	13.2%	66.0%	7.5%	9.4%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=53)	1.9%	7.5%	71.7%	5.7%	13.2%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=53)	1.9%	22.6%	37.7%	22.6%	15.1%
	17 上水道の管理(n=53)	9.4%	18.9%	54.7%	5.7%	11.3%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=53)	0.0%	24.5%	66.0%	3.8%	5.7%
Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=53)	11.3%	28.3%	43.4%	11.3%	5.7%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=53)	3.8%	18.9%	69.8%	5.7%	1.9%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=53)	0.0%	18.9%	73.6%	3.8%	3.8%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=53)	0.0%	11.3%	71.7%	13.2%	3.8%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=53)	7.5%	17.0%	52.8%	15.1%	7.5%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=53)	5.7%	22.6%	64.2%	1.9%	5.7%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=53)	0.0%	11.3%	77.4%	5.7%	5.7%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=53)	0.0%	1.9%	77.4%	9.4%	11.3%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=53)	0.0%	13.2%	75.5%	5.7%	5.7%
Ⅴ町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=52)	0.0%	9.6%	55.8%	21.2%	13.5%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=53)	1.9%	18.9%	52.8%	15.1%	11.3%

【年齢別：50～64 歳】

熟年層（50～64 歳）において、「満足」や「まあ満足」の割合が高い項目は次のとおりです。

■保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：41.7%

■上水道の管理：36.7%

■子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)：36.4%

■年齢：50～64歳

		満足	まあ満足	いどちらでもな	やや不満	不満
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=77)	6.5%	29.9%	54.5%	6.5%	2.6%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=77)	2.6%	13.0%	70.1%	11.7%	2.6%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=77)	2.6%	18.2%	75.3%	2.6%	1.3%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=77)	1.3%	28.6%	59.7%	7.8%	2.6%
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=78)	1.3%	19.2%	62.8%	10.3%	6.4%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=76)	1.3%	25.0%	63.2%	6.6%	3.9%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=77)	0.0%	31.2%	51.9%	11.7%	5.2%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=77)	0.0%	23.4%	64.9%	7.8%	3.9%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=77)	0.0%	11.7%	68.8%	13.0%	6.5%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=75)	0.0%	8.0%	69.3%	14.7%	8.0%
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=77)	1.3%	29.9%	57.1%	9.1%	2.6%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=77)	0.0%	31.2%	51.9%	13.0%	3.9%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=78)	0.0%	25.6%	55.1%	14.1%	5.1%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=77)	1.3%	16.9%	75.3%	5.2%	1.3%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=77)	1.3%	10.4%	80.5%	7.8%	0.0%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=78)	1.3%	21.8%	41.0%	26.9%	9.0%
	17 上水道の管理(n=79)	6.3%	30.4%	48.1%	8.9%	6.3%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=77)	2.6%	28.6%	64.9%	2.6%	1.3%
Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=79)	10.1%	31.6%	46.8%	11.4%	0.0%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=78)	1.3%	28.2%	67.9%	2.6%	0.0%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=79)	2.5%	24.1%	64.6%	6.3%	2.5%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=77)	1.3%	22.1%	70.1%	6.5%	0.0%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=79)	3.8%	26.6%	65.8%	2.5%	1.3%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=79)	1.3%	21.5%	72.2%	2.5%	2.5%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=78)	1.3%	14.1%	73.1%	9.0%	2.6%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=79)	1.3%	12.7%	68.4%	8.9%	8.9%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=77)	2.6%	14.3%	81.8%	1.3%	0.0%
Ⅴ町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行財政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=77)	2.6%	15.6%	67.5%	10.4%	3.9%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=77)	1.3%	28.6%	66.2%	2.6%	1.3%

【年齢別：65 歳以上】

シニア層（65 歳以上）において「満足」や「まあ満足」の割合が高い項目は次のとおりです。

■保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）：64.6%

■上水道の管理：50.3%

■年齢：65歳以上

		満足	まあ満足	いどちらでもな	やや不満	不満
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=133)	6.8%	37.6%	45.1%	9.0%	1.5%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=132)	3.0%	20.5%	60.6%	12.1%	3.8%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=130)	4.6%	25.4%	59.2%	8.5%	2.3%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=128)	4.7%	31.3%	50.0%	10.2%	3.9%
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=151)	2.0%	25.8%	53.6%	12.6%	6.0%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=149)	2.7%	26.8%	58.4%	10.1%	2.0%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=150)	2.0%	31.3%	46.7%	15.3%	4.7%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=150)	3.3%	19.3%	55.3%	16.0%	6.0%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=146)	2.1%	13.0%	63.7%	17.1%	4.1%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=135)	3.0%	8.1%	60.0%	20.7%	8.1%
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=156)	6.4%	39.1%	37.2%	13.5%	3.8%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=154)	8.4%	35.7%	38.3%	14.9%	2.6%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=159)	6.9%	35.8%	40.9%	13.8%	2.5%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=155)	3.2%	20.6%	64.5%	9.7%	1.9%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=154)	5.2%	21.4%	57.1%	12.3%	3.9%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=155)	3.9%	29.0%	36.1%	22.6%	8.4%
	17 上水道の管理(n=149)	6.0%	44.3%	36.9%	10.1%	2.7%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=152)	2.0%	25.0%	61.2%	9.9%	2.0%
IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=161)	13.7%	50.9%	29.2%	4.3%	1.9%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=157)	3.2%	33.8%	56.7%	5.1%	1.3%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=154)	3.9%	27.9%	56.5%	9.7%	1.9%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=154)	4.5%	20.1%	66.2%	6.5%	2.6%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=156)	3.2%	31.4%	57.7%	5.8%	1.9%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=157)	5.1%	22.9%	64.3%	6.4%	1.3%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=157)	3.2%	20.4%	63.7%	9.6%	3.2%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=155)	2.6%	18.1%	64.5%	13.5%	1.3%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=149)	4.0%	20.8%	69.1%	4.0%	2.0%
V 町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=155)	3.2%	18.7%	56.8%	14.8%	6.5%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=154)	5.8%	29.2%	58.4%	6.5%	0.0%

【定住意向別：住み続けたい】

質問9（定住意向）で「いつまでも住み続けたい」または「できれば住み続けたい」と回答した方のうち、「満足」や「まあ満足」の割合が高い項目は次のとおりです。

■保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：55.3%

■防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：46.4%

■定住意向：住み続けたい

		満足	まあ満足	いどちらでもな	やや不満	不満
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=303)	9.9%	33.0%	46.5%	8.3%	2.3%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=301)	4.3%	17.3%	64.5%	9.6%	4.3%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=300)	7.3%	22.7%	62.0%	6.3%	1.7%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=297)	7.7%	28.6%	50.8%	8.4%	4.4%
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=313)	3.8%	22.0%	55.6%	12.5%	6.1%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=309)	5.2%	25.2%	57.0%	10.7%	1.9%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=310)	6.1%	31.0%	44.2%	15.5%	3.2%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=311)	6.1%	23.2%	54.3%	12.5%	3.9%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=307)	4.2%	14.7%	64.5%	12.4%	4.2%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=291)	3.4%	9.6%	60.5%	20.6%	5.8%
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=315)	8.9%	37.5%	38.7%	10.8%	4.1%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=314)	8.0%	31.8%	46.2%	11.1%	2.9%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=319)	7.5%	33.2%	44.5%	11.0%	3.8%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=314)	5.7%	20.1%	65.0%	6.1%	3.2%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=314)	5.1%	18.5%	63.7%	8.6%	4.1%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=315)	6.3%	27.0%	34.3%	24.8%	7.6%
	17 上水道の管理(n=310)	8.7%	34.8%	42.9%	8.7%	4.8%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=312)	4.5%	26.9%	59.3%	7.7%	1.6%
IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=322)	14.0%	41.3%	35.7%	7.5%	1.6%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=318)	5.3%	30.2%	58.8%	4.7%	0.9%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=316)	4.7%	25.0%	61.1%	7.3%	1.9%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=314)	4.8%	20.7%	64.6%	8.6%	1.3%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=317)	6.9%	28.7%	55.5%	6.6%	2.2%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=319)	6.3%	24.8%	62.4%	4.7%	1.9%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=315)	3.8%	21.9%	63.8%	7.6%	2.9%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=316)	3.8%	15.2%	66.8%	10.4%	3.8%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=309)	5.5%	20.4%	69.3%	3.2%	1.6%
V 町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行財政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=314)	4.1%	16.9%	60.2%	13.4%	5.4%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=314)	7.6%	27.7%	56.4%	6.7%	1.6%

【定住意向別：移りたい】

質問9（定住意向）で「すぐにでも他に移りたい」や「できれば他に移りたい」、「既に移ることが決まっている」と回答した方のうち、「満足」や「まあ満足」の割合が高い項目は次のとおりです。

- 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：49.3%
- 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)：39.7%
- 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：38.0%

■定住意向：移りたい

		満足	まあ満足	いどちらでもな	やや不満	不満
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=68)	11.8%	25.0%	50.0%	8.8%	4.4%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=68)	4.4%	8.8%	67.6%	11.8%	7.4%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=68)	8.8%	19.1%	63.2%	4.4%	4.4%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=68)	20.6%	19.1%	39.7%	13.2%	7.4%
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=78)	3.8%	14.1%	53.8%	16.7%	11.5%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=79)	8.9%	22.8%	58.2%	6.3%	3.8%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=79)	11.4%	25.3%	44.3%	8.9%	10.1%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=78)	11.5%	25.6%	50.0%	7.7%	5.1%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=78)	3.8%	17.9%	62.8%	6.4%	9.0%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=77)	1.3%	6.5%	59.7%	19.5%	13.0%
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=79)	13.9%	24.1%	44.3%	12.7%	5.1%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=78)	9.0%	21.8%	47.4%	15.4%	6.4%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=79)	11.4%	20.3%	50.6%	12.7%	5.1%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=78)	2.6%	16.7%	66.7%	10.3%	3.8%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=78)	7.7%	9.0%	69.2%	6.4%	7.7%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=79)	7.6%	17.7%	35.4%	22.8%	16.5%
	17 上水道の管理(n=79)	12.7%	21.5%	50.6%	11.4%	3.8%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=79)	8.9%	24.1%	54.4%	8.9%	3.8%
IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=79)	13.9%	35.4%	39.2%	5.1%	6.3%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=78)	5.1%	19.2%	73.1%	1.3%	1.3%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=78)	5.1%	15.4%	71.8%	3.8%	3.8%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=78)	1.3%	20.5%	71.8%	2.6%	3.8%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=79)	7.6%	26.6%	51.9%	11.4%	2.5%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=78)	3.8%	23.1%	60.3%	10.3%	2.6%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=79)	5.1%	10.1%	74.7%	6.3%	3.8%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=77)	2.6%	11.7%	72.7%	5.2%	7.8%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=78)	3.8%	23.1%	60.3%	9.0%	3.8%
V 町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=78)	5.1%	14.1%	57.7%	14.1%	9.0%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=78)	6.4%	19.2%	64.1%	6.4%	3.8%

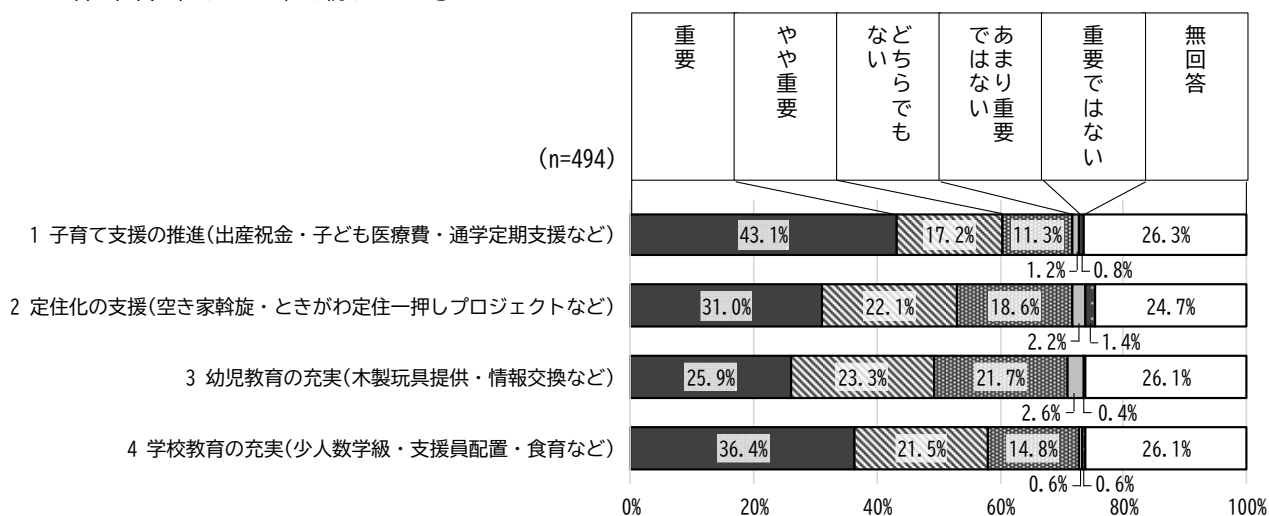
2) 今後の重要度

全体において、「重要」もしくは「やや重要」と回答された方が多い項目は次のとおりです。

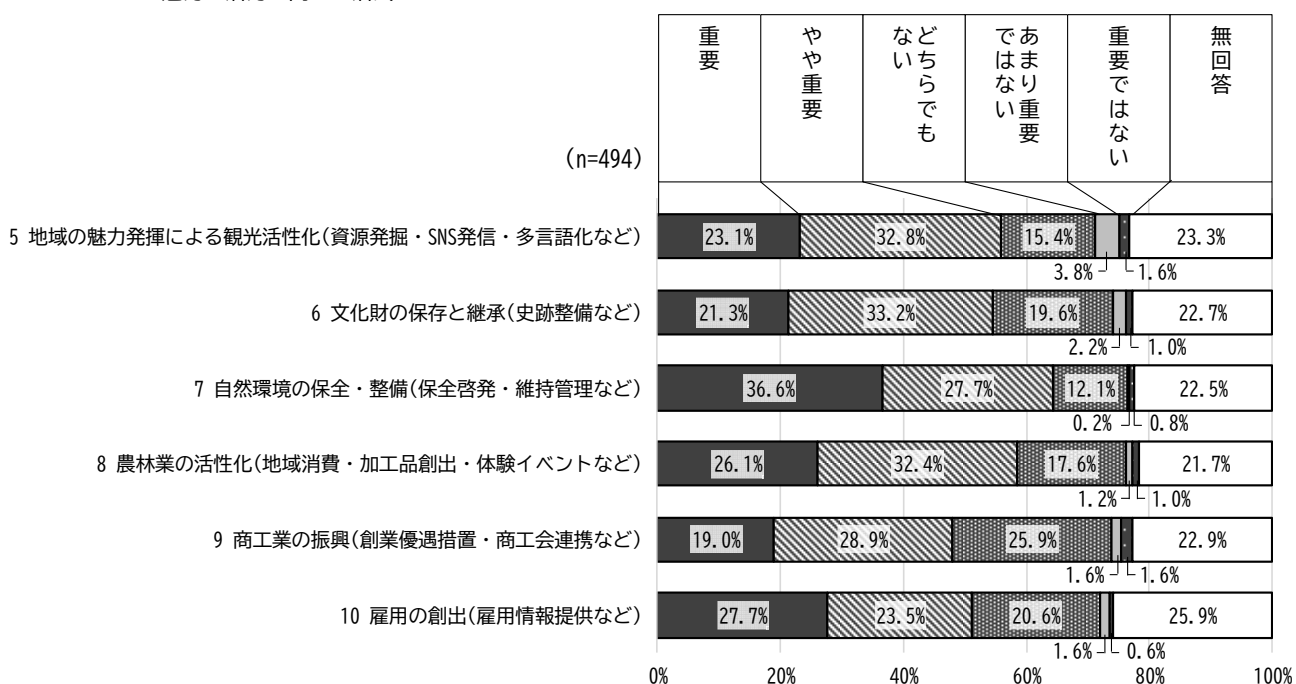
- 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)：66.2%
- 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：65.7%
- 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：65.2%
- 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)：64.3%

【全体】

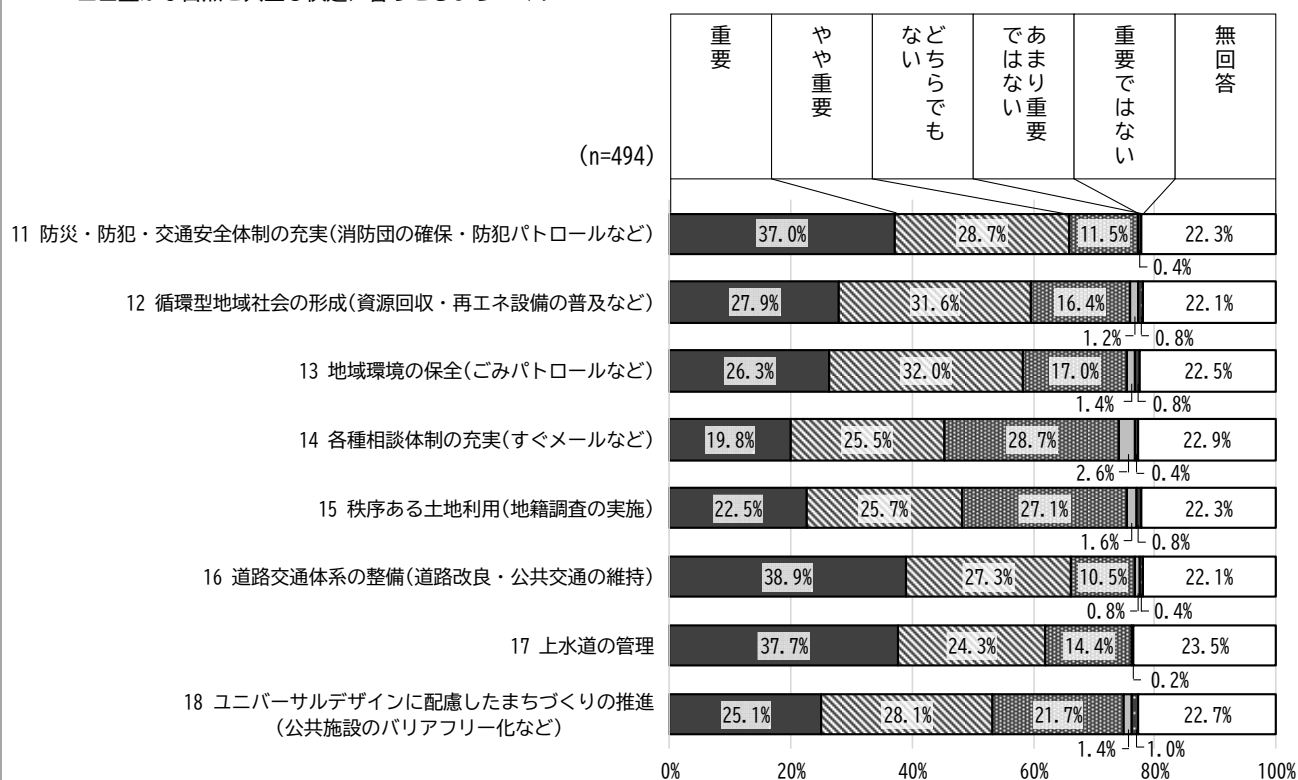
■ I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり



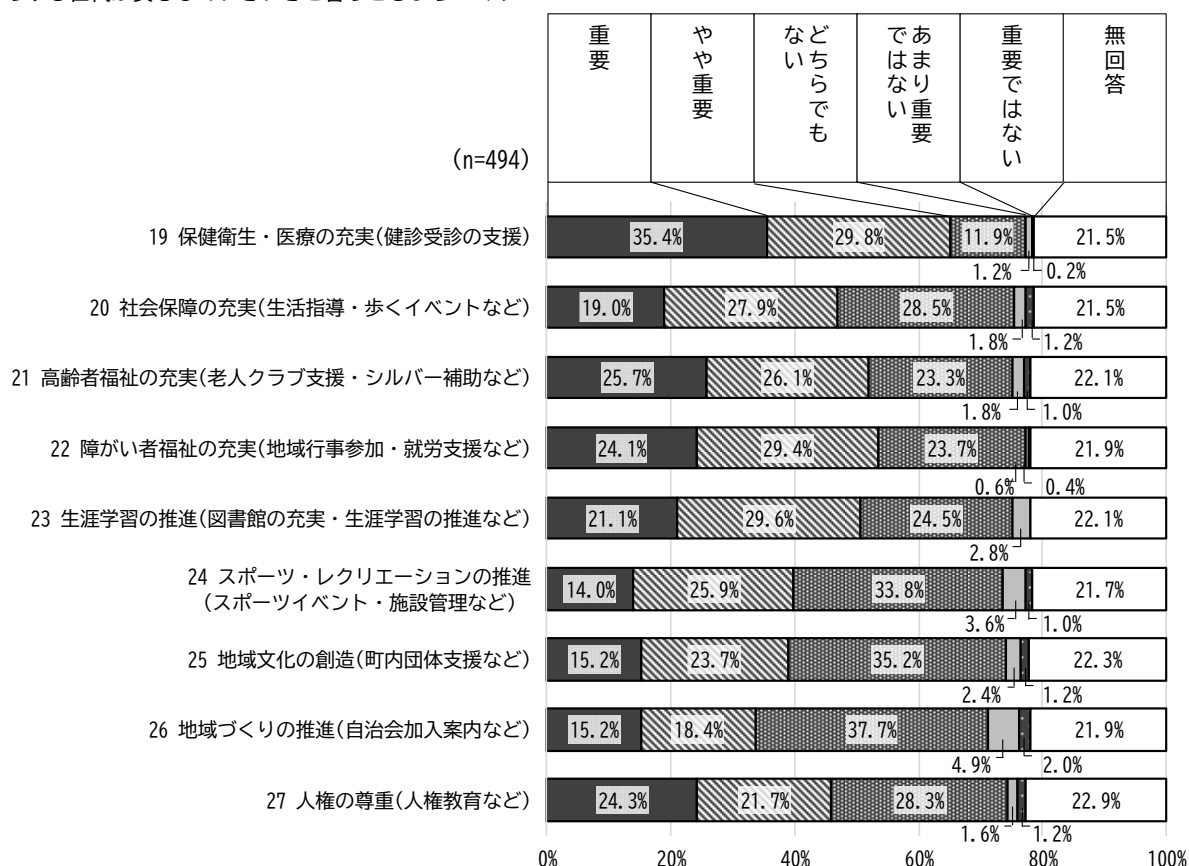
■ II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり



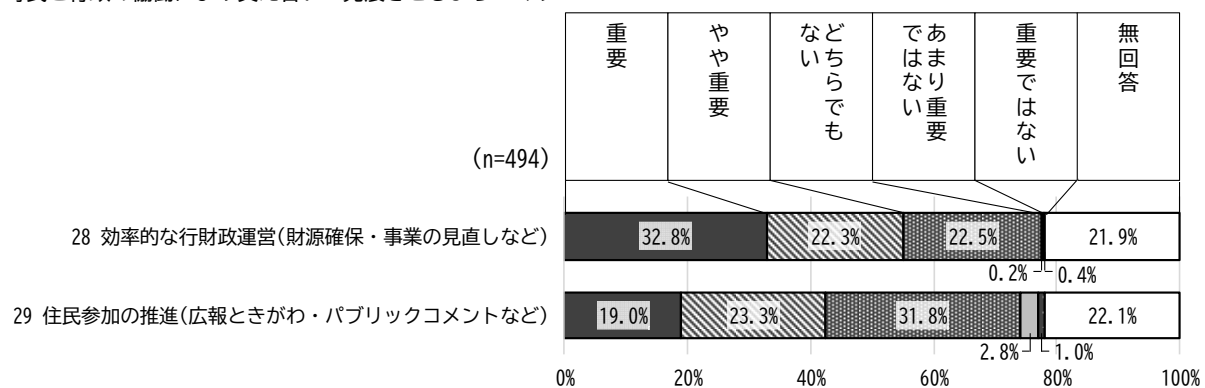
■Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり



■Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり



■V町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり



【年齢別：15～34 歳】

若年層（15～34 歳）において、「重要」もしくは「やや重要」と回答された方が多い項目は次のとおりです。

■子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)：89.2%

■自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)：88.6%

■道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)：87.7%

■年齢：15～34歳

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=93)	72.0%	17.2%	8.6%	1.1%	1.1%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=93)	39.8%	30.1%	25.8%	2.2%	2.2%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=92)	44.6%	30.4%	21.7%	2.2%	1.1%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=93)	62.4%	20.4%	15.1%	1.1%	1.1%
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=97)	42.3%	35.1%	17.5%	2.1%	3.1%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=96)	38.5%	39.6%	16.7%	2.1%	3.1%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=97)	60.8%	27.8%	9.3%	0.0%	2.1%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=97)	42.3%	38.1%	17.5%	0.0%	2.1%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=97)	32.0%	30.9%	34.0%	1.0%	2.1%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=96)	39.6%	22.9%	34.4%	1.0%	2.1%
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=97)	55.7%	27.8%	14.4%	0.0%	2.1%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=97)	48.5%	26.8%	19.6%	3.1%	2.1%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=97)	46.4%	30.9%	20.6%	0.0%	2.1%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=97)	30.9%	37.1%	23.7%	6.2%	2.1%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=97)	35.1%	30.9%	29.9%	2.1%	2.1%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=97)	58.8%	28.9%	9.3%	1.0%	2.1%
	17 上水道の管理(n=97)	49.5%	29.9%	19.6%	0.0%	1.0%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=97)	44.3%	32.0%	20.6%	2.1%	1.0%
IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=97)	49.5%	30.9%	16.5%	3.1%	0.0%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=97)	36.1%	29.9%	29.9%	3.1%	1.0%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=97)	44.3%	20.6%	29.9%	2.1%	3.1%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=97)	40.2%	33.0%	23.7%	2.1%	1.0%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=97)	44.3%	33.0%	18.6%	4.1%	0.0%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=97)	30.9%	38.1%	26.8%	4.1%	0.0%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=96)	29.2%	30.2%	36.5%	3.1%	1.0%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=96)	25.0%	18.8%	49.0%	5.2%	2.1%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=97)	50.5%	23.7%	22.7%	3.1%	0.0%
V 町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行財政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=97)	50.5%	23.7%	24.7%	1.0%	0.0%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=97)	33.0%	20.6%	39.2%	7.2%	0.0%

【年齢別：35～49 歳】

中年層（35～49 歳）において、「重要」もしくは「やや重要」と回答された方が多い項目は次のとおりです。

なお、「Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり」の各項目については、子育ての状況により回答結果に差異がみられます。（※次ページ参照）

- 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)：82.7%
- 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)：82.7%
- 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：80.8%

■年齢：35～49歳

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=49)	53.1%	18.4%	22.4%	4.1%	2.0%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=49)	44.9%	22.4%	24.5%	2.0%	6.1%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=49)	42.9%	16.3%	34.7%	6.1%	0.0%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=49)	57.1%	16.3%	24.5%	2.0%	0.0%
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=52)	30.8%	32.7%	17.3%	17.3%	1.9%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=52)	28.8%	30.8%	32.7%	7.7%	0.0%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=52)	50.0%	32.7%	17.3%	0.0%	0.0%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=52)	46.2%	30.8%	19.2%	3.8%	0.0%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=52)	30.8%	34.6%	30.8%	1.9%	1.9%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=49)	42.9%	32.7%	18.4%	6.1%	0.0%
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=52)	38.5%	38.5%	23.1%	0.0%	0.0%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=52)	25.0%	42.3%	26.9%	3.8%	1.9%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=52)	25.0%	40.4%	26.9%	5.8%	1.9%
	14 各種相談体制の充実(すくメールなど)(n=52)	25.0%	23.1%	44.2%	7.7%	0.0%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=52)	30.8%	23.1%	44.2%	1.9%	0.0%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=52)	55.8%	26.9%	13.5%	3.8%	0.0%
	17 上水道の管理(n=52)	48.1%	28.8%	23.1%	0.0%	0.0%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=52)	28.8%	21.2%	42.3%	1.9%	5.8%
Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=52)	40.4%	40.4%	15.4%	3.8%	0.0%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=52)	23.1%	26.9%	42.3%	5.8%	1.9%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=52)	30.8%	30.8%	34.6%	3.8%	0.0%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=52)	30.8%	32.7%	36.5%	0.0%	0.0%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=52)	36.5%	28.8%	26.9%	7.7%	0.0%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=52)	17.3%	28.8%	42.3%	9.6%	1.9%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=52)	21.2%	23.1%	44.2%	9.6%	1.9%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=52)	17.3%	13.5%	51.9%	9.6%	7.7%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=52)	30.8%	21.2%	44.2%	1.9%	1.9%
Ⅴ町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=51)	52.9%	23.5%	23.5%	0.0%	0.0%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=52)	30.8%	21.2%	36.5%	5.8%	5.8%

【年齢別：35～49 歳／子どもの人数：1 人以上】

子どもの人数が1人以上の方は、特に「子育て支援の推進」や「学校教育の充実」を重要とする割合が突出して多い結果となっています。

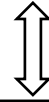
■子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)：88.5%

■学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)：80.8%

■年齢：35～49歳（子どもがいる方）

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=26)	76.9%	11.5%	11.5%	0.0%	0.0%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=26)	46.2%	26.9%	11.5%	3.8%	11.5%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=26)	50.0%	11.5%	30.8%	7.7%	0.0%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=26)	76.9%	3.8%	15.4%	3.8%	0.0%

※問 15（P57 参照）において実際の子どもの数が1人以上いると回答された方



■年齢：35～49歳（子どもがいない方）

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=23)	26.1%	26.1%	34.8%	8.7%	4.3%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=23)	43.5%	17.4%	39.1%	0.0%	0.0%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=23)	34.8%	21.7%	39.1%	4.3%	0.0%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=23)	34.8%	30.4%	34.8%	0.0%	0.0%

※問 15（P57 参照）において子どもがいないと回答された方、または無回答の方

【年齢別：50～64 歳】

熟年層（50～64 歳）において、「重要」もしくは「やや重要」と回答された方が多い項目は次のとおりです。

- 道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）：85.3%
- 自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）：82.7%
- 上水道の管理（n=74）：82.4%
- 保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）：82.1%
- 防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）：81.3%

■ 年齢：50～64 歳

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）（n=75）	49.3%	26.7%	21.3%	1.3%	1.3%
	2 定住化の支援（空き家斡旋・としがわ定住一押しプロジェクトなど）（n=77）	33.8%	33.8%	24.7%	6.5%	1.3%
	3 幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）（n=75）	22.7%	36.0%	34.7%	6.7%	0.0%
	4 学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）（n=75）	37.3%	37.3%	24.0%	1.3%	0.0%
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）（n=74）	25.7%	43.2%	23.0%	5.4%	2.7%
	6 文化財の保存と継承（史跡整備など）（n=74）	28.4%	39.2%	31.1%	0.0%	1.4%
	7 自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）（n=75）	46.7%	36.0%	16.0%	0.0%	1.3%
	8 農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）（n=75）	25.3%	50.7%	21.3%	1.3%	1.3%
	9 商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）（n=75）	21.3%	42.7%	30.7%	1.3%	4.0%
	10 雇用の創出（雇用情報提供など）（n=72）	29.2%	37.5%	30.6%	1.4%	1.4%
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）（n=75）	40.0%	41.3%	18.7%	0.0%	0.0%
	12 循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）（n=75）	29.3%	48.0%	21.3%	0.0%	1.3%
	13 地域環境の保全（ごみパトロールなど）（n=74）	29.7%	47.3%	21.6%	0.0%	1.4%
	14 各種相談体制の充実（すぐメールなど）（n=74）	18.9%	37.8%	40.5%	2.7%	0.0%
	15 秩序ある土地利用（地籍調査の実施）（n=75）	20.0%	36.0%	41.3%	1.3%	1.3%
	16 道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）（n=75）	41.3%	44.0%	14.7%	0.0%	0.0%
	17 上水道の管理（n=74）	45.9%	36.5%	17.6%	0.0%	0.0%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）（n=75）	29.3%	42.7%	26.7%	1.3%	0.0%
IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）（n=78）	35.9%	46.2%	16.7%	1.3%	0.0%
	20 社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）（n=77）	15.6%	40.3%	39.0%	2.6%	2.6%
	21 高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）（n=76）	27.6%	42.1%	27.6%	2.6%	0.0%
	22 障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）（n=77）	27.3%	39.0%	33.8%	0.0%	0.0%
	23 生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）（n=76）	19.7%	36.8%	39.5%	3.9%	0.0%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）（n=76）	13.2%	26.3%	53.9%	3.9%	2.6%
	25 地域文化の創造（町内団体支援など）（n=77）	10.4%	27.3%	57.1%	2.6%	2.6%
	26 地域づくりの推進（自治会加入案内など）（n=76）	9.2%	23.7%	56.6%	6.6%	3.9%
	27 人権の尊重（人権教育など）（n=76）	17.1%	32.9%	47.4%	1.3%	1.3%
V 町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行財政運営（財源確保・事業の見直しなど）（n=76）	31.6%	34.2%	32.9%	0.0%	1.3%
	29 住民参加の推進（広報としがわ・パブリックコメントなど）（n=76）	13.2%	34.2%	48.7%	1.3%	2.6%

【年齢別：65 歳以上】

シニア層（65 歳以上）において、「重要」もしくは「やや重要」と回答された方が多い項目は次のとおりです。

■防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：88.7%

■保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：85.4%

■子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)：84.4%

■年齢：65歳以上

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=128)	57.0%	27.3%	14.8%	0.8%	0.0%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=133)	43.6%	30.8%	24.1%	0.8%	0.8%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=130)	34.6%	34.6%	30.0%	0.8%	0.0%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=128)	45.3%	33.6%	20.3%	0.0%	0.8%
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=138)	25.4%	50.0%	22.5%	1.4%	0.7%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=142)	21.1%	47.9%	27.5%	2.8%	0.7%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=141)	38.3%	40.4%	19.9%	0.7%	0.7%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=145)	25.5%	44.8%	26.9%	2.1%	0.7%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=139)	20.1%	40.3%	36.0%	3.6%	0.0%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=133)	37.6%	35.3%	24.8%	2.3%	0.0%
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=142)	47.9%	40.8%	11.3%	0.0%	0.0%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=143)	34.3%	46.2%	18.9%	0.7%	0.0%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=142)	30.3%	46.5%	21.1%	2.1%	0.0%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=141)	24.8%	31.9%	43.3%	0.0%	0.0%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=142)	27.5%	38.0%	32.4%	1.4%	0.7%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=143)	45.5%	37.1%	16.8%	0.7%	0.0%
	17 上水道の管理(n=138)	50.0%	32.6%	17.4%	0.0%	0.0%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=141)	27.0%	41.1%	29.8%	1.4%	0.7%
IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=144)	47.9%	37.5%	13.9%	0.0%	0.7%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=144)	20.8%	40.3%	36.8%	0.7%	1.4%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=142)	26.1%	40.8%	30.3%	1.4%	1.4%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=142)	26.8%	42.3%	30.3%	0.0%	0.7%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=142)	16.9%	42.3%	39.4%	1.4%	0.0%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=144)	11.8%	34.7%	48.6%	3.5%	1.4%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=142)	16.2%	34.5%	47.2%	0.7%	1.4%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=144)	20.1%	31.3%	43.1%	4.9%	0.7%
V 町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	27 人権の尊重(人権教育など)(n=140)	25.0%	32.1%	37.9%	2.1%	2.9%
	28 効率的な行財政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=144)	36.8%	31.3%	31.3%	0.0%	0.7%
	29 住民参加の推進(広報とときがわ・パブリックコメントなど)(n=142)	21.1%	35.9%	41.5%	1.4%	0.0%

【定住意向別：住み続けたい】

質問9（定住意向）で「いつまでも住み続けたい」や「できれば住み続けたい」と回答された方のうち、「重要」もしくは「やや重要」の割合が高い項目は次のとおりです。

- 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)：86.7%
- 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)：84.8%
- 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)：84.2%
- 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)：83.4%
- 上水道の管理：83.1%

■定住意向：住み続けたい

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=296)	58.1%	23.3%	16.2%	1.4%	1.0%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=303)	41.3%	29.4%	25.1%	2.3%	2.0%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=297)	36.4%	31.3%	28.6%	3.0%	0.7%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=297)	48.1%	29.0%	21.5%	0.3%	1.0%
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=297)	29.6%	44.1%	19.9%	4.7%	1.7%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=299)	27.4%	43.5%	26.1%	2.3%	0.7%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=301)	47.2%	36.2%	15.6%	0.3%	0.7%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=304)	32.2%	44.4%	21.4%	1.3%	0.7%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=300)	25.7%	39.0%	32.0%	2.0%	1.3%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=284)	38.4%	31.7%	26.8%	2.5%	0.7%
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=302)	48.3%	38.4%	12.6%	0.0%	0.7%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=302)	36.4%	43.0%	17.9%	1.7%	1.0%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=302)	34.8%	43.0%	19.5%	1.7%	1.0%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=299)	25.8%	33.4%	37.8%	2.3%	0.7%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=301)	29.2%	34.6%	33.9%	1.7%	0.7%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=302)	50.0%	34.8%	13.6%	1.0%	0.7%
	17 上水道の管理(n=296)	52.0%	31.1%	16.6%	0.0%	0.3%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=301)	32.9%	36.5%	28.2%	1.0%	1.3%
IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=304)	45.1%	39.1%	14.1%	1.3%	0.3%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=303)	24.4%	36.6%	35.6%	2.3%	1.0%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=300)	32.0%	36.0%	28.3%	3.0%	0.7%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=301)	30.2%	40.5%	27.9%	1.0%	0.3%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=300)	28.0%	36.3%	33.0%	2.7%	0.0%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=302)	18.2%	32.5%	45.0%	3.6%	0.7%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=300)	20.0%	33.3%	42.7%	2.7%	1.3%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=301)	20.3%	26.9%	45.8%	5.0%	2.0%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=298)	31.2%	27.5%	38.6%	1.3%	1.3%
V 町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行財政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=301)	41.2%	29.6%	28.9%	0.3%	0.0%
	29 住民参加の推進(広報とときがわ・パブリックコメントなど)(n=300)	25.0%	31.3%	40.0%	3.0%	0.7%

【定住意向別：移りたい】

質問9（定住意向）で「すぐにでも他に移りたい」や「できれば他に移りたい」、「既に移ることが決まっている」と回答された方のうち、「重要」もしくは「やや重要」の割合が高い項目は次のとおりです。

■道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)：85.7%

■子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)：84.8%

■学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)：84.8%

■定住意向：移りたい

		重要	やや重要	いどちらでもな	はあまり重要で	重要ではない
I若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1 子育て支援の推進(出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など)(n=66)	60.6%	24.2%	12.1%	1.5%	1.5%
	2 定住化の支援(空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど)(n=67)	40.3%	28.4%	23.9%	6.0%	1.5%
	3 幼児教育の充実(木製玩具提供・情報交換など)(n=66)	28.8%	33.3%	31.8%	6.1%	0.0%
	4 学校教育の充実(少人数学級・支援員配置・食育など)(n=66)	54.5%	30.3%	12.1%	3.0%	0.0%
IIまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5 地域の魅力発揮による観光活性化(資源発掘・SNS発信・多言語化など)(n=77)	31.2%	36.4%	22.1%	6.5%	3.9%
	6 文化財の保存と継承(史跡整備など)(n=77)	28.6%	40.3%	24.7%	2.6%	3.9%
	7 自然環境の保全・整備(保全啓発・維持管理など)(n=77)	50.6%	29.9%	16.9%	0.0%	2.6%
	8 農林業の活性化(地域消費・加工品創出・体験イベントなど)(n=78)	39.7%	26.9%	28.2%	2.6%	2.6%
	9 商工業の振興(創業優遇措置・商工会連携など)(n=76)	22.4%	30.3%	40.8%	2.6%	3.9%
	10 雇用の創出(雇用情報提供など)(n=76)	32.9%	30.3%	34.2%	1.3%	1.3%
III豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11 防災・防犯・交通安全体制の充実(消防団の確保・防犯パトロールなど)(n=76)	44.7%	30.3%	25.0%	0.0%	0.0%
	12 循環型地域社会の形成(資源回収・再エネ設備の普及など)(n=77)	36.4%	29.9%	31.2%	1.3%	1.3%
	13 地域環境の保全(ごみパトロールなど)(n=75)	32.0%	34.7%	29.3%	2.7%	1.3%
	14 各種相談体制の充実(すぐメールなど)(n=76)	27.6%	30.3%	34.2%	7.9%	0.0%
	15 秩序ある土地利用(地籍調査の実施)(n=77)	28.6%	26.0%	40.3%	2.6%	2.6%
	16 道路交通体系の整備(道路改良・公共交通の維持)(n=77)	50.6%	35.1%	13.0%	1.3%	0.0%
	17 上水道の管理(n=77)	37.7%	33.8%	28.6%	0.0%	0.0%
	18 ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進(公共施設のバリアフリー化など)(n=77)	32.5%	33.8%	27.3%	5.2%	1.3%
IVあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	19 保健衛生・医療の充実(健診受診の支援)(n=77)	44.2%	35.1%	18.2%	2.6%	0.0%
	20 社会保障の充実(生活指導・歩くイベントなど)(n=78)	25.6%	30.8%	37.2%	2.6%	3.8%
	21 高齢者福祉の充実(老人クラブ支援・シルバー補助など)(n=78)	37.2%	24.4%	34.6%	0.0%	3.8%
	22 障がい者福祉の充実(地域行事参加・就労支援など)(n=78)	34.6%	26.9%	37.2%	0.0%	1.3%
	23 生涯学習の推進(図書館の充実・生涯学習の推進など)(n=78)	25.6%	41.0%	25.6%	7.7%	0.0%
	24 スポーツ・レクリエーションの推進(スポーツイベント・施設管理など)(n=78)	16.7%	35.9%	34.6%	9.0%	3.8%
	25 地域文化の創造(町内団体支援など)(n=77)	18.2%	19.5%	54.5%	5.2%	2.6%
	26 地域づくりの推進(自治会加入案内など)(n=78)	15.4%	10.3%	57.7%	11.5%	5.1%
	27 人権の尊重(人権教育など)(n=78)	33.3%	28.2%	30.8%	5.1%	2.6%
V町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28 効率的な行財政運営(財源確保・事業の見直しなど)(n=78)	44.9%	24.4%	28.2%	0.0%	2.6%
	29 住民参加の推進(広報ときがわ・パブリックコメントなど)(n=78)	21.8%	24.4%	43.6%	6.4%	3.8%

＜満足度、重要度によるポートフォリオ分析＞

ポートフォリオ分析では、満足度及び重要度を評価点に換算して項目ごとに算出し、満足度を縦軸、重要度を横軸とする散布図を作成して傾向を分析します。

【評価点の設定】

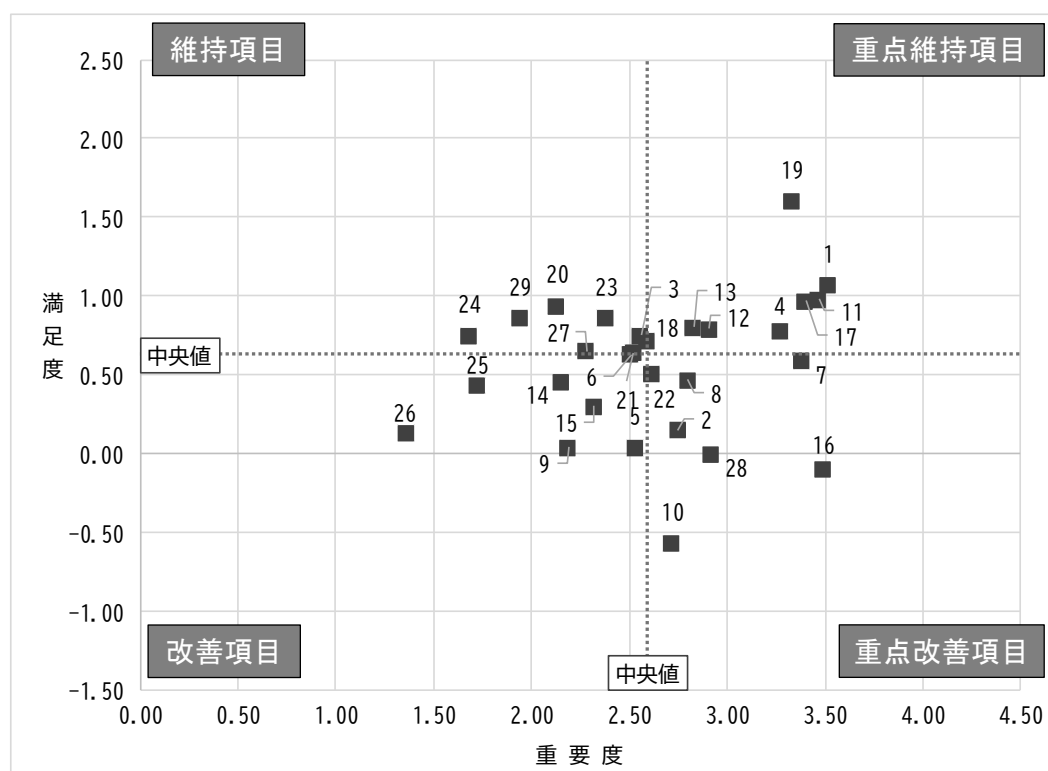
満足度、重要度について、それぞれ以下の点数を付与して評価点を算出しました。

満足度スコア：「満足」 5 点、「まあ満足」 3 点、「どちらでもない」 0 点、「やや不満」－ 3 点、「不満」－ 5 点とした場合の平均点。無回答は母数から除く。

全員が「満足」と回答すれば、満足度スコアは 5 点となる。また、満足している人より不満の人が多ければマイナスの値になる。

重要度スコア：「重要」 5 点、「やや重要」 3 点、「どちらでもない」 0 点、「あまり重要ではない」－ 3 点、「重要ではない」－ 5 点とした場合の平均点。無回答は母数から除く。

満足度、重要度の評価点から以下のように散布図で整理します。

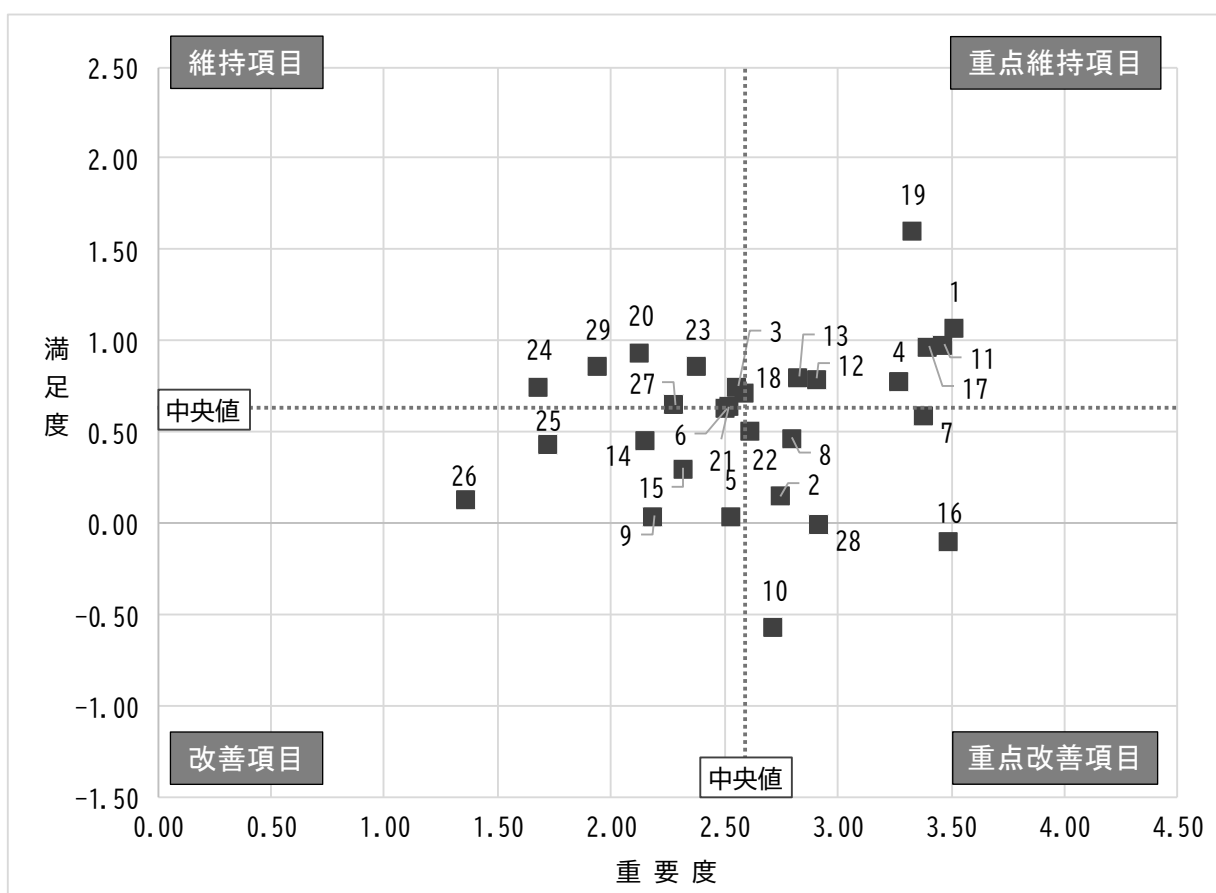


重点維持項目	● 中央値と比べて満足度、重要度ともに高い項目 ● 総合満足度の源泉として寄与している項目であるため、<u>満足度を下げないように継続的な維持が求められる項目</u>
維持項目	● 中央値と比べて満足度が高く、重要度は低い項目 ● 総合満足度への影響が小さいため、現状維持ができれば問題ないと判断できる項目
改善項目	● 中央値と比べて満足度が低く、重要度も低い項目 ● 総合満足度への影響が小さいため、優先順位は低いですが、重点改善分野の次に改善が求められる項目
重点改善項目	● 中央値と比べて満足度が低く、重要度が高い項目 ● 各項目を改善・強化ができれば、総合満足度を上昇させる効果が期待できるため、<u>最優先で改善が求められる項目</u>

3) 全項目の満足度・重要度の分布

満足度、重要度の中央値を基準としてみると、「19 保健・医療」、「1 子育て支援」、「11 防災・防犯」、「4 学校教育」などは満足度・重要度ともに高い重点維持項目となっています。

一方、「16 道路交通」、「28 行財政運営」、「10 雇用の創出」、「2 定住化支援」、「7 自然環境」などは満足度が低く重要度が高い重点改善項目となっています。



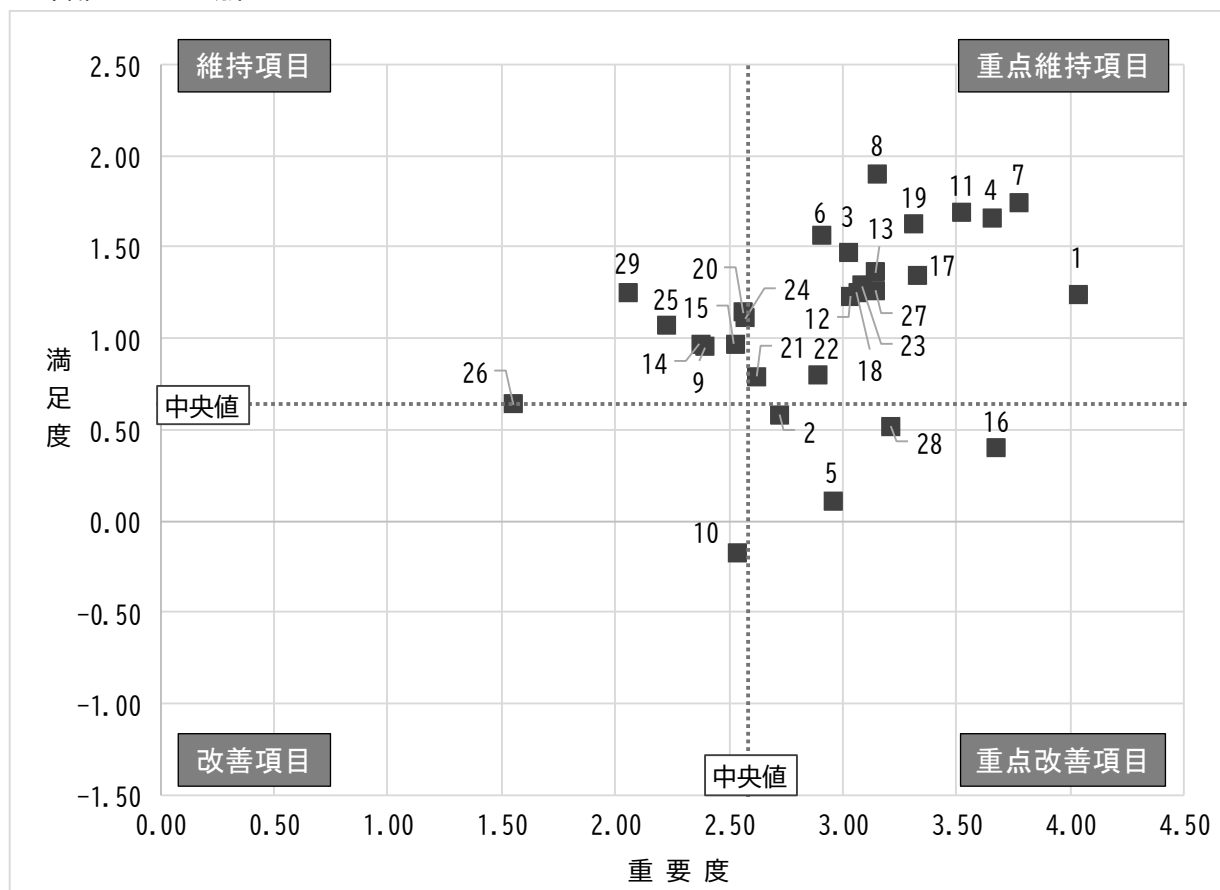
基本政策	分布図内番号	施策	基本政策	分布図内番号	施策
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1	子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）	Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	16	道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）
	2	定住化の支援（空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど）		17	上水道の管理
	3	幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）		18	ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）
	4	学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）		19	保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5	地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）	Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	20	社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）
	6	文化財の保存と継承（史跡整備など）		21	高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）
	7	自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）		22	障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）
	8	農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）		23	生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）
	9	商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）		24	スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	10	雇用の創出（雇用情報提供など）		25	地域文化の創造（町内団体支援など）
	11	防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）		26	地域づくりの推進（自治会加入案内など）
	12	循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）		27	人権の尊重（人権教育など）
	13	地域環境の保全（ごみパトロールなど）	Ⅴ町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28	効率的な行財政運営（財源確保・事業の見直しなど）
	14	各種相談体制の充実（すぐメールなど）		29	住民参加の推進（広報とときがわ・パブリックコメントなど）
	15	秩序ある土地利用（地籍調査の実施）			

4) 年齢別満足度・重要度の分布

15～34歳の満足度、重要度分布をみると、「8 農林業」、「1 子育て支援」、「7 自然環境」、「11 防災・防犯」など多くの項目で満足度・重要度ともに高い重点維持項目となっています。

一方、「16 道路交通」、「28 行財政運営」、「5 観光活性化」、「2 定住化支援」などは満足度が低く重要度が高い重点改善項目となっています。また、「29 住民参加」、「25 地域文化」、「14 各種相談体制」などは満足度が高く、重要度が低い維持項目となっています。

■年齢：15～34歳



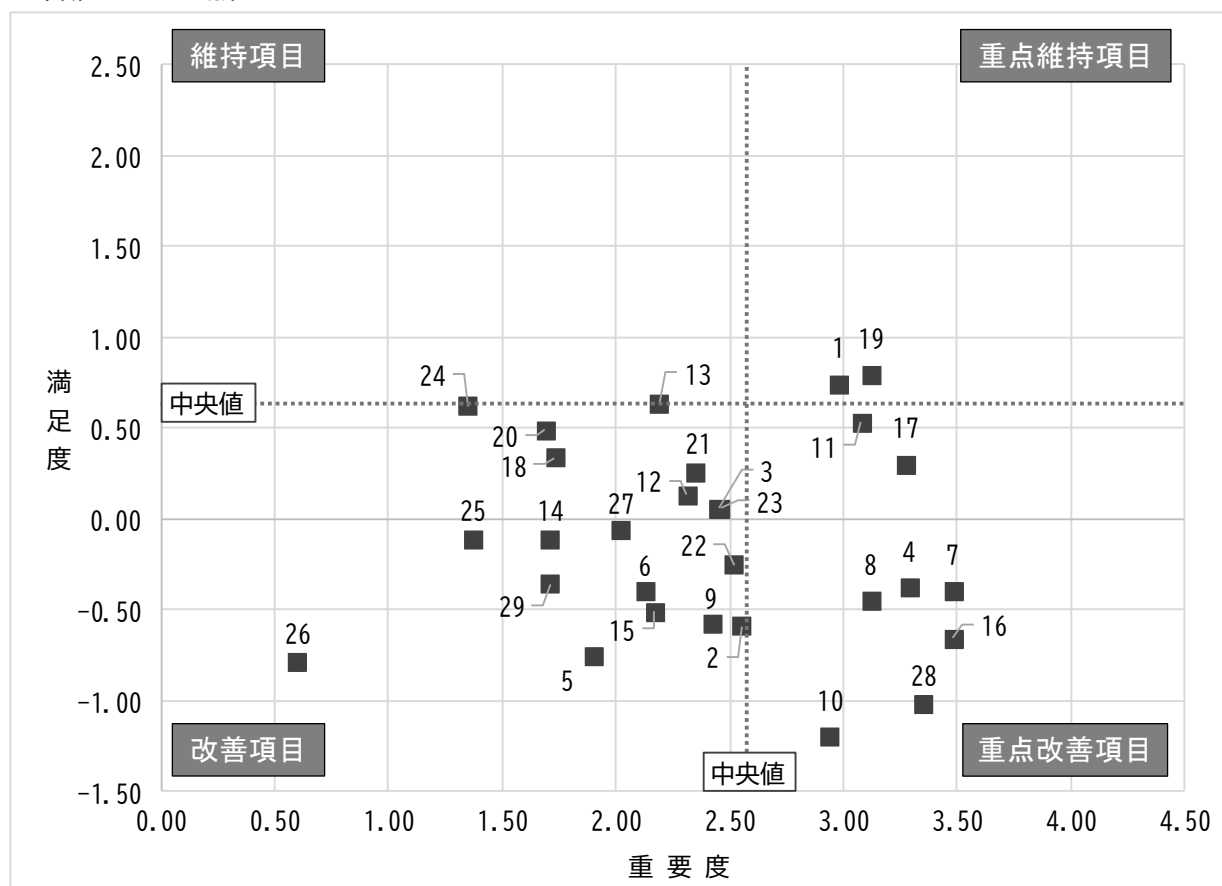
基本政策	分布図内番号	施策	基本政策	分布図内番号	施策
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1	子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）	Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	16	道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）
	2	定住化の支援（空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど）		17	上水道の管理
	3	幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）		18	ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）
	4	学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）		19	保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5	地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）	Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	20	社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）
	6	文化財の保存と継承（史跡整備など）		21	高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）
	7	自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）		22	障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）
	8	農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）		23	生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）
	9	商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）		24	スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）
	10	雇用の創出（雇用情報提供など）		25	地域文化の創造（町内団体支援など）
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11	防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）		26	地域づくりの推進（自治会加入案内など）
	12	循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）		27	人権の尊重（人権教育など）
	13	地域環境の保全（ごみパトロールなど）	Ⅴ市民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28	効率的な行財政運営（財源確保・事業の見直しなど）
	14	各種相談体制の充実（すぐメールなど）		29	住民参加の推進（広報とさかき・パブリックコメントなど）
	15	秩序ある土地利用（地籍調査の実施）			

35～49歳の満足度、重要度分布をみると、「1 子育て支援」、「19 保健・医療」が満足度・重要度ともに高い重点維持項目となっています。

一方、「16 道路交通」、「7 自然環境」、「4 学校教育」、「17 上水道」、「10 雇用創出」、「28 行財政運営」などは満足度が低く重要度が高い重点改善項目となっています。

また、「3 幼児教育」、「22 障がい者福祉」、「23 生涯学習」、「21 高齢者福祉」、「12 循環型地域社会」など多くの項目は満足度・重要度ともに低い改善項目となっています。

■年齢：35～49歳



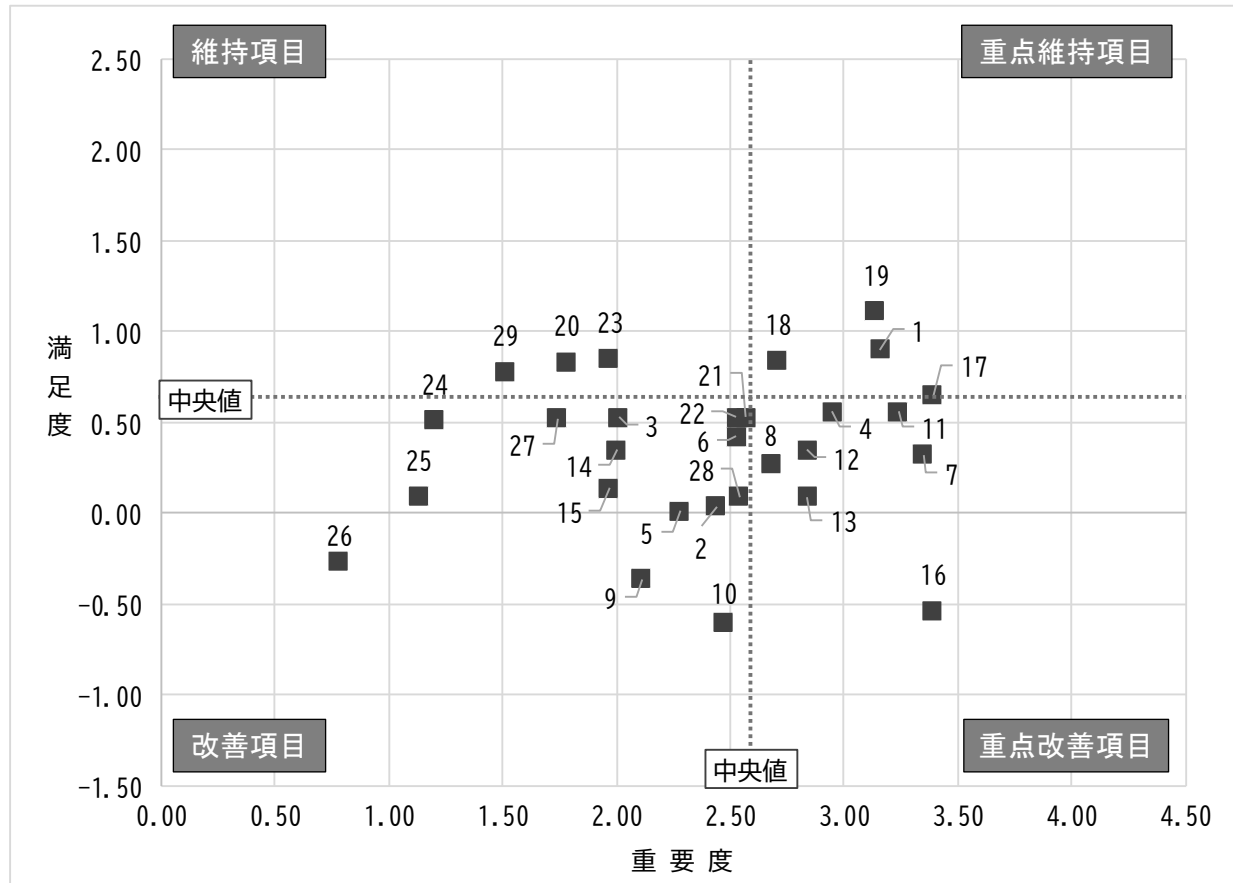
基本政策	分布図内番号	施策	基本政策	分布図内番号	施策
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1	子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）	Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	16	道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）
	2	定住化の支援（空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど）		17	上水道の管理
	3	幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）		18	ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）
	4	学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）		19	保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5	地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）	Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	20	社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）
	6	文化財の保存と継承（史跡整備など）		21	高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）
	7	自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）		22	障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）
	8	農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）		23	生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）
	9	商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）		24	スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）
	10	雇用の創出（雇用情報提供など）		25	地域文化の創造（町内団体支援など）
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11	防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）		26	地域づくりの推進（自治会加入案内など）
	12	循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）		27	人権の尊重（人権教育など）
	13	地域環境の保全（ごみパトロールなど）	Ⅴ市民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28	効率的な行財政運営（財源確保・事業の見直しなど）
	14	各種相談体制の充実（すぐメールなど）		29	住民参加の推進（広報ときがわ・パブリックコメントなど）
	15	秩序ある土地利用（地籍調査の実施）			

50～64歳の満足度、重要度分布をみると、「1 子育て支援」、「19 保健・医療」、「17 上水道」、「18 ユニバーサルデザイン」が満足度・重要度ともに高い重点維持項目となっています。

一方、「16 道路交通」、「7 自然環境」、「11 防災・防犯」などは満足度が低く重要度が高い重点改善項目となっています。

また、「3 幼児教育」、「22 障がい者福祉」、「6 文化財」、「14 各種相談体制」、「27 人権」などの項目は満足度・重要度ともに低い改善項目となっています。

■年齢：50～64歳



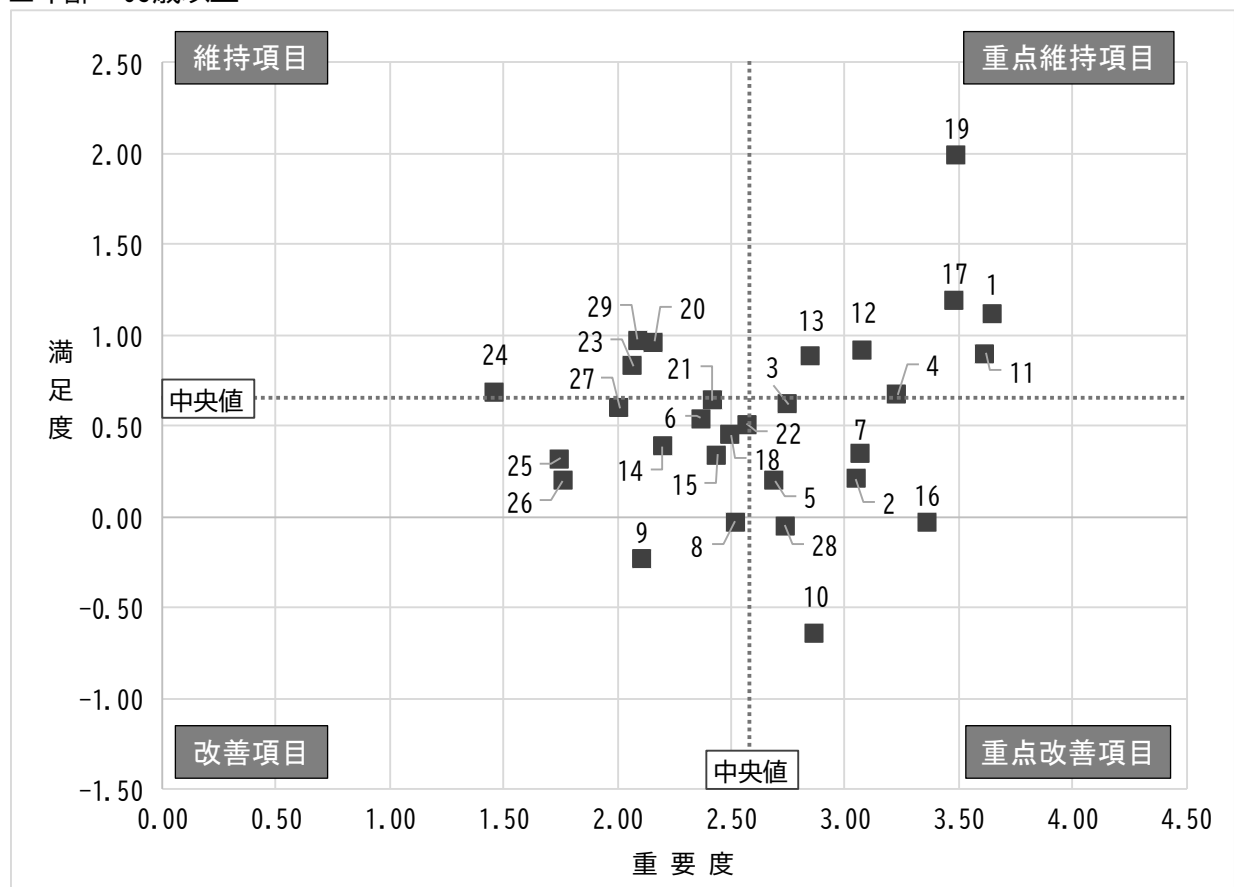
基本政策	分布図内番号	施策	基本政策	分布図内番号	施策
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1	子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）	Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	16	道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）
	2	定住化の支援（空き家斡旋・とぎわい定住一押しプロジェクトなど）		17	上水道の管理
	3	幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）		18	ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）
	4	学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）		19	保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）
Ⅱまちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5	地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）	Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	20	社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）
	6	文化財の保存と継承（史跡整備など）		21	高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）
	7	自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）		22	障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）
	8	農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）		23	生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）
	9	商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）		24	スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）
	10	雇用の創出（雇用情報提供など）		25	地域文化の創造（町内団体支援など）
Ⅴ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11	防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）		26	地域づくりの推進（自治会加入案内など）
	12	循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）		27	人権の尊重（人権教育など）
	13	地域環境の保全（ごみパトロールなど）	Ⅴ町民と行政の協働により支え合い・発展させるまちづくり	28	効率的な行政運営（財源確保・事業の見直しなど）
	14	各種相談体制の充実（すぐメールなど）		29	住民参加の推進（広報とぎわ・パブリックコメントなど）
	15	秩序ある土地利用（地籍調査の実施）			

65歳の満足度、重要度分布をみると、「19 保健・医療」、「1 子育て支援」、「17 上水道」、「11 防災・防犯」、「12 循環型地域社会」、「13 地域環境」、「4 学校教育」が満足度・重要度ともに高い重点維持項目となっています。

一方、「16 道路交通」、「7 自然環境」、「2 定住化支援」、「10 雇用創出」、「5 観光活性化」などは満足度が低く重要度が高い重点改善項目となっています。

また、「6 文化財」、「18 ユニバーサルデザイン」、「15 土地利用」、「14 各種相談体制」、「9 商工業の振興」などの項目は満足度・重要度ともに低い改善項目となっています。

■年齢：65歳以上



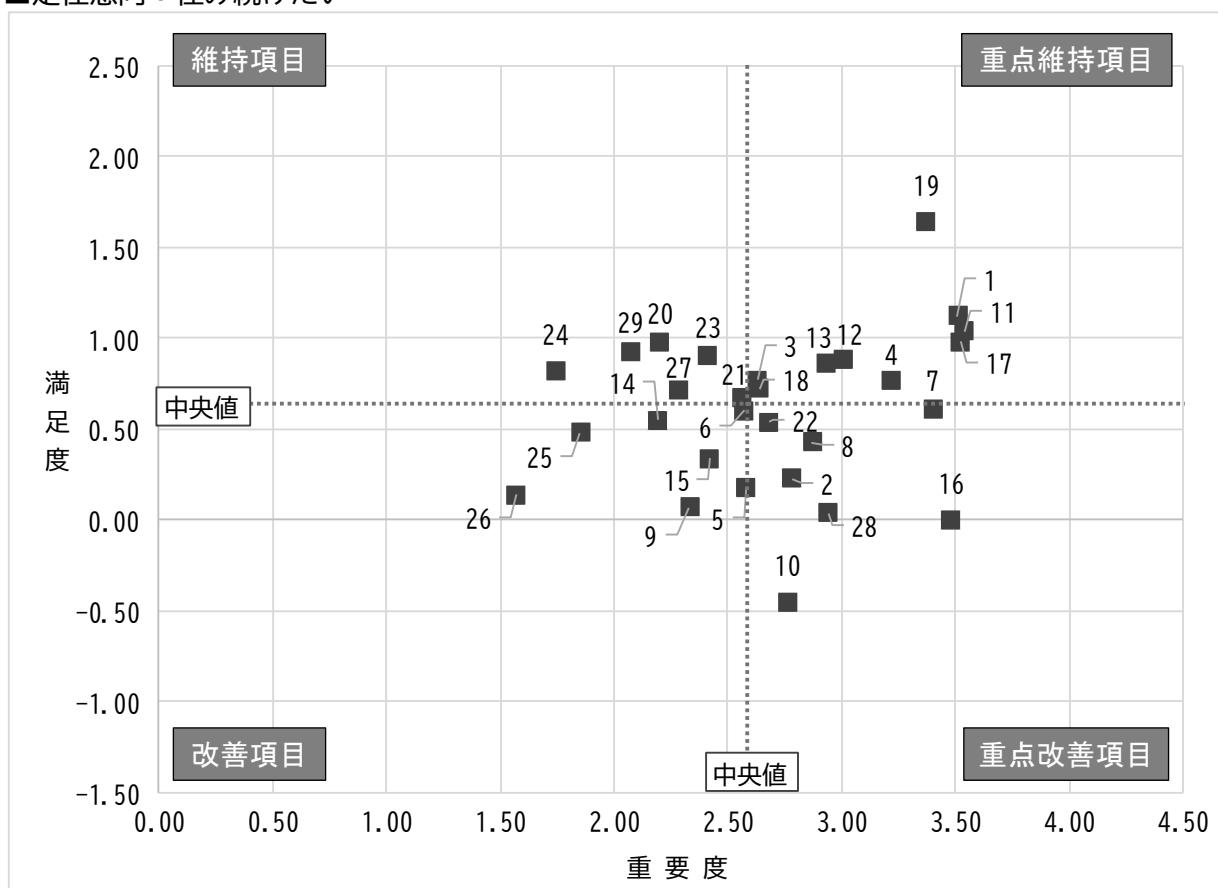
基本政策	分布図内 番号	施策	基本政策	分布図内 番号	施策
I 若い世代が住みたい・ 住み続けたいと思えるま ちづくり	1	子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）	III豊かな自然と共生し快 適に暮らせるまちづくり	16	道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）
	2	定住化の支援（空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど）		17	上水道の管理
	3	幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）		18	ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）
	4	学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）		19	保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）
II まちの魅力と活力を高 める活気あふれるまちづ くり	5	地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）	IVあらゆる世代が安心し ていきいきと暮らせるま ちづくり	20	社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）
	6	文化財の保存と継承（史跡整備など）		21	高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）
	7	自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）		22	障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）
	8	農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）		23	生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）
	9	商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）		24	スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）
	10	雇用の創出（雇用情報提供など）		25	地域文化の創造（町内団体支援など）
III豊かな自然と共生し快 適に暮らせるまちづくり	11	防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）		26	地域づくりの推進（自治会加入案内など）
	12	循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）		27	人権の尊重（人権教育など）
	13	地域環境の保全（ごみパトロールなど）	V町民と行政の協働によ り支え合い・発展させる まちづくり	28	効率的な行政運営（財源確保・事業の見直しなど）
	14	各種相談体制の充実（すぐメールなど）		29	住民参加の推進（広報とときがわ・パブリックコメントなど）
	15	秩序ある土地利用（地籍調査の実施）			

5) 定住意向別満足度・重要度の分布

定住意向（住み続けたい回答者）の満足度、重要度分布をみると、「19 保健・医療」、「1 子育て支援」、「11 防災・防犯」、「17 上水道」、「4 学校教育」、「12 循環型地域社会」、「13 地域環境」などが満足度・重要度ともに高い重点維持項目となっています。

一方、「16 道路交通」、「8 農林業」、「2 定住化支援」、「10 雇用創出」、「22 障がい者福祉」、「28 行財政運営」は満足度が低く重要度が高い重点改善項目となっています。

■定住意向：住み続けたい

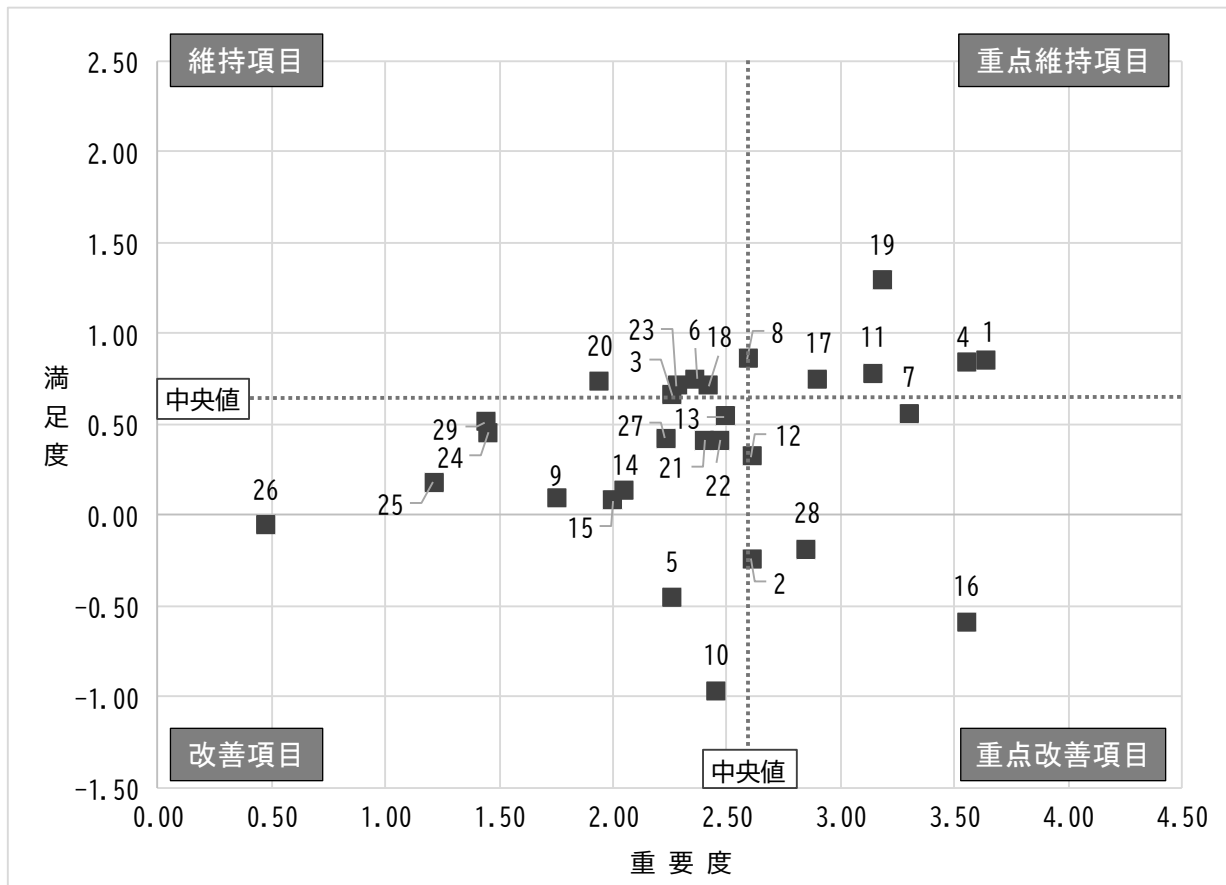


基本政策	分布図内番号	施策	基本政策	分布図内番号	施策
Ⅰ若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1	子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）	Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	16	道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）
	2	定住化の支援（空き家斡旋・ときがわ定住一押しプロジェクトなど）		17	上水道の管理
	3	幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）		18	ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）
	4	学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）		19	保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）
Ⅱまちの魅力と活力を高める元気あふれるまちづくり	5	地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）	Ⅳあらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	20	社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）
	6	文化財の保存と継承（史跡整備など）		21	高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）
	7	自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）		22	障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）
	8	農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）		23	生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）
	9	商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）		24	スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）
	10	雇用の創出（雇用情報提供など）		25	地域文化の創造（町内団体支援など）
Ⅲ豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11	防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）		26	地域づくりの推進（自治会加入案内など）
	12	循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）		27	人権の尊重（人権教育など）
	13	地域環境の保全（ごみパトロールなど）		28	効率的な行財政運営（財源確保・事業の見直しなど）
	14	各種相談体制の充実（すくメールなど）		29	住民参加の推進（広報ときがわ・パブリックコメントなど）
	15	秩序ある土地利用（地籍調査の実施）			

定住意向（移りたい回答者）の満足度、重要度分布をみると、「19 保健・医療」、「1 子育て支援」、「4 学校教育」、「8 農林業」、「11 防災・防犯」、「17 上水道」が満足度・重要度ともに高い重点維持項目となっています。

一方、「16 道路交通」、「7 自然環境」、「2 定住化支援」、「12 循環型地域社会」、「28 行財政運営」は満足度が低く重要度が高い重点改善項目となっています。

■定住意向：移りたい



基本政策	分布図内番号	施策	基本政策	分布図内番号	施策
I 若い世代が住みたい・住み続けたいと思えるまちづくり	1	子育て支援の推進（出産祝金・子ども医療費・通学定期支援など）	III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	16	道路交通体系の整備（道路改良・公共交通の維持）
	2	定住化の支援（空き家斡旋・とさがわ定住一押しプロジェクトなど）		17	上水道の管理
	3	幼児教育の充実（木製玩具提供・情報交換など）		18	ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進（公共施設のバリアフリー化など）
	4	学校教育の充実（少人数学級・支援員配置・食育など）		19	保健衛生・医療の充実（健診受診の支援）
II まちの魅力と活力を高める活気あふれるまちづくり	5	地域の魅力発揮による観光活性化（資源発掘・SNS発信・多言語化など）	IV あらゆる世代が安心していきいきと暮らせるまちづくり	20	社会保障の充実（生活指導・歩くイベントなど）
	6	文化財の保存と継承（史跡整備など）		21	高齢者福祉の充実（老人クラブ支援・シルバー補助など）
	7	自然環境の保全・整備（保全啓発・維持管理など）		22	障がい者福祉の充実（地域行事参加・就労支援など）
	8	農林業の活性化（地域消費・加工品創出・体験イベントなど）		23	生涯学習の推進（図書館の充実・生涯学習の推進など）
	9	商工業の振興（創業優遇措置・商工会連携など）		24	スポーツ・レクリエーションの推進（スポーツイベント・施設管理など）
	10	雇用の創出（雇用情報提供など）		25	地域文化の創造（町内団体支援など）
III 豊かな自然と共生し快適に暮らせるまちづくり	11	防災・防犯・交通安全体制の充実（消防団の確保・防犯パトロールなど）		26	地域づくりの推進（自治会加入案内など）
	12	循環型地域社会の形成（資源回収・再エネ設備の普及など）		27	人権の尊重（人権教育など）
	13	地域環境の保全（ごみパトロールなど）		28	効率的な行財政運営（財源確保・事業の見直しなど）
	14	各種相談体制の充実（すぐメールなど）		29	住民参加の推進（広報とさがわ・パブリックコメントなど）
	15	秩序ある土地利用（地籍調査の実施）			

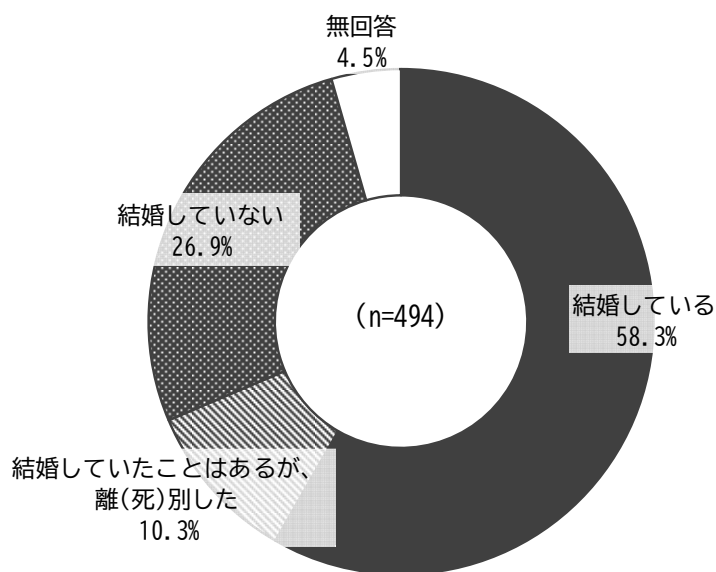
5 結婚について

(1) 結婚の有無 [単回答]

問 13 あなたは結婚していますか。(※事実婚を含む) (1つ選んで○)

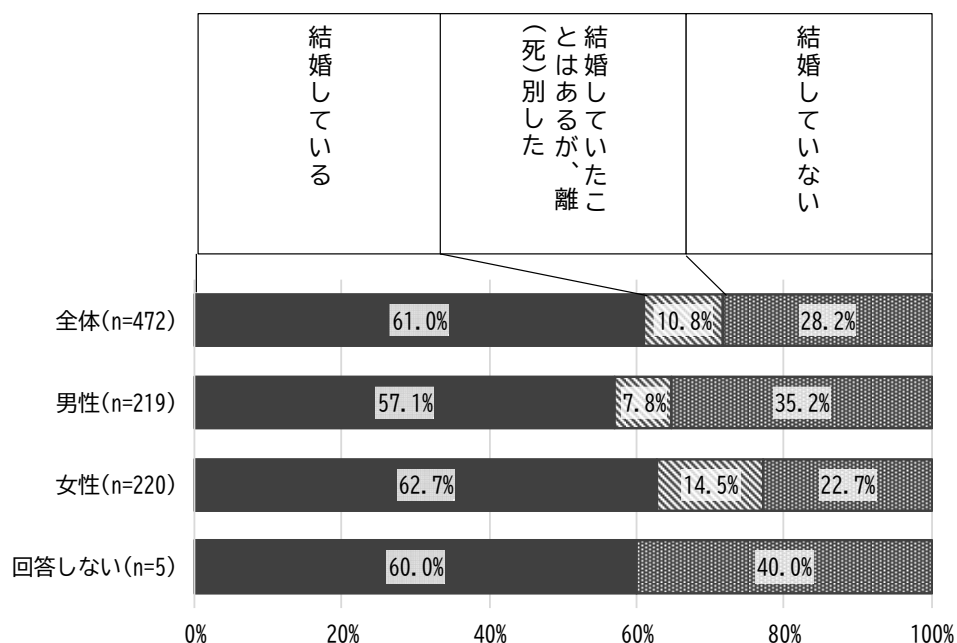
全体でみると、「結婚している」が 58.3%、「結婚していない」が 26.9%で、「結婚していたことはあるが、離(死)別した」が 10.3%となっています。

【全体】



性別でみると、「結婚している」は男性が 57.1%、女性が 62.7%で女性がやや多くなっています。一方「結婚していない」は男性が 35.2%、女性が 22.7%で男性の未婚率がやや高い傾向です。

【性別】



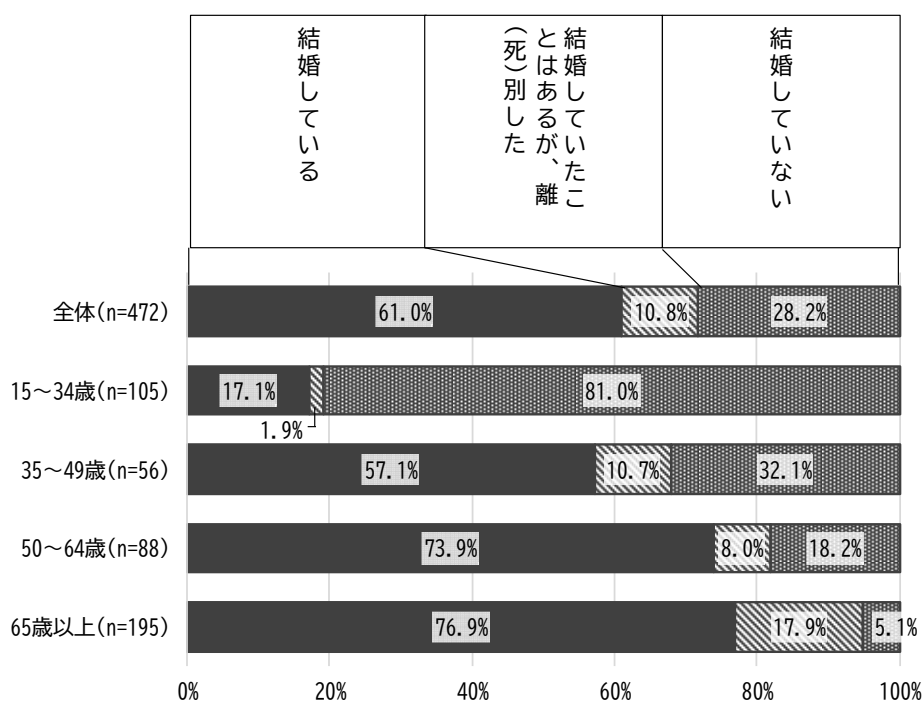
年代別では、「結婚している」人の割合は年齢が上がるにつれて高く、15～34歳は17.1%と最も低く、35～49歳が57.1%、50～64歳が73.9%、65歳以上では76.9%となっています。

一方、「結婚していない」人の割合は、年齢とともに減少する傾向となっています。15～34歳は81.0%で未成年や若年層が多いことが要因となっています。

この他、35～49歳が32.1%、50～64歳が17.9%、65歳以上は5.1%と、年齢が上がるにつれて未婚者は減少しています。

また、「結婚していたことはあるが、離別・死別した」人の割合は、年齢が上がるにつれて高く65歳以上は17.9%となっています。

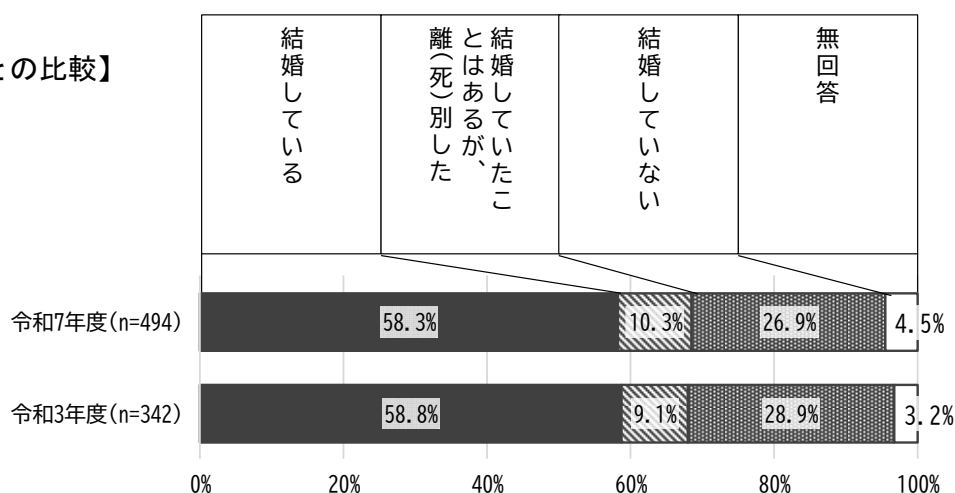
【年齢別】



前回調査との比較では、「結婚している」は58.8%から58.3%へと微減し、既婚者の割合は概ね横ばいながらもやや減少となっています。一方で、「結婚していない」人の割合も28.9%から26.9%へと微減しており、未婚者もやや減少となっています。

「結婚していたことはあるが、離(死)別した」人の割合は、9.1%から10.3%へとわずかに増加しています。

【前回調査との比較】



(2) 今後の結婚意向 [単回答]

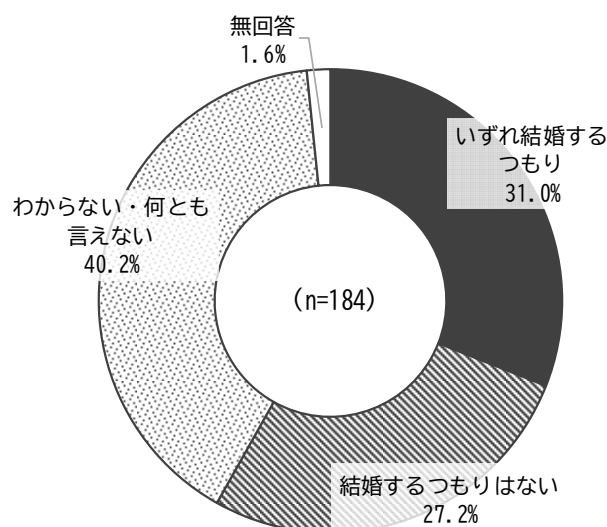
問 13-1 問 13 で「結婚していたことはあるが、離（死）別した」「結婚していない」と回答した方にお聞きします。

あなたは、今後結婚したいと思いますか。（1つ選んで○）

全体でみると、「いずれ結婚するつもり」は 31.0%で、「結婚するつもりはない」は 27.2%で、それぞれ3割程度となっています。

また、「わからない・何とも言えない」が 40.2%で最も多く、結婚に対してまだ明確な意思を持っていない人が多い傾向となっています。

【全体】

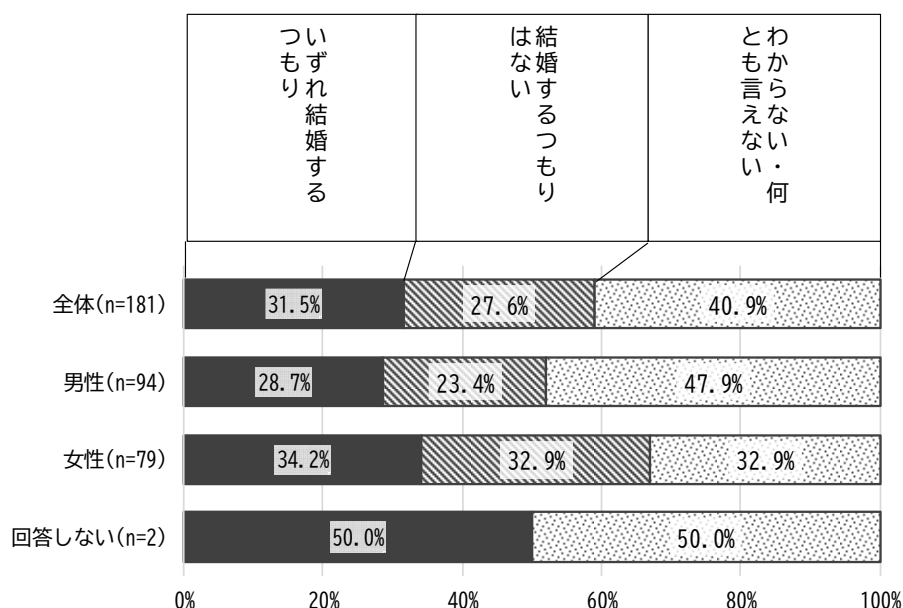


年代別でみると、「いずれ結婚するつもり」は、男性が 28.7%、女性が 34.2%で、女性の方が結婚を希望する割合が高い傾向となっています。

一方、「結婚するつもりはない」は、男性が 23.4%、女性が 32.9%で、女性の方が結婚を望まない割合がやや高い傾向となっています。

また、「わからない・何とも言えない」と回答した割合は、男性が 47.9%、女性が 32.9%で、男性の方が将来の結婚について判断を保留している、あるいは未定である傾向がみられます。

【性別】



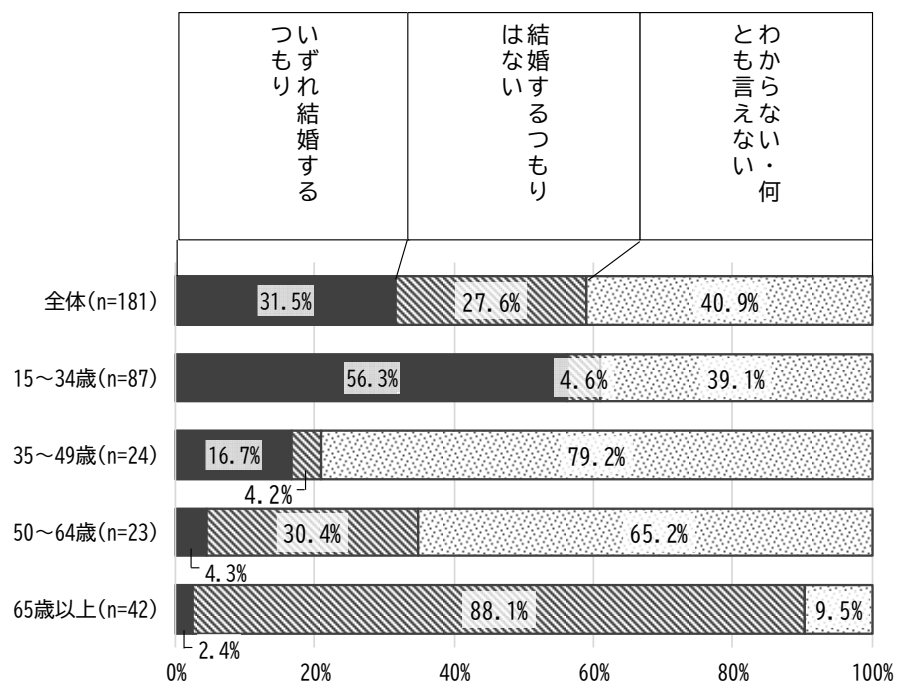
年代別でみると、15～34歳は、「いずれ結婚するつもり」が56.3%で最も高く、結婚に前向きな意向を持っているとがみられます。一方で「結婚するつもりはない」は4.6%、「わからない・何とも言えない」は39.1%でした。

35～49歳は、「いずれ結婚するつもり」が16.7%、「結婚するつもりはない」は4.2%となっています。また「わからない・何とも言えない」は79.2%で最も多い傾向となっています。

50～64歳は、「結婚するつもりはない」が30.4%、「いずれ結婚するつもり」は4.3%、「わからない・何とも言えない」が65.2%で、結婚を考えていない層がやや多くなっています。

65歳以上は、「結婚するつもりはない」が88.1%、「いずれ結婚するつもり」は2.4%で、結婚を考えていない層が多く占めています。

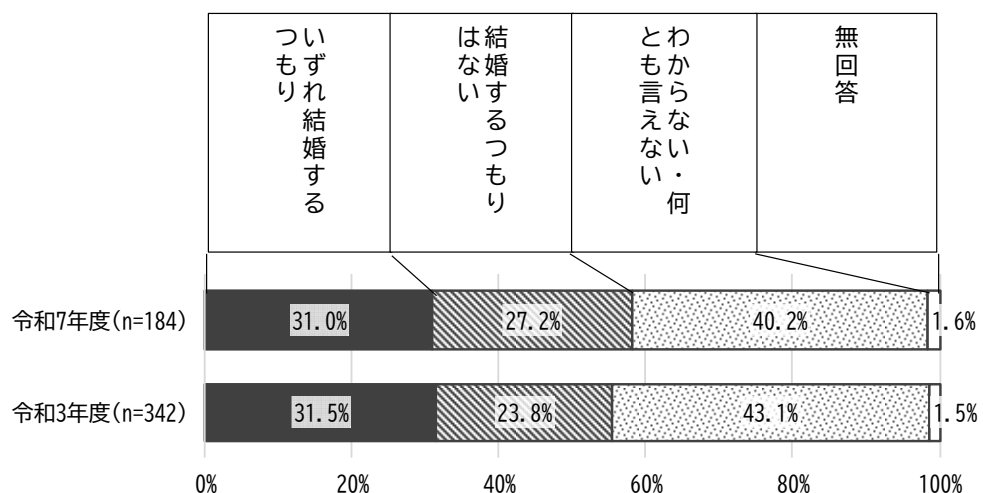
【年齢別】



前回調査との比較でみると、「いずれ結婚するつもり」は31.5%から31.0%へやや減少、「結婚するつもりはない」は23.8%から27.2%へやや増加、「わからない・何とも言えない」が43.1%から40.2%へ減少となっています。

この結果から結婚に対する意識は、やや消極的な方向に転じている傾向となっています。

【前回調査との比較】

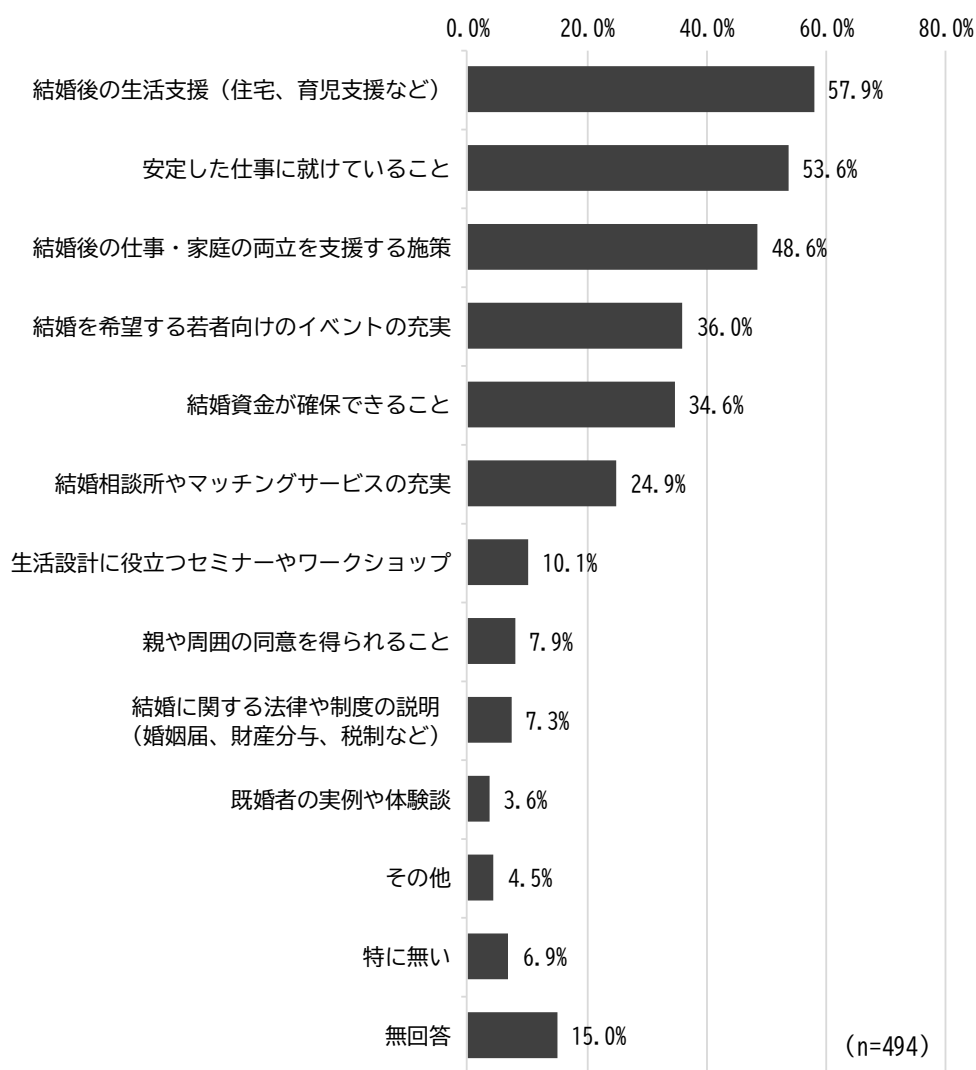


(3) 結婚に必要な支援〔複数回答〕

問 14 あなたは、未婚の方が結婚するためにはどのような条件や支援が必要だと思いますか。（5つまで選んで○）

全体でみると、「結婚後の生活支援（住宅、育児支援など）」が 57.9%、「安定した仕事に就けていること」が 53.6%、「結婚後の仕事・家庭の両立を支援する施策」が 48.6%となっています。全体として、経済的安定と、結婚後の生活（特に住宅・育児）および仕事と家庭の両立を支える具体的な支援策が求められている傾向となっています。

【全体】



性別でみると、女性は「結婚後の生活支援（住宅、育児支援など）」が70.8%、「結婚後の仕事・家庭の両立を支援する施策」が65.8%、「安定した仕事に就けていること」が59.4%で重視する傾向となっています。

男性は「結婚後の生活支援（住宅、育児支援など）」と「安定した仕事に就けていること」がともに65.4%で重視する傾向となっています。

年齢別でみると、15～34歳は、「結婚後の生活支援」が70.8%、「結婚資金の確保」が59.6%と高く、新生活や経済面での支援が求められています。また、「婚姻制度等の説明」も19.1%と関心が高い傾向です。一方で、マッチングサービスやイベントへの関心は比較的低い傾向となっています。

35～49歳は、「安定した仕事に就けていること」が70.8%、「結婚資金の確保」が60.4%と高く、経済的安定を前提とした傾向がみられます。

50～64歳は、「結婚後の生活支援」が73.8%と最も高いほか、「若者向けイベント」が48.8%、や「マッチングサービス」が31.3%で若者の結婚支援への回答が高い傾向です。

65歳以上は、「安定した仕事に就けていること」が66.7%、「結婚後の生活支援」が65.5%で高いほか、「若者向けのイベント」も50.8%と高い傾向です。

【性別・年齢別】

		結婚相談所やマッチングサービスの充実	結婚を希望する若者向けのイベントの充実	結婚資金が確保できること	結婚後の生活支援（住宅、育児支援など）	結婚後の仕事・家庭の両立を支援する施策	安定した仕事に就けていること	説明（婚姻届、財産分与、税制など）	結婚に関する法律や制度の	生活設計に役立つセミナーやワークショップ	既婚者の実例や体験談	親や周囲の同意を得られること	その他	特に無い
全体(n=420)		29.3%	42.4%	40.7%	68.1%	57.1%	63.1%	8.6%	11.9%	4.3%	9.3%	5.2%	8.1%	
性別	男性(n=188)	32.4%	40.4%	42.0%	65.4%	46.8%	65.4%	9.6%	10.6%	2.7%	8.0%	4.8%	9.6%	
	女性(n=202)	25.7%	42.1%	40.6%	70.8%	65.8%	59.4%	7.4%	12.4%	6.4%	8.9%	5.4%	7.4%	
	回答しない(n=5)	40.0%	40.0%	40.0%	100.0%	100.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	0.0%	
年齢	15～34歳	14.6%	24.7%	59.6%	70.8%	56.2%	53.9%	19.1%	7.9%	5.6%	10.1%	5.6%	9.0%	
	35～49歳	27.1%	22.9%	60.4%	66.7%	52.1%	70.8%	4.2%	10.4%	0.0%	10.4%	6.3%	12.5%	
	50～64歳	31.3%	48.8%	36.3%	73.8%	58.8%	56.3%	7.5%	10.0%	1.3%	6.3%	3.8%	5.0%	
	65歳以上	35.6%	50.8%	29.4%	65.5%	58.2%	66.7%	5.6%	14.1%	6.8%	8.5%	5.6%	8.5%	

〈その他の回答〉

本人の考え方だと思う。
当人の気持ちが最優先なので、町が首をつっこむことではない。
配偶者がいてもいいと考えるときもある。
本人次第周りが無理にさせるものでもないと思います。
結婚しないという選択もあって良いと思っている。
自分の好きなことをして満足して生きていること。
出産時医療機関から公的機関に直に請求、支払いをしてほしい。
子ども達の遊べる場所作りー公園、児童館。 e t c
子育て支援。
所得の増加。
労働時間の短縮、暮らせる給与。
安定した職場が住居の近くであること。
飲み屋がある事、夜間の移動手段がある事。
昔の大家族と違い核家族の中でどんな形態を創出するか迷う。
仲人による照会。
障害が有るので無理だと思う。
まず自分の人生を本気で本音で生きること。すると、それに相応しい出会いがある。そういった自己啓発や対話の場。
パートナーシップ制度など、LGBTQ に当てはまる人でも家庭を築きやすい配慮。
そもそも人が少ない→出会いがない→町を出るべき。
近所で引き篭り 50 代が多い現状を把握し、改善を期待する。
すいませんが、結婚したいのにできない方の問題を深く理解していないので効果的な施策についてわかりません。

6 出産について

(1) 子どもの人数 [単回答]

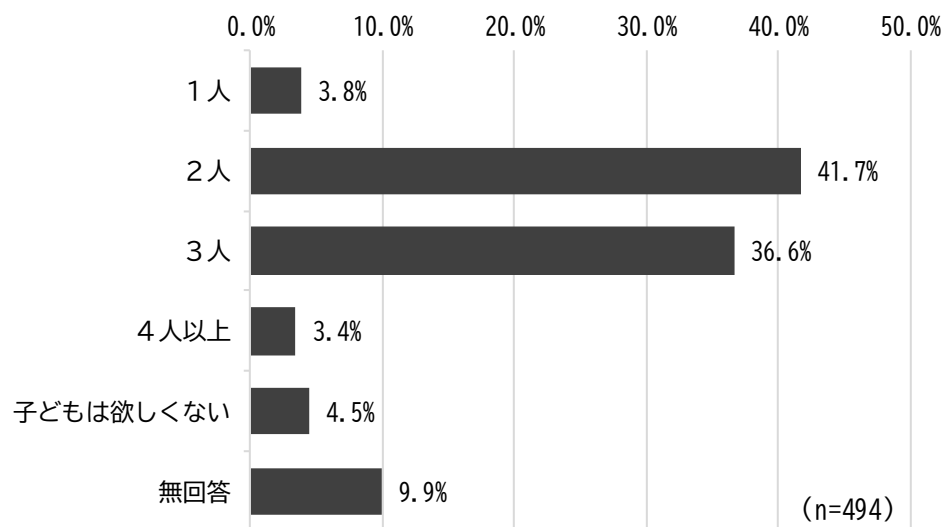
問 15 お子さんの人数について、あなたが理想とする人数と実際の人数を教えてください。

1) 理想の子どもの人数（1つ選んで○）

全体でみると、「2人」が41.7%、「3人」が36.6%で、多くの回答者が2人または3人の子どもを理想としています。

一方、「子どもは欲しくない」は4.5%となっています。

【全体】

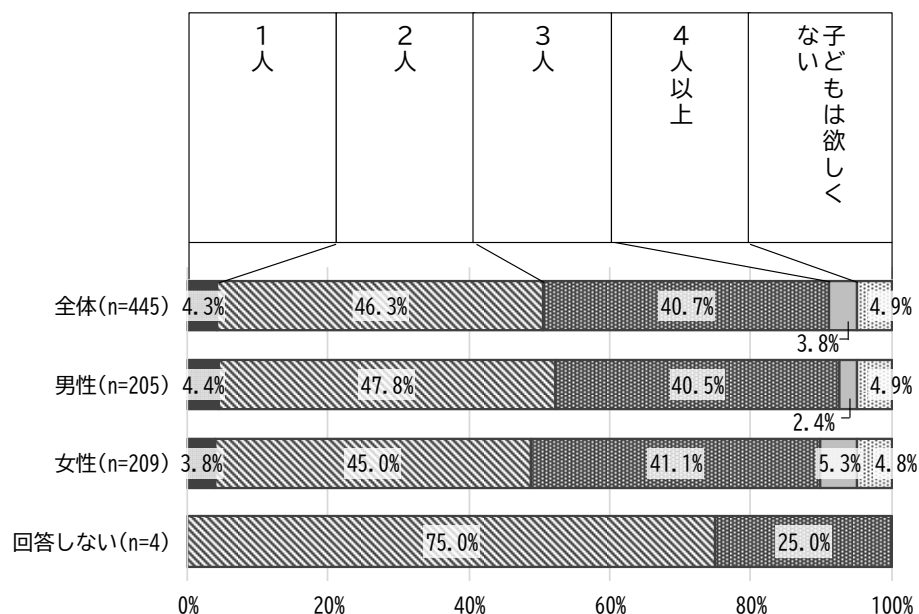


性別でみると、男性は、「2人」が47.8%、「3人」が40.5%となっています。

女性も、「2人」が45.0%、「3人」が41.1%で、男性と概ね同様の傾向となっています。

また、「子どもは欲しくない」は、男性が4.9%、女性が4.8%で男女とも同水準となっています。

【性別】

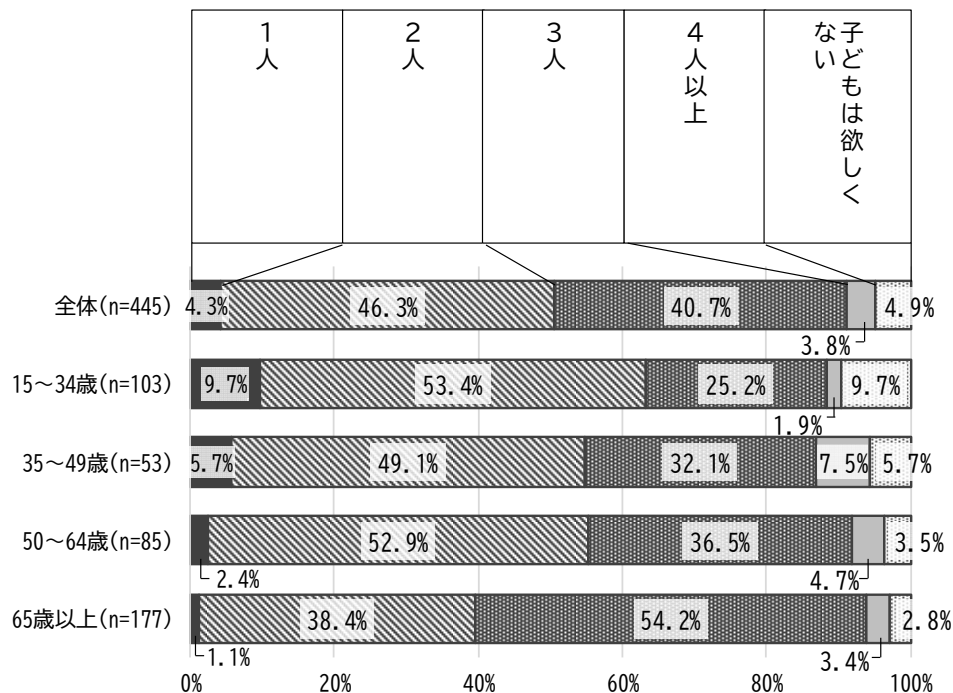


年齢別でみると、15～34歳では、「2人」が53.4%と最も高い回答となっています。次いで、「3人」が25.2%となっています。また、「1人」および「子どもは欲しくない」がそれぞれ9.7%で、他の年齢層と比較して低い傾向となっています。

35～49歳と50～64歳は、それぞれ「2人」が最も高く、次いで「3人」となっています。また35～49歳は、「4人以上」を理想とする割合が7.5%で他の年齢層より高く、多人数を理想とする傾向となっています。

65歳以上は、他の年齢層とは異なり、「3人」が54.2%と半数を占めています。

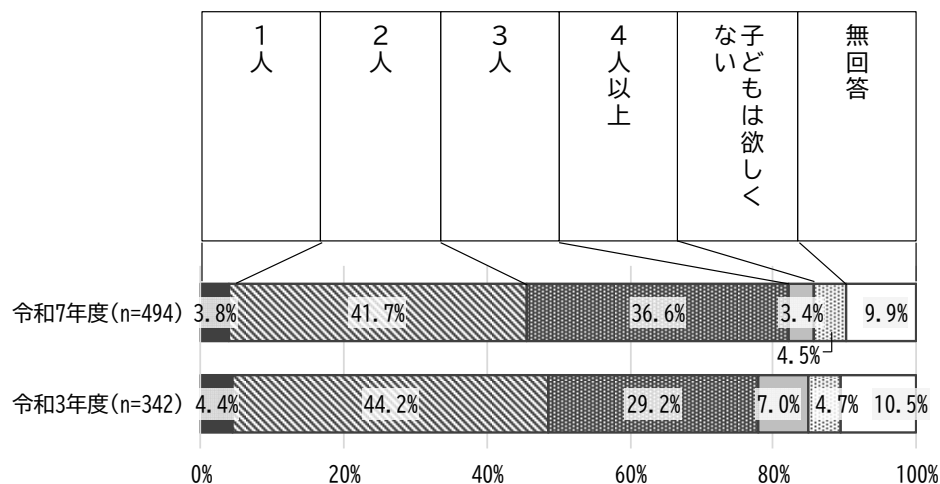
【年齢別】



【前回調査との比較】

前回調査との比較でみると、「3人」が29.2%から36.6%へ上昇し、「2人」は44.2%から41.7%へ減少となっています。

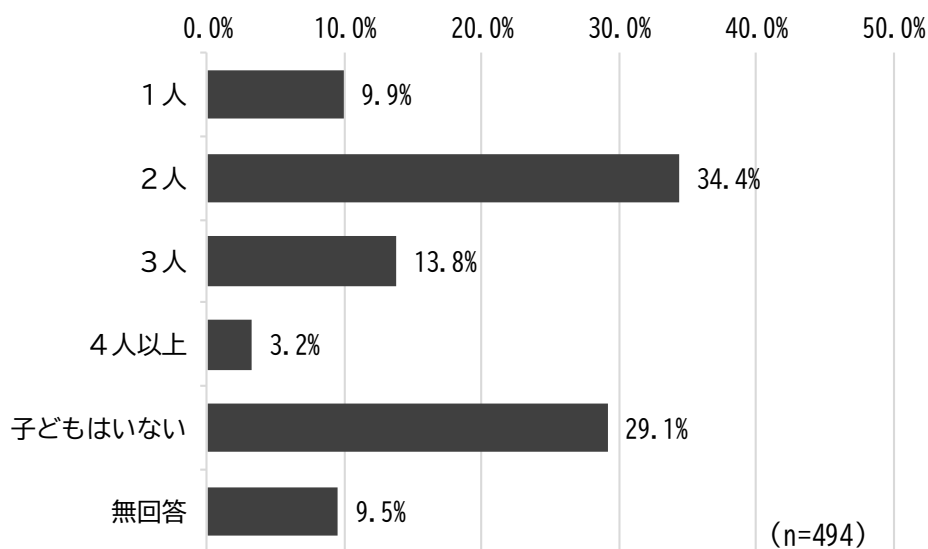
また、「1人」が4.4%から3.8%、「子どもは欲しくない」が4.7%から4.5%へそれぞれ微減となっています。



2) 実際の子どもの人数（1つ選んで○）

全体でみると、「2人」が34.4%、「3人」が13.8%、「1人」が9.9%となっています。一方で、「子どもはいない」は29.1%でした。

【全体】

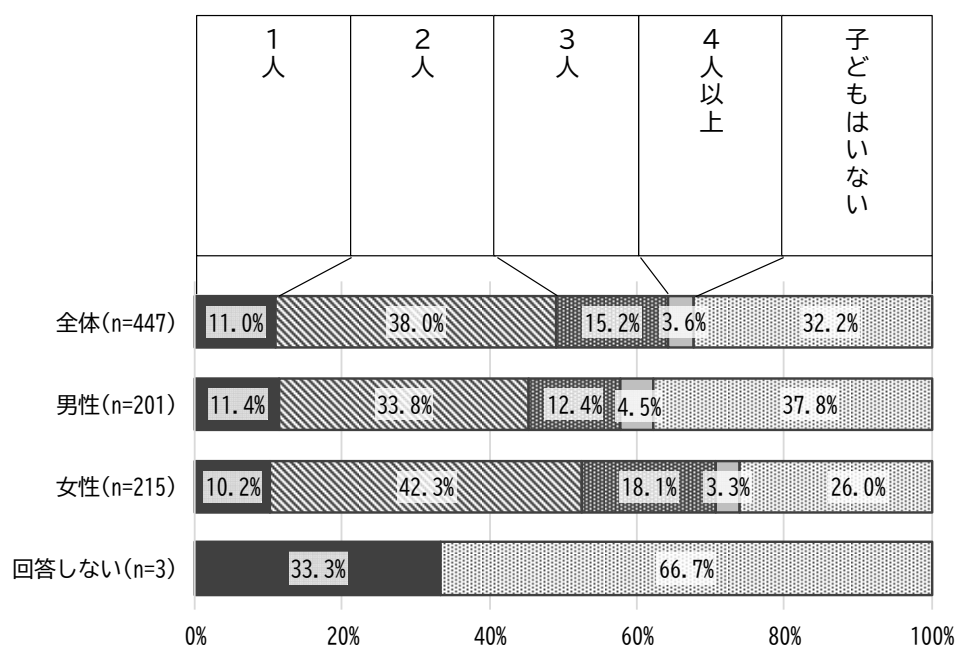


性別で見ると、「2人」の子どもを持つ割合は、男性が33.8%、女性が42.3%で女性の回答が高くなっています。また、「3人」の子どもを持つ割合は男性が12.4%、女性が18.1%で女性の回答が高くなっています。

「1人」の子どもを持つ割合は、男性が11.4%、女性が10.2%で、性別による大きな差はみられません。

一方、「子どもはいない」は、男性が37.8%、女性が26.0%となっています。

【性別】

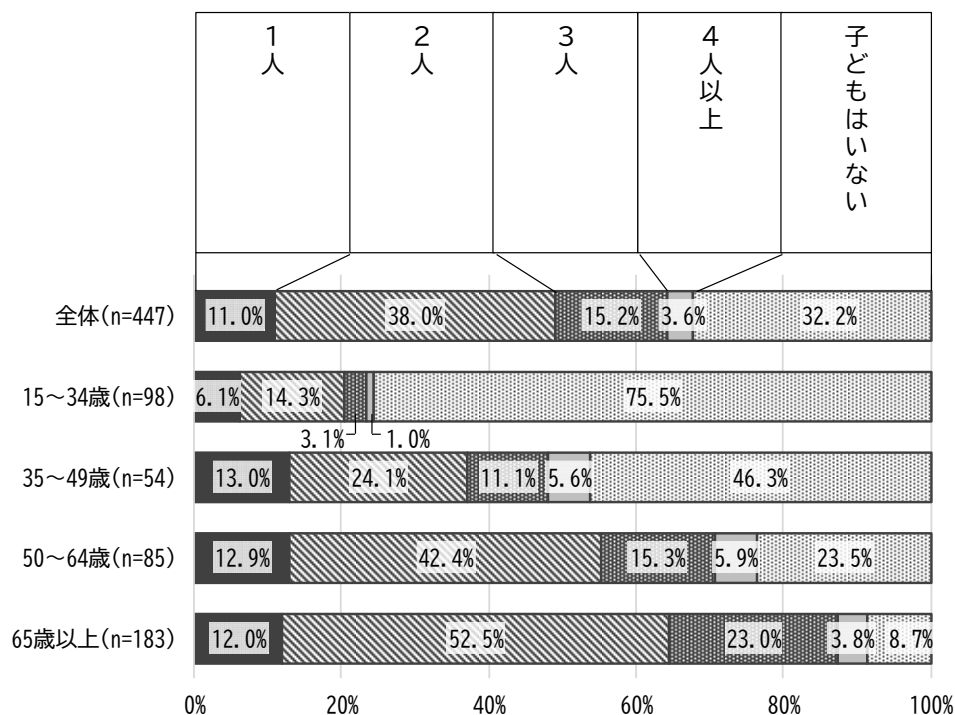


年齢別でみると、「2人」の子どもを持つ割合は、50～64歳が42.4%、65歳以上が52.5%と高い年齢層で割合が高くなっています。

「3人」の子どもを持つ割合も、年齢が上がるにつれて高くなる傾向で、65歳以上は23.0%となっています。

一方、「子どもはいない」は、15～34歳が75.5%となっています。これは、未婚者やまだ出産・子育てに至っていない層が多い傾向です。

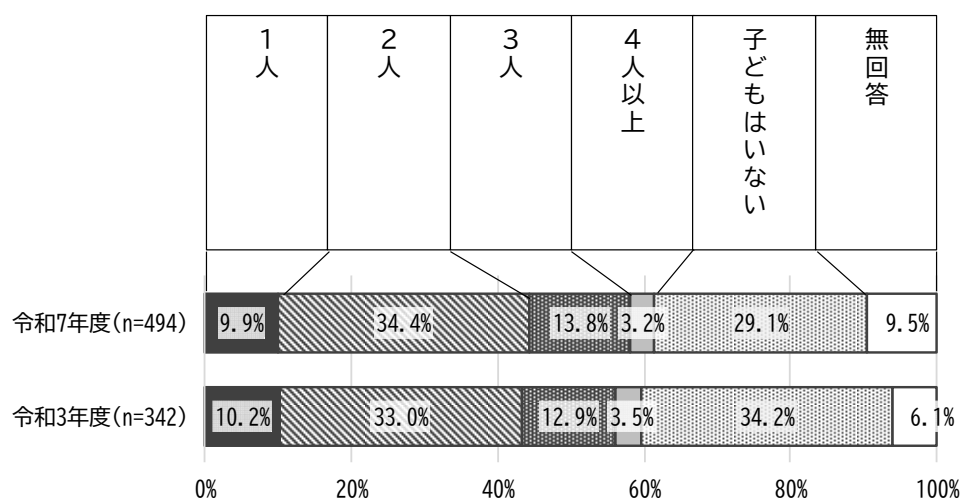
【年齢別】



前回調査との比較では、「2人」の子どもを持つ割合は33.0%から34.4%、「3人」の子どもを持つ割合も12.9%から13.8%へ、それぞれ上昇しています。また、「1人」の子どもを持つ割合は10.2%から9.9%へ減少しています。

一方、「子どもはいない」と回答した割合は、34.2%から29.1%へ減少となっています。

【前回調査との比較】



(2) 理想の人数を実現できない理由〔複数回答〕

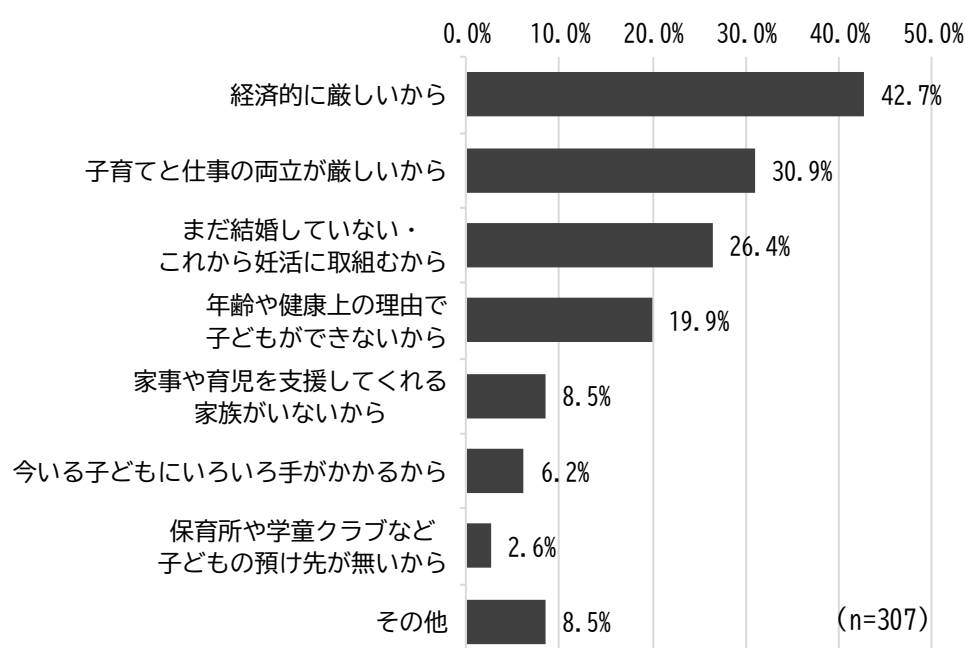
問 16 理想の子ども的人数を実現できていない方は、その要因・理由は何ですか。
(2つまで選んで○)

全体でみると、「経済的に厳しいから」が42.7%で最も多い回答となっています。

次いで「子育てと仕事の両立が厳しいから」が30.9%、「まだ結婚していない・これから妊娠に取組むから」が26.4%でした。

さらに、「年齢や健康上の理由で子どもができないから」が19.9%となっており、経済的な側面、ワークライフバランスや健康上の理由等が挙げられています。

【全体】



〈その他の回答〉

高年齢のため	3
学生で未婚のため	3
未婚だから	2
離婚後、再婚していないから	1
体力	1
不妊症、不育症	1
下の子がまだ小さい。これから仕事をはじめるため。	1
私の子育て時代は主人の収入が充分あった為迷いなく3人育てたが今は将来を考えると二人も難しいかもしれない。	1
子育てのあるべき形を多方面（親族・行政）から押し付けられるから。また子育てに伴って所属させられる組織やその活動に納得できないから。	1
子供は何人とかいえません。1人でも2人でも育てられればよいと思います。	1
1人1人考え条件は異なるので理想という設問はおかしいのでは…？	1
この質問自体にデリカシーを感じない色々な事情がある	1

性別で見ると、「経済的に厳しいから」は、男性が 46.3%、女性が 39.6%で男性が女性より高く回答しています。

一方、「子育てと仕事の両立が厳しいから」は、女性が 36.6%で男性の 26.8%を上回っており、女性の方が困難を抱えている傾向となっています。

また、「年齢や健康上の理由で子どもができないから」は、女性が 20.1%、男性が 18.1%で女性の回答がやや高くなっています。

年齢別でみると、「まだ結婚していない・これから妊活に取り組むから」は、15～34 歳が 62.1%で最も多くなっています。「経済的に厳しいから」は、年齢が上がるほど高くなる傾向で、50～64 歳は 45.5%、65 歳以上は 50.5%となっています。

また、「子育てと仕事の両立が厳しいから」は、35～49 歳で 26.2%、50～64 歳で 38.2%、65 歳以上では 41.7%と高くなっています。

さらに、「年齢や健康上の理由で子どもができないから」は、35～49 歳で 26.2%と最も高く、15～34 歳は 10.3%、50～64 歳および 65 歳以上では 20%台となっています。

【性別・年齢別】

		経済的に厳しいから	子育てと仕事の両立が厳しいから	家事や育児を支援してくれる家族がいから	保育所や学童がクラブなど子ども預け先が無いから	今いる子どもにいろいろな手がかるから	年齢や健康上の理由で子どもができないから	まだ結婚して組むから・これから妊活に取り組むから	その他
全体(n=307)		42.7%	30.9%	8.5%	2.6%	6.2%	19.9%	26.4%	8.5%
性別	男性(n=149)	46.3%	26.8%	7.4%	2.0%	5.4%	18.1%	27.5%	8.7%
	女性(n=134)	39.6%	36.6%	10.4%	2.2%	7.5%	20.1%	25.4%	6.7%
	回答しない(n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	33.3%
年齢	15～34歳(n=87)	34.5%	16.1%	2.3%	1.1%	4.6%	10.3%	62.1%	5.7%
	35～49歳(n=42)	38.1%	26.2%	7.1%	4.8%	7.1%	26.2%	28.6%	14.3%
	50～64歳(n=55)	45.5%	38.2%	9.1%	0.0%	9.1%	21.8%	18.2%	5.5%
	65歳以上(n=103)	50.5%	41.7%	14.6%	2.9%	5.8%	22.3%	1.9%	8.7%

7 子育て環境について

(1) 子育てをするうえで充実してほしいこと〔複数回答〕

質問 17 ときがわ町で子育てをするうえで、充実していると安心できるものは何ですか。

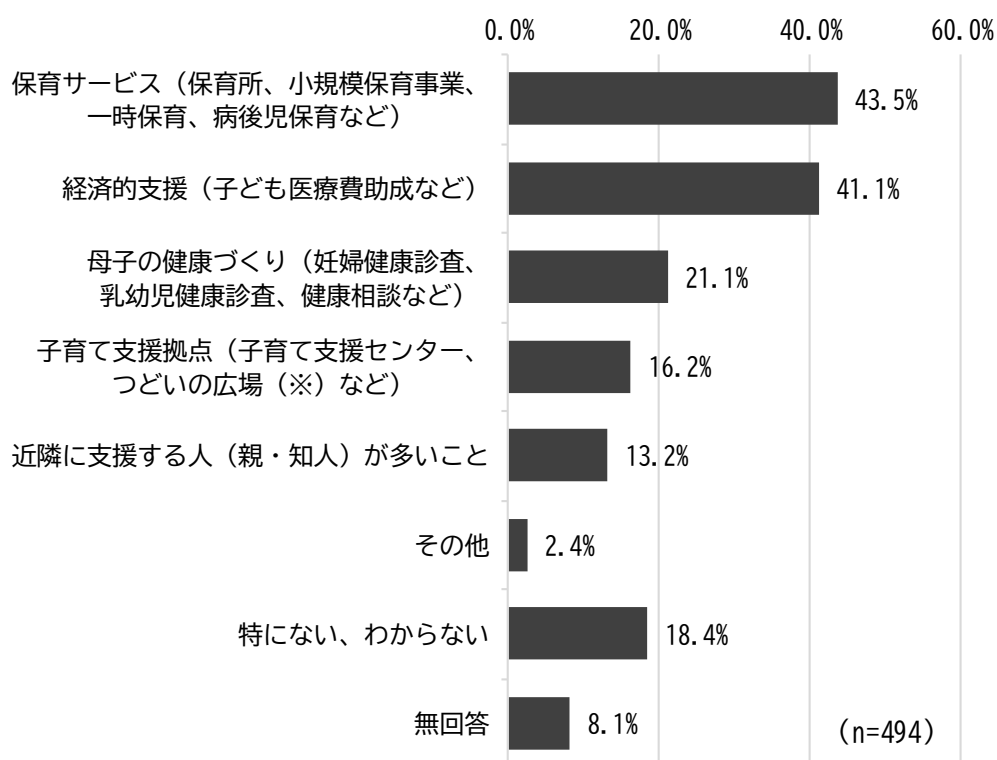
1) 幼児（2 つまで選んで○）

全体でみると、「保育サービス（保育所、小規模保育事業、一時保育、病後児保育など）」が 43.5%で最も高く、次いで「経済的支援（子ども医療費助成など）」が 41.1%となっています。

これらの2項目が他の選択肢と比較して高く、「保育の質の向上と利用しやすさ」と「経済的な安心感の提供」が強く求められています。

その他、「母子の健康づくり（妊婦健康診査、乳幼児健康診査、健康相談など）」が 21.1%、「子育て支援拠点（子育て支援センター、つどいの広場など）」が 16.2%、「近隣に支援する人（親・知人）が多いこと」が 13.2%となっています。

【全体】



※つどいの広場：子育て中の親子が交流できる地域子育て支援施設のこと

性別でみると、「保育サービス（保育所、小規模保育事業、一時保育、病後児保育など）」は女性が51.9%、男性が42.4%で女性がより重視しています。

「経済的支援（子ども医療費助成など）」も女性が46.2%、男性が41.9%で女性の方が重視している傾向となっています。

一方、「近隣に支援する人（親・知人）が多いこと」は男性が15.7%、女性が12.7%で男性の回答が高くなっています。

年齢別でみると、15～34歳は、「経済的支援」が50.0%を占め、次いで「保育サービス」も45.3%と高い回答となっています。

35～49歳は、「保育サービス」が47.2%、「経済的支援」が41.5%で上位を占めています。

50～64歳は、「保育サービス」が55.2%で他の年齢層と比べて高くなっています。

65歳以上は、「保育サービス」が44.8%、「経済的支援」が40.9%と高いほか、「母子の健康づくり」が27.1%、「子育て支援拠点」が23.8%で、他の年齢層より高い傾向となっています。

【性別・年齢別】

		健康母子の健康相談など	病後児保育事業、一時保育、小規模保育サービス（保育所、小規模保育事業など）	子育て支援センター、つどいの広場など	近隣に支援する人（親・知人）が多いこと	経済的支援（子ども医療費助成など）	その他	特になし、わからない
	全体(n=454)	22.9%	47.4%	17.6%	14.3%	44.7%	2.6%	20.0%
性別	男性(n=210)	21.9%	42.4%	15.7%	15.7%	41.9%	1.9%	24.3%
	女性(n=212)	24.1%	51.9%	18.9%	12.7%	46.2%	3.3%	17.0%
	回答しない(n=5)	20.0%	60.0%	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%	0.0%
年齢	15～34歳(n=106)	23.6%	45.3%	11.3%	17.0%	50.0%	1.9%	20.8%
	35～49歳(n=53)	11.3%	47.2%	18.9%	15.1%	41.5%	9.4%	18.9%
	50～64歳(n=87)	21.8%	55.2%	11.5%	14.9%	44.8%	0.0%	17.2%
	65歳以上(n=181)	27.1%	44.8%	23.8%	11.6%	40.9%	2.2%	22.1%

〈その他の回答〉

公園がある事、多世代が過ごせる場所が屋外である事。
地域に公園等が無く他の地域から移り住んで来たときどこに行っているのか大変さびしかった。
私がこの町に来た時は子育てが終わっていたので町の支援状況に関心がなかったためよく分からないが緑と川等自然環境が良いのでそれを活かせる遊び場があるといいと思います。
大きな木のある広い公園
自然のなかで遊べるプレーパーク
自然環境。生活の余裕。
仕事。支援ではなく自立型を目指す方向
産院
公共交通機関の利便性向上、あるいは車を持つことへの支援
各地で9才までの子供が1,130名行方不明とか守りたい。
子育て終了している。

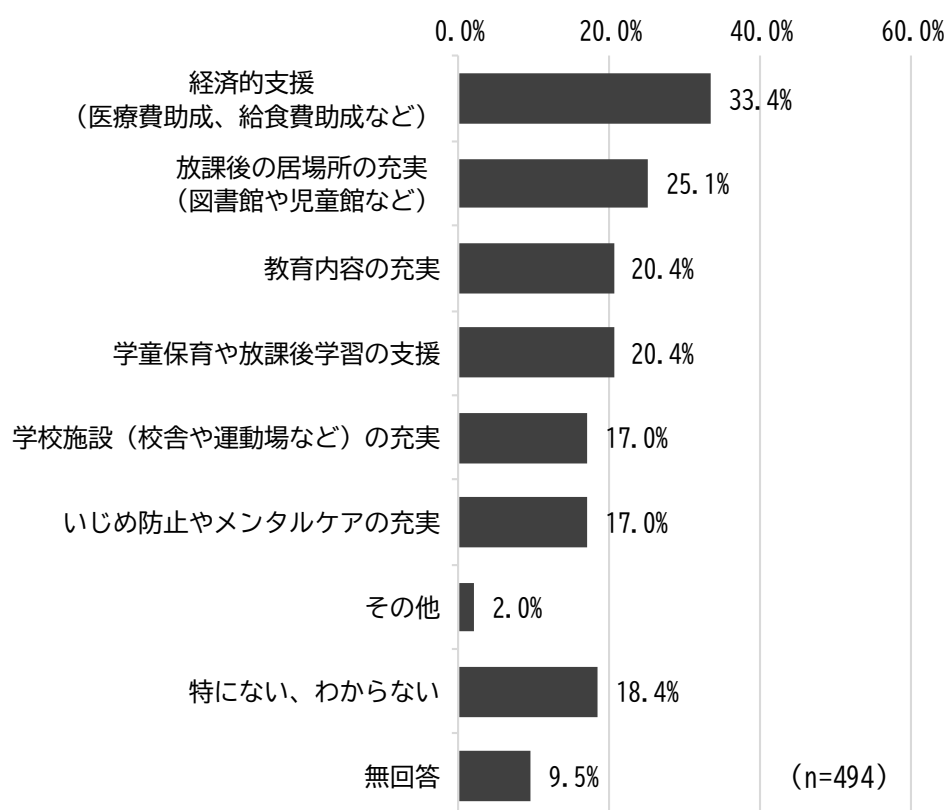
2) 小中学生（2つまで選んで○）

全体でみると、「経済的支援（医療費助成、給食費助成など）」が 33.4%で最も高く、次いで、「放課後の居場所の充実（図書館や児童館など）」が 25.1%となっています。

また、「教育内容の充実」と「学童保育や放課後学習の支援」が共に 20.4%で、ニーズの高い項目となっています。

その他、「学校施設（校舎や運動場など）の充実」と「いじめ防止やメンタルケアの充実」がそれぞれ 17.0%となっています。

【全体】



〈その他の回答〉

町内の小中学校を合併させること。
子供が少ないから町内統合するのがいいかと思います。
子供が勉強したくなる授業が行われること！！
教諭の適切な対応。
3(放課後の居場所)と5(学童保育等)は同じ位必要と思います。
不登校のこどもの居場所の充実。
スポーツ少年団（部活）の充実。
自転車道や歩道の充実、地域間を安心して移動できる。
自然環境。生活の余裕。

性別でみると、女性は、「経済的支援（医療費助成、給食費助成など）」（女性 39.0%、男性 35.2%）、「放課後の居場所の充実（図書館や児童館など）」（女性 30.2%、男性 24.3%）、「学童保育や放課後学習の支援」（女性 23.4%、男性 21.0%）、「いじめ防止やメンタルケアの充実」（女性 19.5%、男性 17.6%）の各項目で、高い回答となっています。

男性は「教育内容の充実」（男性 23.3%、女性 21.5%）で女性より高い回答となっています。

年齢別でみると、「経済的支援」が全ての年齢層で最も高い回答となっています。

この他、15～34 歳は「学校施設（校舎や運動場など）の充実」が 25.5%で、35～49 歳は「放課後の居場所の充実」が 30.2%、「学童保育や放課後学習の支援」が 24.5%、50 歳以上（50～64 歳、65 歳以上）は、「学童保育や放課後学習の支援」がそれぞれ 23.0%、24.1%となっています。また 65 歳以上は、「放課後の居場所の充実」も 29.9%と高くなっています。

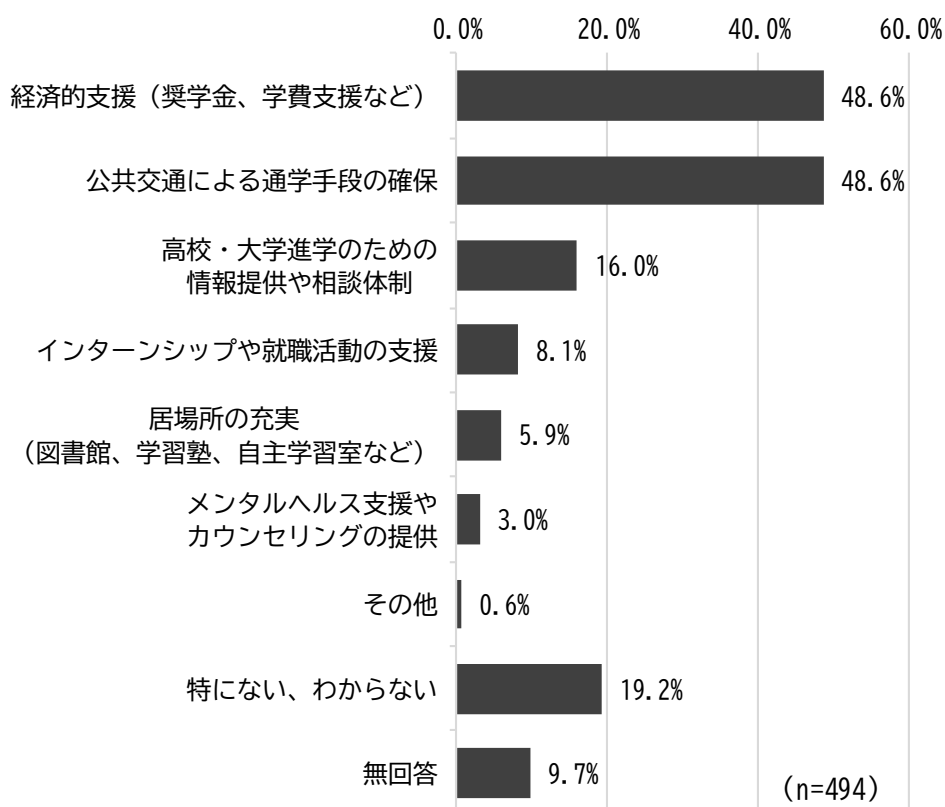
【性別・年齢別】

		学校施設（校舎や運動場など）の充実	教育内容の充実	放課後の居場所の充実（図書館や児童館など）	経済的支援（医療費助成、給食費助成など）	学童保育や放課後学習の支援	いじめ防止やメンタルケアの充実	その他	特にない、わからない
全体(n=447)		18.8%	22.6%	27.7%	36.9%	22.6%	18.8%	2.2%	20.4%
性別	男性(n=210)	18.1%	23.3%	24.3%	35.2%	21.0%	17.6%	2.4%	23.8%
	女性(n=205)	20.5%	21.5%	30.2%	39.0%	23.4%	19.5%	1.5%	17.1%
	回答しない(n=5)	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	40.0%	0.0%	20.0%
年齢	15～34歳(n=106)	25.5%	23.6%	27.4%	41.5%	17.0%	17.9%	1.9%	16.0%
	35～49歳(n=53)	15.1%	22.6%	30.2%	34.0%	24.5%	11.3%	7.5%	18.9%
	50～64歳(n=87)	20.7%	20.7%	19.5%	40.2%	23.0%	21.8%	1.1%	21.8%
	65歳以上(n=174)	16.7%	22.4%	29.9%	33.9%	24.1%	19.5%	0.6%	23.0%

3) 高校・大学生（2つまで選んで○）

「経済的支援（奨学金、学費支援など）」と「公共交通による通学手段の確保」がともに48.6%で最も多く、次いで、「高校・大学進学のための情報提供や相談体制」が16.0%となっています。

【全体】



〈その他の回答〉

学校（高校・大学）がない

自然環境。生活の余裕。

性別でみると、男女ともに「経済的支援」と「公共交通による通学手段の確保」の回答が最も高く、特に要望が多い項目となっています。

女性は、男性と比較して、「公共交通による通学手段の確保」へのニーズがより高い（女性 56.6%、男性 50.7%）傾向となっています。また、「経済的支援」も女性がわずかに高い（女性 55.1%、男性 54.1%）傾向となっています。

この他、「高校・大学進学のための情報提供や相談体制」や、「インターンシップや就職活動の支援」において、女性のニーズが高い傾向となっています。

男性は、「居場所の充実（図書館、学習塾、自主学習室など）」のニーズが女性より高い（男性 8.1%、女性 4.9%）傾向となっています。

年齢別でも、「経済的支援」と「公共交通による通学手段の確保」の回答が最も多くニーズの高い項目となっています。

15～34 歳では、「経済的支援」と「公共交通による通学手段の確保」がともに 52.8%で最も高く、「インターンシップや就職活動の支援」（11.3%）が他の年齢層と比較して高い回答となっています。35～49 歳では、「公共交通による通学手段の確保」が 62.3%と全年齢層で最も高く、次いで「経済的支援」が 56.6%となっています。また、「居場所の充実」も 11.3%でニーズが高い傾向です。50～64 歳では、「経済的支援」が 57.5%で最も高く、次いで「公共交通による通学手段の確保」が 52.9%となっています。65 歳以上も「経済的支援」が 53.2%、「公共交通による通学手段の確保」が 51.4%と高いほか、「高校・大学進学のための情報提供や相談体制」も 21.4%で他の年齢層と比べて高くなっています。

【性別・年齢別】

		高校・大学進学のための情報提供や相談体制	インターシップや就職活動の支援	メンタルヘルス支援やカウンセリングの提供	経済的支援（奨学金、学費支援など）	居場所の充実（図書館、学習塾、自主学習室など）	公共交通による通学手段の確保	その他	特になし、わからない
全体(n=446)		17.7%	9.0%	3.4%	53.8%	6.5%	53.8%	0.7%	21.3%
性別	男性(n=209)	16.3%	6.2%	2.9%	54.1%	8.1%	50.7%	1.0%	23.9%
	女性(n=205)	19.0%	11.2%	3.9%	55.1%	4.9%	56.6%	0.0%	19.0%
	回答しない(n=5)	20.0%	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	60.0%	0.0%	20.0%
年齢	15～34歳(n=106)	18.9%	11.3%	4.7%	52.8%	7.5%	52.8%	0.9%	18.9%
	35～49歳(n=53)	9.4%	5.7%	1.9%	56.6%	11.3%	62.3%	1.9%	20.8%
	50～64歳(n=87)	13.8%	6.9%	3.4%	57.5%	4.6%	52.9%	0.0%	23.0%
	65歳以上(n=173)	21.4%	9.2%	2.9%	53.2%	5.8%	51.4%	0.0%	22.5%

8 教育環境について

(1) 町の教育施策についての評価 [単数回答]

質問 18 町の教育施策※はどの程度評価しますか。(1つ選んで○)

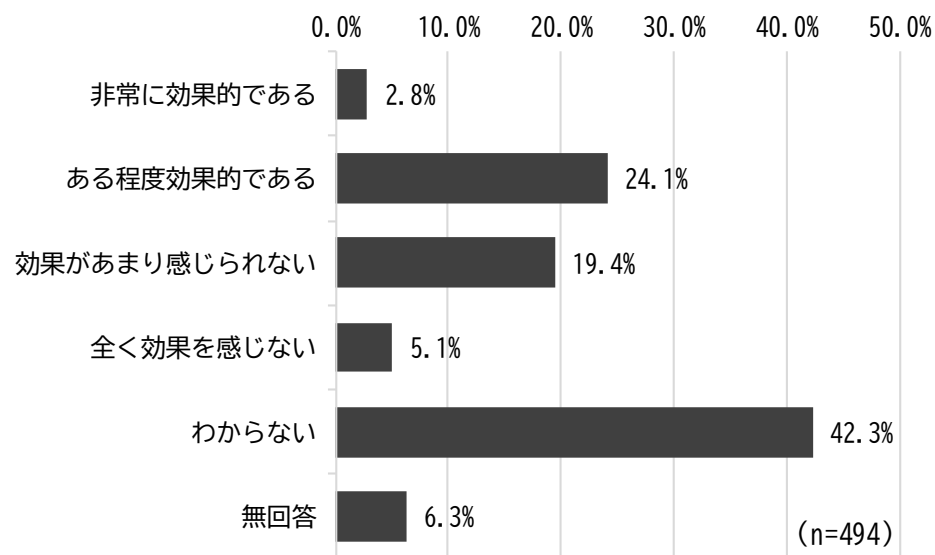
※基礎的学力の習得に向けた支援や取り組み

全体でみると、「非常に効果的である」が2.8%、「ある程度効果的である」が24.1%で合わせると、約26.9%は一定の効果を感じています。

また、「全く効果を感じない」が5.1%、「効果があまり感じられない」が19.4%で合わせると、約24.5%が効果を感じていないとなっています。

一方、「わからない」が42.3%と半数近く回答があり、施策の認知度や効果の実感に関して、判断しかねている傾向となっています。

【全体】

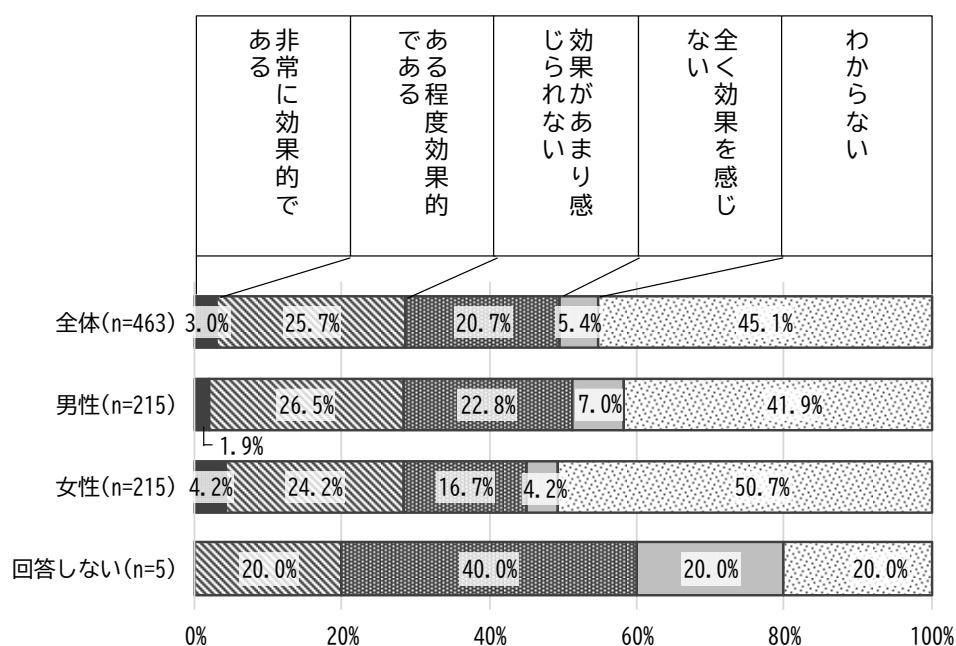


性別で見ると、「非常に効果的である」は、女性が4.2%、男性が1.9%で、「ある程度効果的である」は、男性が26.5%、女性が24.2%となっており、概ね男女とも同程度が肯定する傾向となっています。

一方、「効果があまり感じられない」は男性が22.8%、女性が16.7%、また、「全く効果を感じない」は男性が7.0%、女性が4.2%で、男性の方が否定的な割合がやや高くなっています。

さらに「わからない」は、女性が50.7%、男性が41.9%で女性の回答が上回っており、女性は施策の効果について判断しかねている傾向となっています。

【性別】

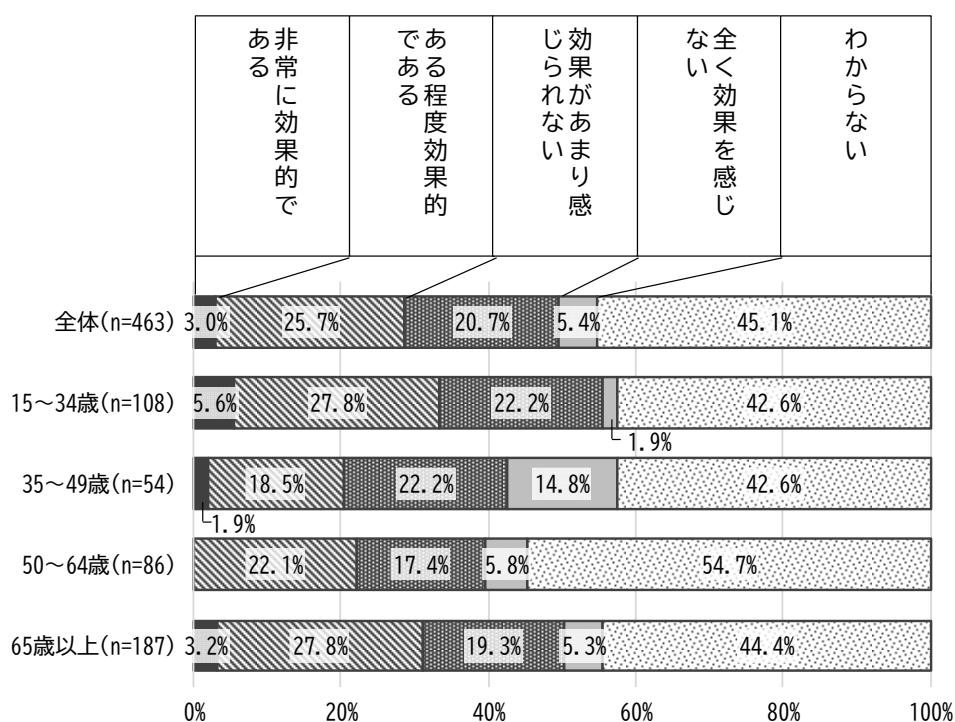


年齢別で見ると、「非常に効果的である」は15～34歳が5.6%で、65歳以上が3.2%、35～49歳が1.9%となっています。また、「ある程度効果的である」は、15～34歳と65歳以上が27.8%、35～49歳が18.5%、50～64歳が22.1%となっており、15～34歳と65歳以上で肯定的な回答がやや高くなっています。

一方、「効果があまり感じられない」は、15～34歳と35～49歳でそれぞれ22.2%、50～64歳は17.4%、65歳以上は19.3%で、「全く効果を感じない」は、35～49歳が14.8%、50～64歳が5.8%、65歳以上が5.3%となっています。

また、「わからない」は50～64歳が54.7%と高く、他の年齢層も40%を超えており、施策の効果について判断しかねている傾向となっています。

【年齢別】



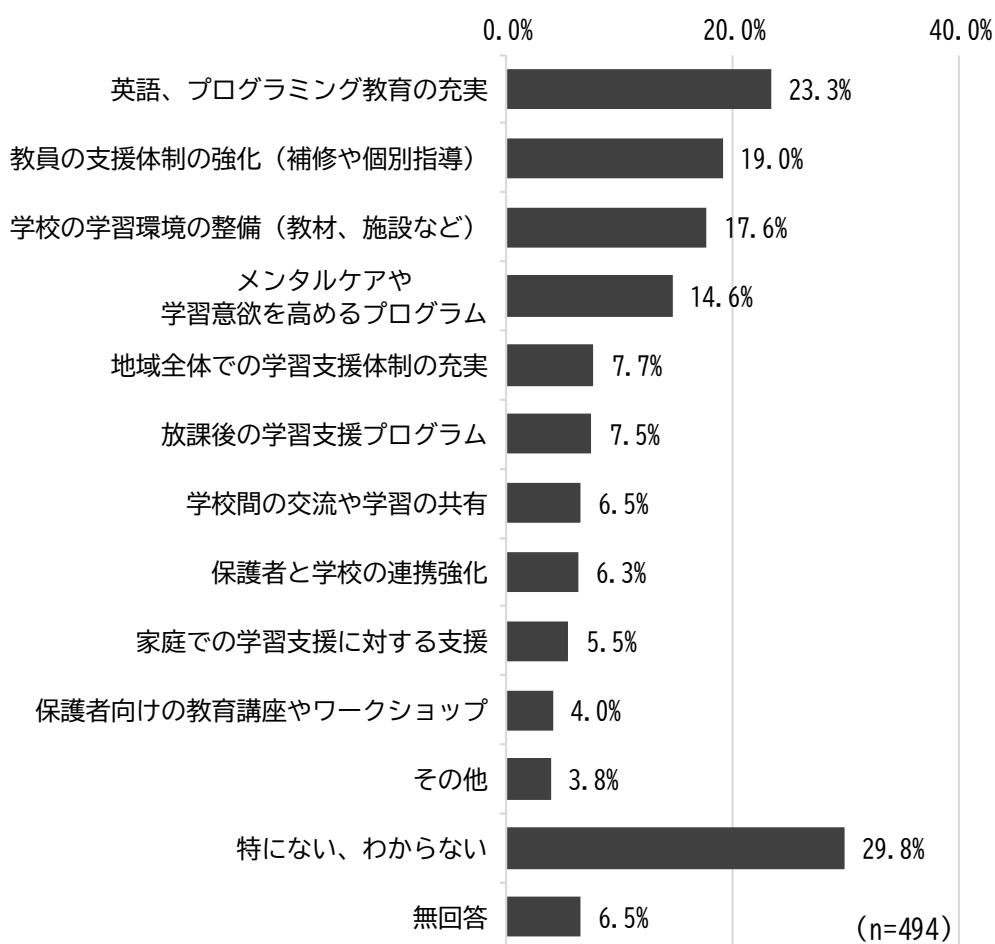
(2) 基礎学力向上のための取り組み〔複数回答〕

質問 19 ときがわ町で基礎的学力向上のために、充実または改善してほしい取り組みがあればお聞かせください。（2つまで選んで○）

全体でみると、「英語、プログラミング教育の充実」が 23.3%、「教員の支援体制の強化（補修や個別指導）」が 19.0%、「学校の学習環境の整備（教材、施設など）」が 17.6%、「メンタルケアや学習意欲を高めるプログラム」が 14.6%と続いています。

一方で、「特にない、わからない」が 29.8%で、回答者の約 3 分の 1 は具体的な要望がありませんでした。

【全体】



性別でみると、「英語、プログラミング教育の充実」は、男性が 24.1%、女性が 25.2%と、男女ともに高く、重視されています。

男性は、「教員の支援体制の強化」が 21.8%、「保護者と学校の連携強化」が 6.9%、「地域全体での学習支援体制の充実」が男性 8.8%等で女性より高い回答となっています。

女性は、「放課後の学習支援プログラム」が 8.4%、「学校間の交流や学習の共有」が 8.9%で男性より高い回答となっています。

一方、「特にない、わからない」では、男性が 31.0%、女性は 34.6%で男女ともに高くなっています。

年齢別でみると、若年層（15～34 歳、35～49 歳）は、「英語、プログラミング教育の充実」の回答が高く、特に強く求められています。

また 15～34 歳では、「学校の学習環境の整備（教材、施設など）」が 24.1%、「教員の支援体制の強化」が 21.3%、「メンタルケアや学習意欲を高めるプログラム」も 17.6%となっています。35～49 歳は、「放課後の学習支援プログラム」が 14.8%となっています。

50 歳以上では、「特にない、わからない」の割合が高く、50～64 歳は 37.5%、65 歳以上は 36.4%となっています。

65 歳以上では、「教員の支援体制の強化（補修や個別指導）」が 23.9%と他の年齢層と比べて高く、「保護者と学校の連携強化」も 9.8%となっています。

【性別・年齢別】

		学校の学習環境の整備（教材、施設など）	教員の支援体制の強化（補修や個別指導）	英語、プログラミング教育の充実	保護者と学校の連携強化	地域全体での学習支援体制の充実	放課後の学習支援プログラム	家庭での学習支援に対する支援	保護者向けの教育講座やワークショップ	学校間の交流や学習の共有	メンタルケアや学習意欲を高めるプログラム	その他	特にない、わからない
全体(n=462)		18.8%	20.3%	24.9%	6.7%	8.2%	8.0%	5.8%	4.3%	6.9%	15.6%	4.1%	31.8%
性別	男性(n=216)	19.0%	21.8%	24.1%	6.9%	8.8%	6.9%	6.5%	5.1%	6.0%	14.8%	5.6%	31.0%
	女性(n=214)	18.2%	16.8%	25.2%	5.1%	7.0%	8.4%	6.1%	3.7%	8.9%	15.0%	2.3%	34.6%
	回答しない(n=4)	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%
年齢	15～34歳(n=108)	24.1%	21.3%	34.3%	4.6%	6.5%	6.5%	6.5%	4.6%	6.5%	17.6%	3.7%	24.1%
	35～49歳(n=54)	14.8%	9.3%	44.4%	0.0%	3.7%	14.8%	9.3%	5.6%	11.1%	14.8%	3.7%	27.8%
	50～64歳(n=88)	18.2%	14.8%	22.7%	3.4%	10.2%	9.1%	3.4%	4.5%	4.5%	11.4%	6.8%	37.5%
	65歳以上(n=184)	16.8%	23.9%	14.1%	9.8%	9.2%	6.5%	6.5%	3.8%	8.2%	15.2%	2.7%	36.4%

〈その他の回答〉

英会話ヒアリングリスニング発音。
アクティブラーニングや、学習方法の最先端を取り入れる、勉強の楽しさを教える先生とカリキュラムが必要。
プラニクヨゲンドラ氏のようなやり方をしてみしてほしい。
食育を最重要事項とする。
給食の質の改善。
(数年前から改善していないのなら)配布される端末の性能強化。
学力より主権者教育が必要。
子供の声を聞く体制を作れば学習意欲が出てくるのでは。
自主性の尊重、宿題が多すぎて自由な時間がない。
小中学校の統合。
登、下校時の交通施設（ガードレール等）設置して欲しい。
先生のオーバーワーク、詰めこみ教育をやめるべきと思う。
教員の質。
いじめに対する学校の先生の対応の改善。
町民が考えることですか？設問にギ問。
これは地域で取り組む課題ではない。無意味な質問。
他の町で学校終ったのでわからない。
現状をまったく把握していないので判断できる立場にない。

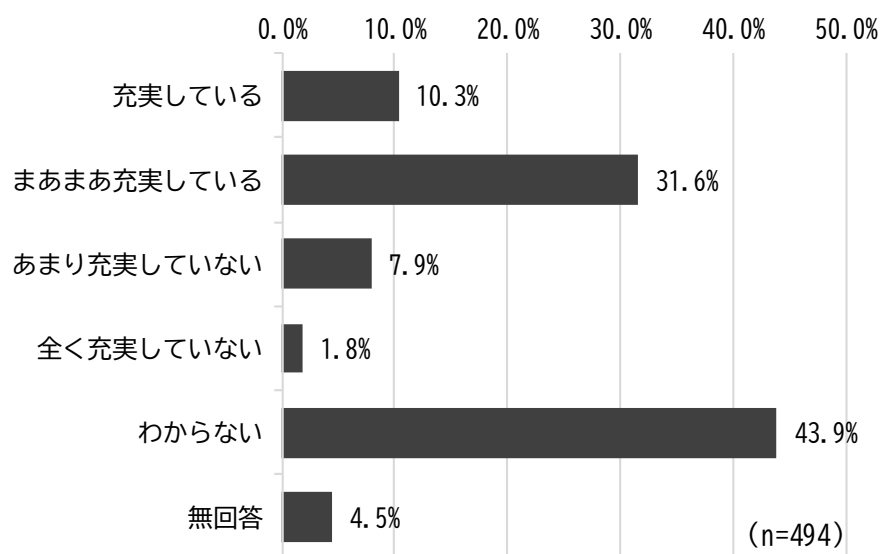
(3) 食育の現状について [単数回答]

質問 20 ときがわ町における食育の現状について、どのように思いますか。(1つ選んで○)

全体でみると、「充実している」が 10.3%、「まあまあ充実している」が 31.6%で、合せて 41.9%となり、一定程度の評価がみられます。

一方で、「わからない」が 43.9%と高く、食育の現状について、経験や認識の不足等が要因とみられ評価しにくいものと推察されます。

【全体】

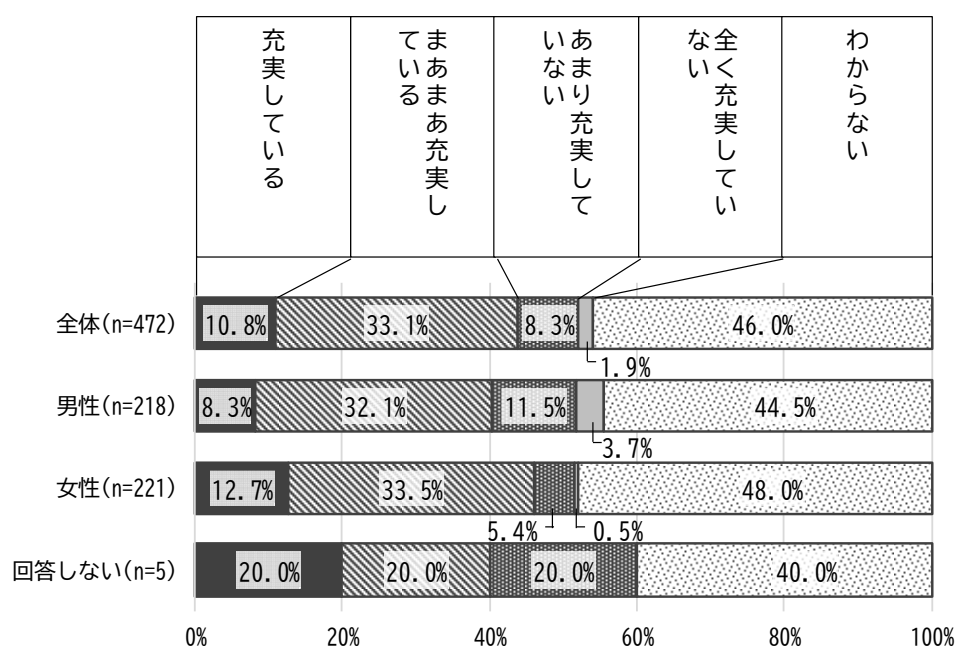


性別でみると、男性は、「充実している」が 8.3%、「まあまあ充実している」が 32.1%で、合せて 40.4%となっています。一方、「わからない」も 44.5%で回答が多くなっています。

女性は、「充実している」が 12.7%、「まあまあ充実している」が 33.5%で、合せて 46.2%となっています。一方、「わからない」は 48.0%となっています。

男女ともに一定の評価と評価の判断ができない傾向が概ね二分しています。

【性別】



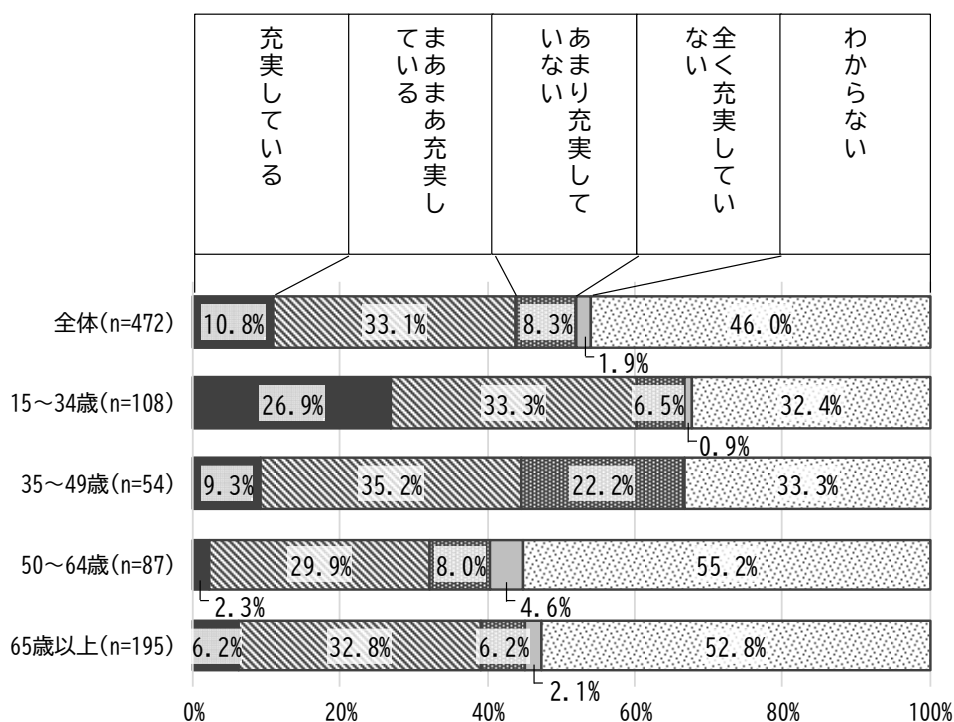
年齢別でみると、15～34歳は、「充実している」が26.9%、「まあまあ充実している」が33.3%で、合せて60.2%が評価しています。

35～49歳は、「充実している」は9.3%、「まあまあ充実している」は35.2%で、合せて44.5%が評価しています。一方、「あまり充実していない」が22.2%で他の年齢層と比較して、否定的な評価もやや高くなっています。

50～64歳は、「充実している」が2.3%で最も低く、「まあまあ充実している（29.9%）」と合せて32.2%となっています。また、「わからない」が55.2%で、食育に対する関心や情報の周知が十分でない傾向がうかがえます。

65歳以上は、「充実している」が6.2%、「まあまあ充実している」が32.8%で、合せて39.0%となっています。また、「わからない」は52.8%で、50～64歳に次いで高く、食育に対する関心や情報の周知が十分でない傾向がうかがえます。

【年齢別】



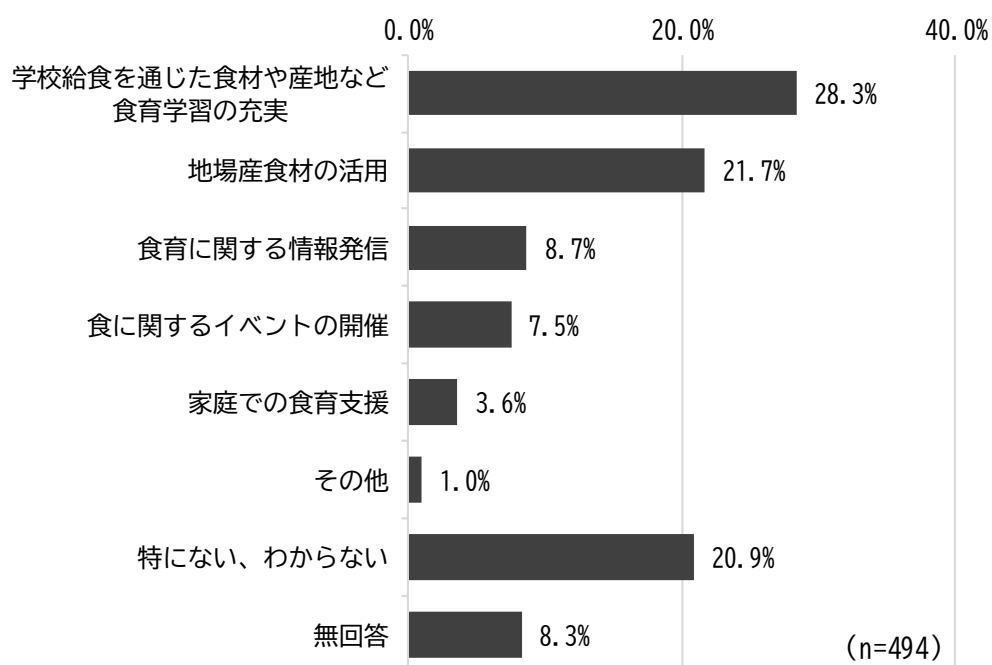
(4) 食育の推進に必要な取り組み〔単数回答〕

質問 21 ときがわ町で食育を推進するために、どのような取り組みが必要だと思いますか。(1つ選んで○)

全体でみると、「学校給食を通じた食材や産地などの食育学習の充実」が28.3%、「地場産食材の活用」が21.7%で多くなっています。次いで、「食育に関する情報発信」が8.7%、「食に関するイベントの開催」が7.5%となっています。

一方、「特にない・わからない」が20.9%の回答があり、一部には食育に対する関心や必要性の認識が十分に浸透していない層が存在することも推察されます。

【全体】

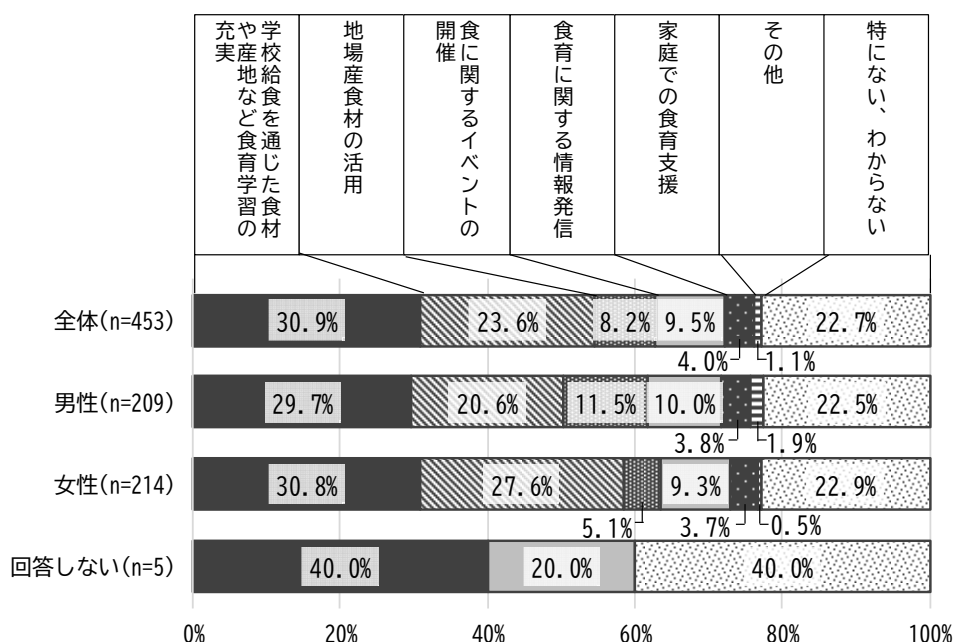


性別でみると、「学校給食を通じた食育学習の充実」は、男性が29.7%、女性が30.8%で、男女ともに重視している傾向です。次いで、「地場産食材の活用」は、男性が20.6%、女性が27.6%で、女性の回答がやや高くなっています。

また、「食に関するイベントの開催」は、男性が11.5%に対し、女性は5.1%と男女間の関心に差がみられます。

一方、「特にない、わからない」は、男性が22.5%、女性が22.9%で、男女間であまり差がなく、それぞれ一定数は食育への関心や必要性の認識が限定的であると推察されます。

【性別】

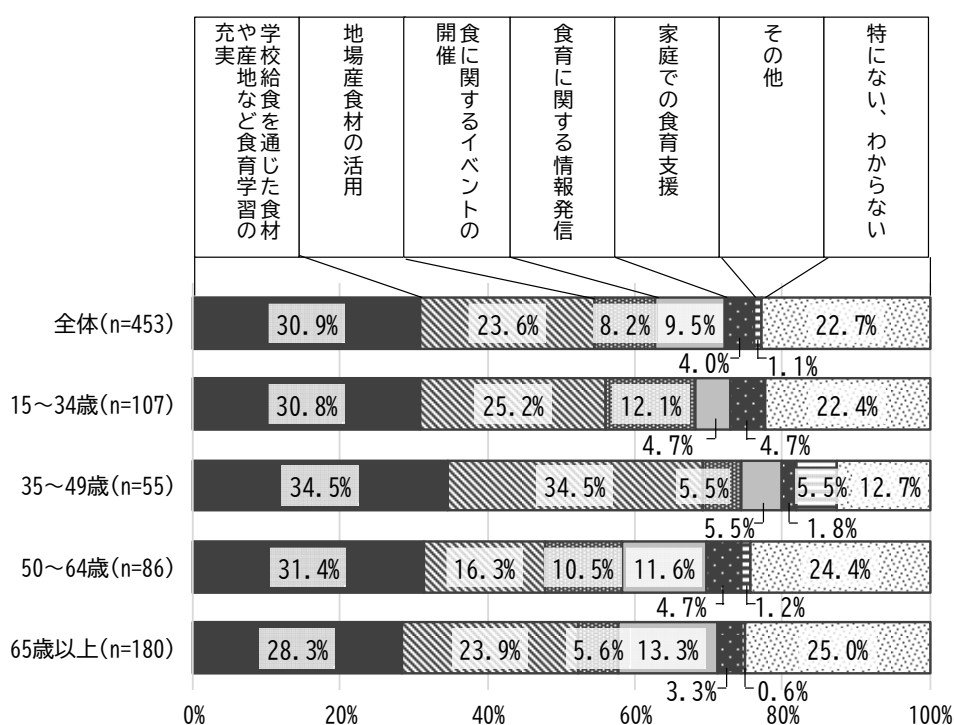


年齢別でみると、「学校給食を通じた食材や産地などの食育学習の充実」は、全ての年齢層で最も多い回答となっています。

次いで、「地場産食材の活用」は、35～49 歳が 34.5%で最も高く、50～64 歳は 16.3%で他の年齢層と比べて低い傾向となっています。

また、「特にない、わからない」は、35～49 歳が 12.7%で最も低く、食育に対して具体的な意見やニーズを有していると推察されます。一方で、15～34 歳 (22.4%)、50～64 歳 (24.4%)、65 歳以上 (25.0%) は、それぞれ 2 割を超える回答があります。

【年齢別】



〈その他の回答〉

食べ物に対する質の高い知識を教える側が持つこと。

地産地消オーガニック給食。

予算増。

断食。自身の身体状態をリセットし、何を食べると体がどう変化するのか身をもって理解できると思います。

現状を把握していないため判断できない。

(5) 小規模校対策の必要性について [単数回答]

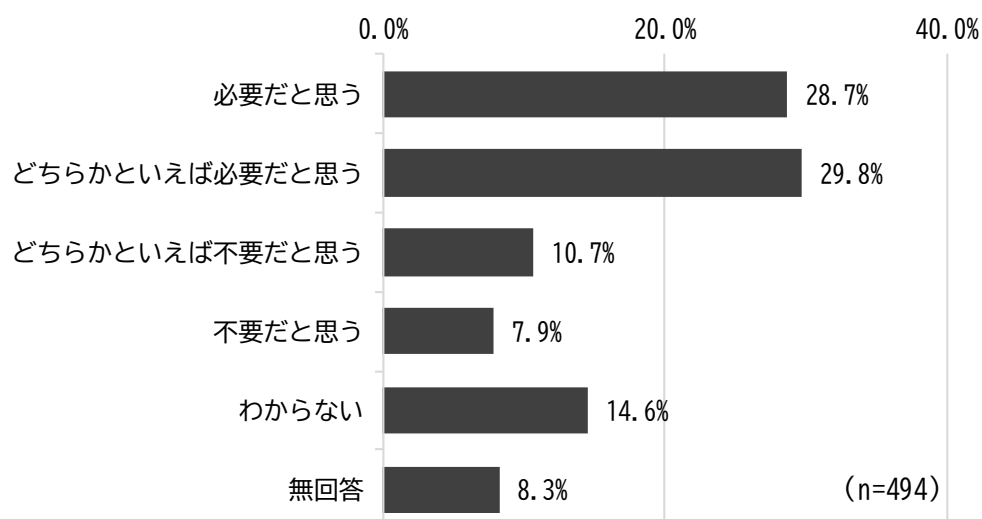
質問 22 ときがわ町では少子化が進んでいますが、子どもたちの学習環境の維持・充実や町の財政運営のために、小規模校対策（例えば学校の統合）は必要だと思いますか。（1つ選んで○）

全体でみると、「必要だと思う」が 28.7%、「どちらかといえば必要だと思う」29.8%で、合わせて 58.5%が対策の必要性を感じています。

一方で、「どちらかといえば不要だと思う」、「不要だと思う」と回答した人は合わせて 18.6%で、小規模校対策を不要とする意見は少数となっています。

また「わからない」が 14.6%あり、一定数が判断に迷っている結果です。

【全体】

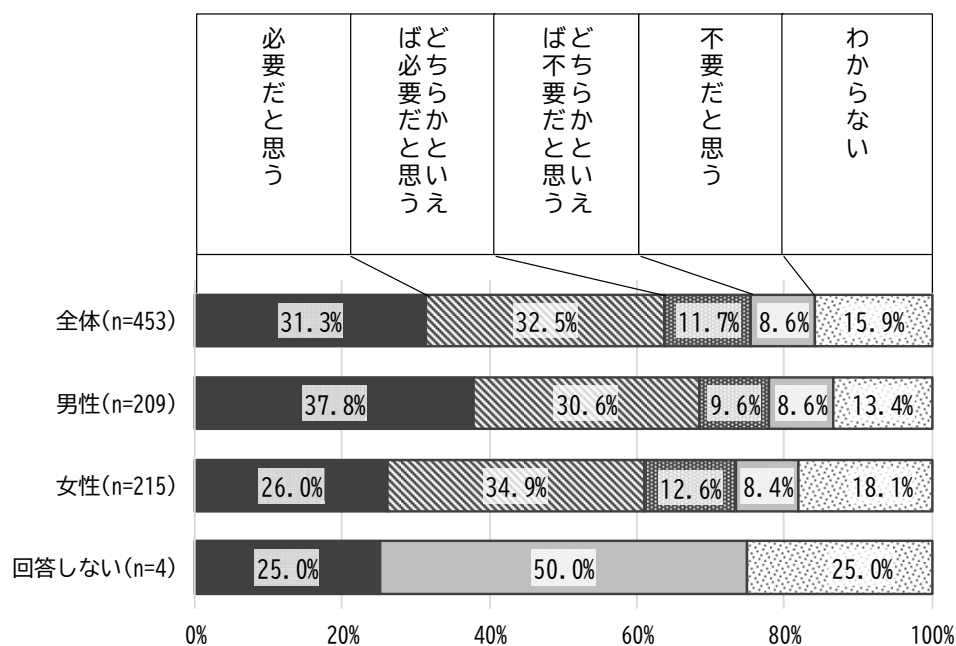


性別にみると、男性は、「必要だと思う」が 37.8%、「どちらかといえば必要だと思う」が 30.6%で、合わせて 68.4%が小規模校対策の必要性を感じています。一方、「不要」または「どちらかといえば不要」は合せて 18.2%、「わからない」は 13.4%となっています。

女性は、「必要だと思う」が 26.0%、「どちらかといえば必要だと思う」が 34.9%で、合わせて 60.9%が必要性を感じていますが、男性に比べてやや低い傾向となっています。

また、不要と考える割合は 21.0%、「わからない」も 18.1%で男性より高くなっています。

【性別】



年齢別にみると、15～34 歳は、「必要だと思う」が 30.8%、「どちらかといえば必要だと思う」が 28.0%で、合わせて 58.8%が小規模校対策の必要性を感じています。

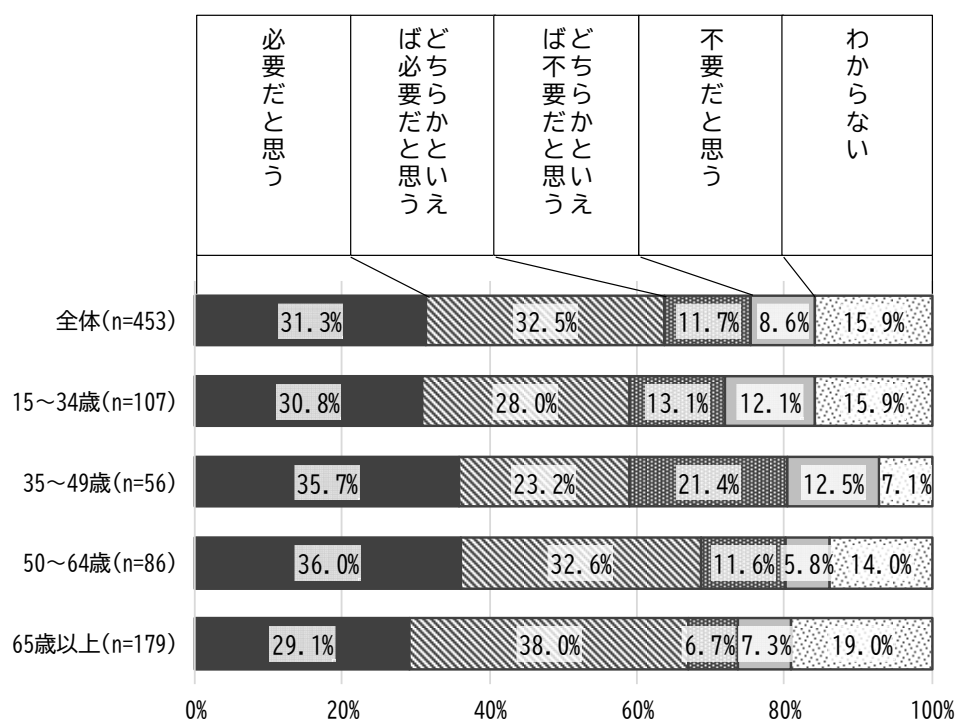
35～49 歳は、「必要だと思う」が 35.7%、「どちらかといえば必要だと思う」が 23.2%で、合わせて 58.9%が小規模校対策の必要性を感じています。

一方、「不要だと思う」、「どちらかといえば不要だと思う」が合せて 33.9%で他の年齢層より高い傾向です。

50～64 歳は、「必要だと思う」が 36.0%、「どちらかといえば必要だと思う」が 32.6%で、合わせて 68.6%が小規模校対策の必要性を感じています。

65 歳以上は、「必要だと思う」が 29.1%、「どちらかといえば必要だと思う」が 38.0%で、合わせて 67.1%が小規模校対策の必要性を感じています。

【年齢別】



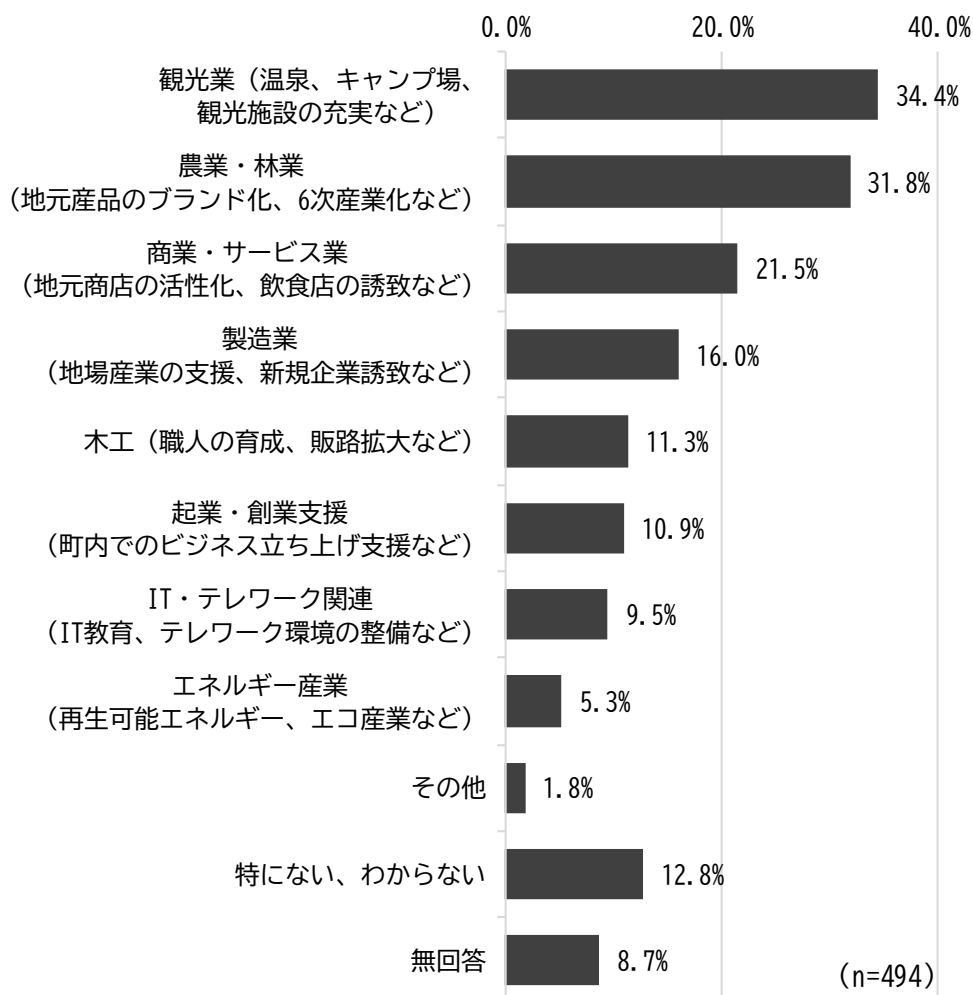
9 産業について

(1) 産業振興のために必要な支援〔複数回答〕

質問 23 あなたは、町の産業振興において力を入れるべき分野は何だと思えますか。(2つまで選んで○)

全体でみると、「観光業」が34.4%、「農業・林業」が31.8%となっています。
地域資源を活用した観光振興や農林業について関心が高い傾向となっています。
次いで、「商業・サービス業」が21.5%で地元商店の活性化や商業施設の誘致等への期待が
うかがえます。

【全体】



性別でみると、男性は、「農業・林業」が 38.8%、「観光業」が 34.5%で最も多く、次いで「製造業」が 23.3%、「商業・サービス業」が 21.4%となっており、一次産業やものづくりに対して、関心が高い傾向です。

一方、女性は、「観光業」が 40.5%で最も多く、次いで「農業・林業」が 30.7%、「商業・サービス業」が 26.0%となっており、農業・林業の他に地域の暮らしやサービスに関わる分野の関心が高い傾向です。

年齢別でみると、15～34 歳は、「観光業」が 43.0%で最も多く、次いで「農業・林業」が 28.0%、「商業・サービス業」が 26.2%となっています。

35～49 歳は、「農業・林業」が 41.5%、「観光業」が 39.6%となっています。

50～64 歳では、「観光業」が 38.4%、「農業・林業」が 37.2%で、「製造業」が 20.9%となっています。

65 歳以上では、「農業・林業」が 35.6%、「観光業」が 33.3%で多く、次いで「商業・サービス業」が 24.4%、「製造業」が 23.3%となっています。

定住意向でみると、「住み続けたい」は、「観光業」が 37.5%、「農業・林業」が 37.2%で多く、次いで、「商業・サービス業」が 22.2%となっています。

一方、「移りたい」は、「観光業」が 38.8%で最も多く、次いで、「商業・サービス業」が 28.6%、「農業・林業」が 27.6%となっています。「移りたい」の層は、生活環境の整備やサービスの充実への関心が高い傾向です。

【性別・年齢別・定住意向別】

		農業・林業（地元産品のブランド化、6次産業化など）	木工（職人の育成、販路拡大など）	観光業（温泉、キャンプ、観光施設の充実など）	商業・サービス業（地元商店の活性化、飲食店の誘致など）	製造業（地場産業の支援、新規企業誘致など）	IT・テレワーク関連（IT教育、テレワーク環境の整備など）	起業・創業支援（町内でのビジネス立ち上げ支援など）	エネルギー産業（再生可能エネルギー、エコ産業など）	その他	特になし、わからない
全体(n=451)		34.8%	12.4%	37.7%	23.5%	17.5%	10.4%	12.0%	5.8%	2.0%	14.0%
性別	男性(n=206)	38.8%	11.2%	34.5%	21.4%	23.3%	9.2%	17.0%	7.8%	1.9%	10.2%
	女性(n=215)	30.7%	10.7%	40.5%	26.0%	12.6%	11.6%	7.4%	4.7%	2.3%	18.6%
	回答しない(n=5)	40.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%
年齢	15～34歳(n=107)	28.0%	14.0%	43.0%	26.2%	10.3%	15.0%	11.2%	6.5%	2.8%	15.0%
	35～49歳(n=53)	41.5%	22.6%	39.6%	24.5%	7.5%	15.1%	17.0%	5.7%	0.0%	7.5%
	50～64歳(n=86)	37.2%	12.8%	38.4%	19.8%	20.9%	8.1%	11.6%	4.7%	2.3%	16.3%
	65歳以上(n=180)	35.6%	5.0%	33.3%	24.4%	23.3%	8.3%	11.1%	6.7%	2.2%	15.0%
定住意向	住み続けたい(n=347)	37.2%	11.8%	37.5%	22.2%	18.4%	9.2%	11.2%	5.2%	1.4%	14.7%
	移りたい(n=98)	27.6%	14.3%	38.8%	28.6%	14.3%	14.3%	12.2%	8.2%	4.1%	11.2%

〈その他の回答〉

直売所の充実
農地を受け継いだ会社員が、草刈りをするのが苦難なので、それに伴った農地活用や草刈り代行事業等に力を入れて欲しい。
「1 農業・林業」以外については特に産業を絞らない。やる気のある人に融資支援
大企業の誘致
世界に発信できる観光名所を作ってほしい（大学など）
飲食店をもっとアピールして欲しい
今の各地区の祭をまとめ町としてイベントを考えて欲しい
交通網の発展

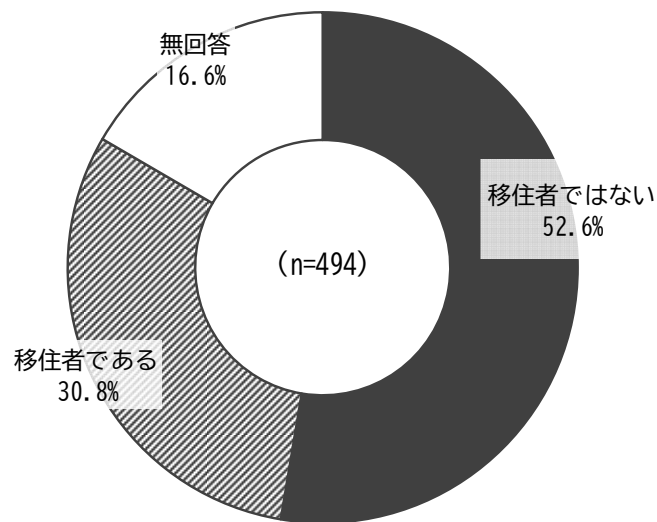
10 移住や定住について

(1) 移住の有無 [単数回答]

質問 24 あなたは移住者ですか。(1つ選んで○)

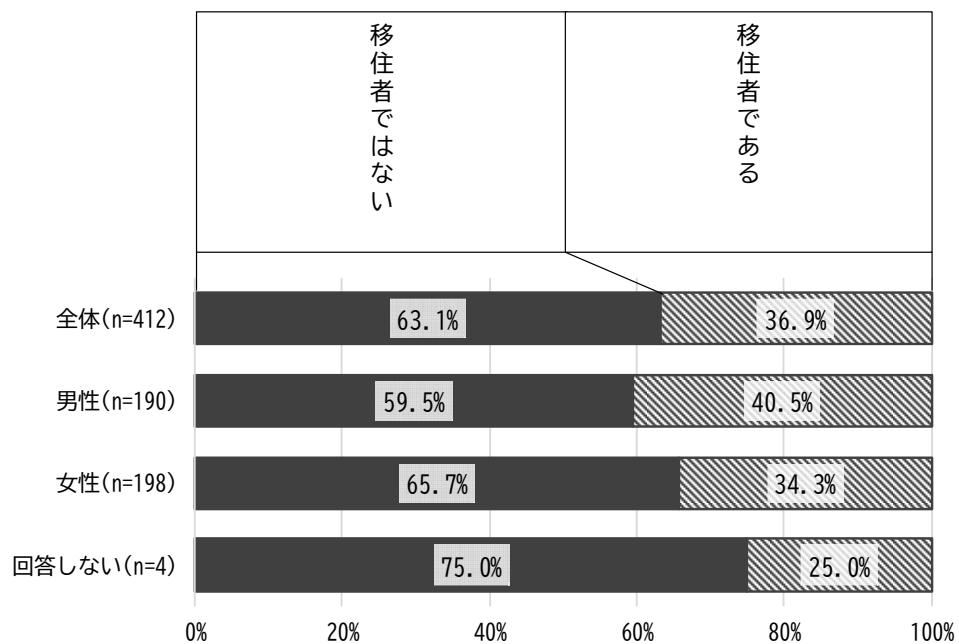
全体でみると、「移住者ではない」が 52.6%、「移住者である」が 30.8%で、約 3 割が移住者となっています。

【全体】



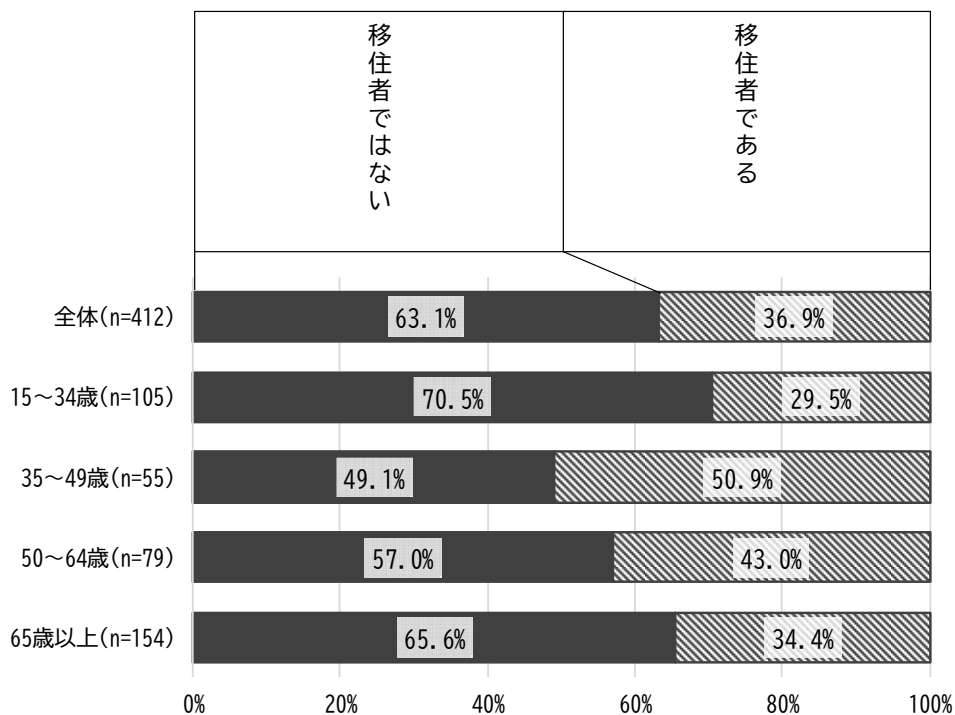
性別でみると、「移住者ではない」は男性が 59.5%、女性が 65.7%で女性がやや多く、「移住者である」は男性が 40.5%、女性が 34.3%で男性の移住者がやや多い傾向です。

【性別】



年齢別にみると、「移住者でない」は15～34歳が70.5%、65歳以上が65.6%が多く、「移住者である」は35～49歳が50.9%、50～64歳が43.0%となっています。

【年齢別】

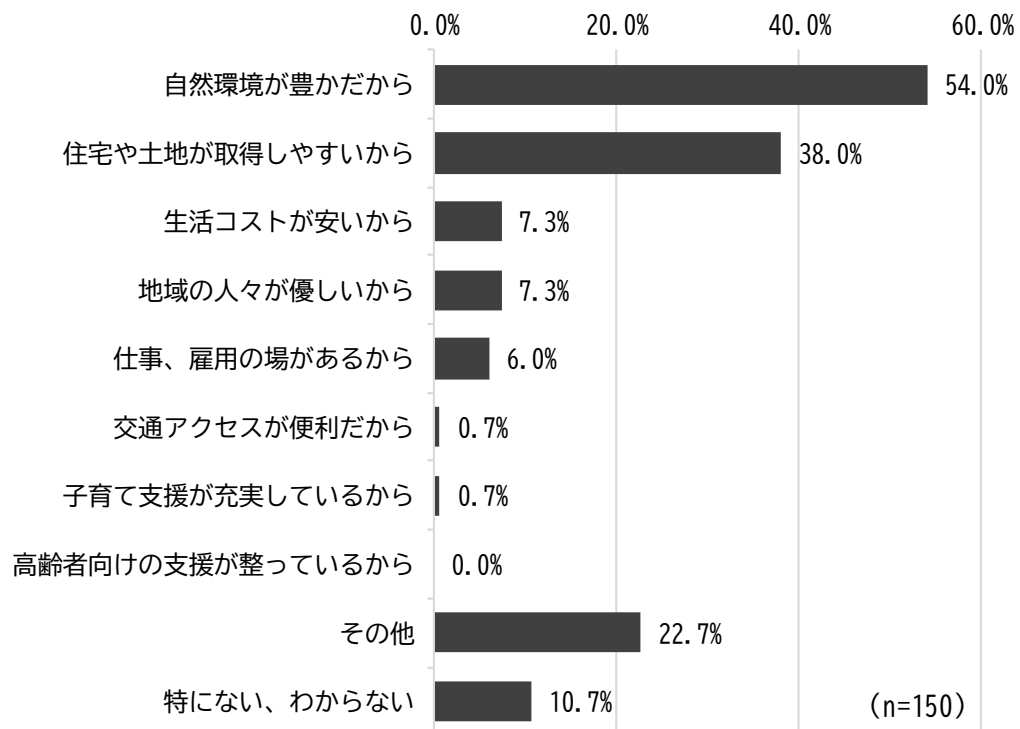


(2) 移住先に選んだ理由〔複数回答〕

質問 24 で「移住者である」と回答した方
ときがわ町を移住先に選んだ理由は何ですか。（2 つまで選んで○）

全体でみると、「自然環境が豊かだから」が 54.0%で最も多く、次いで「住宅や土地が取得しやすいから」が 38.0%となっており、町の豊かな自然環境や住まいの確保がしやすいことが移住者にとって大きな魅力となっています。

【全体】



性別でみると、男性は、「自然環境が豊かだから」が 57.9%、「生活コストが安いから」が 11.8%、「地域の人々が優しいから」が 9.2%で女性より回答が高い項目となっています。

女性は、「住宅や土地が取得しやすいから」が 38.8%で男性よりやや高い項目となっています。また女性は、「その他」の回答が多く、嫁ぎ先や家族が住んでいる等の理由が挙げられています。

年齢別でみると、15～34 歳では、「その他」の理由が 54.8%で最も多く、次いで「自然環境が豊かだから」が 32.3%、「住宅や土地が取得しやすいから」が 12.9%となっています。他の年齢層と異なり、親の都合や家庭の事情などが主な理由となっています。

35～49 歳では、「自然環境が豊かだから」が 78.6%で最も高くなっています。50～64 歳では、「住宅や土地が取得しやすいから」が 30.3%、「自然環境が豊かだから」が 27.3%となっています。65 歳以上では、「自然環境が豊かだから」が 73.1%、「住宅や土地が取得しやすいから」が 61.5%となっています。

一方、35 歳以上では、「交通アクセスが便利だから」、「子育て支援が充実しているから」、「高齢者向けの支援が整っているから」の回答が無く、自然や住環境の魅力が移住先を選んだ要因となっています。

【性別・年齢別】

		自然環境が豊かだから	生活コストが安いから	住宅や土地が取得しやすい	交通アクセスが便利だから	地域の人々が優しいから	子育て支援が充実している	仕事、雇用があるから	高齢者向けの支援が整っている	その他	特になし、わからない
全体(n=150)		54.0%	7.3%	38.0%	0.7%	7.3%	0.7%	6.0%	0.0%	22.7%	10.7%
性別	男性(n=76)	57.9%	11.8%	34.2%	1.3%	9.2%	0.0%	5.3%	0.0%	14.5%	10.5%
	女性(n=67)	52.2%	3.0%	38.8%	0.0%	6.0%	1.5%	6.0%	0.0%	32.8%	10.4%
	回答しない(n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
年齢	15～34歳(n=31)	32.3%	3.2%	12.9%	3.2%	6.5%	3.2%	6.5%	0.0%	54.8%	9.7%
	35～49歳(n=28)	78.6%	14.3%	21.4%	0.0%	17.9%	0.0%	3.6%	0.0%	7.1%	17.9%
	50～64歳(n=33)	27.3%	9.1%	30.3%	0.0%	6.1%	0.0%	12.1%	0.0%	24.2%	15.2%
	65歳以上(n=52)	73.1%	5.8%	61.5%	0.0%	3.8%	0.0%	1.9%	0.0%	11.5%	5.8%

〈その他の回答〉

親が移住先を決めたから。
両親の意向。
親を選んだから。
親が住んでいるから。
親が移り住んだから。
両親がいたので。
夫の家がときがわだから。
夫の実家。
友人がいたから。
10年前、父の実家である現住居に移住。
親戚が近くにいたから。
祖父母の家で暮らすことになったから。
祖父母が住んでいたから。
親が実家に戻ることに伴いときがわ町に移り住んだ。
知人の縁。
有機農業の先輩がいるから。
主人の出身地であり守るべき土地があったから。
夫が勝手に決めた。
結婚し、夫がときがわ町に住んでいたため。
結婚。
嫁ぎ先だったから。
親から土地を譲渡。
友人から移住先をご紹介頂いたから。
中学まで住んでいて愛着があるから。
生まれた町で愛着があるから。
以前にも住んでいたことがあるから。
県外からの移住です。決め手は東京都瑞穂町に住む両親の家から1時間圏内でかつ静かで自然豊かでネコが飼える物件がたまたまときがわ町にあったご縁です。
自然災害が少ない所だから。
家の事情。
個人的事情。

(3) 住み続けるために必要なこと〔複数回答〕

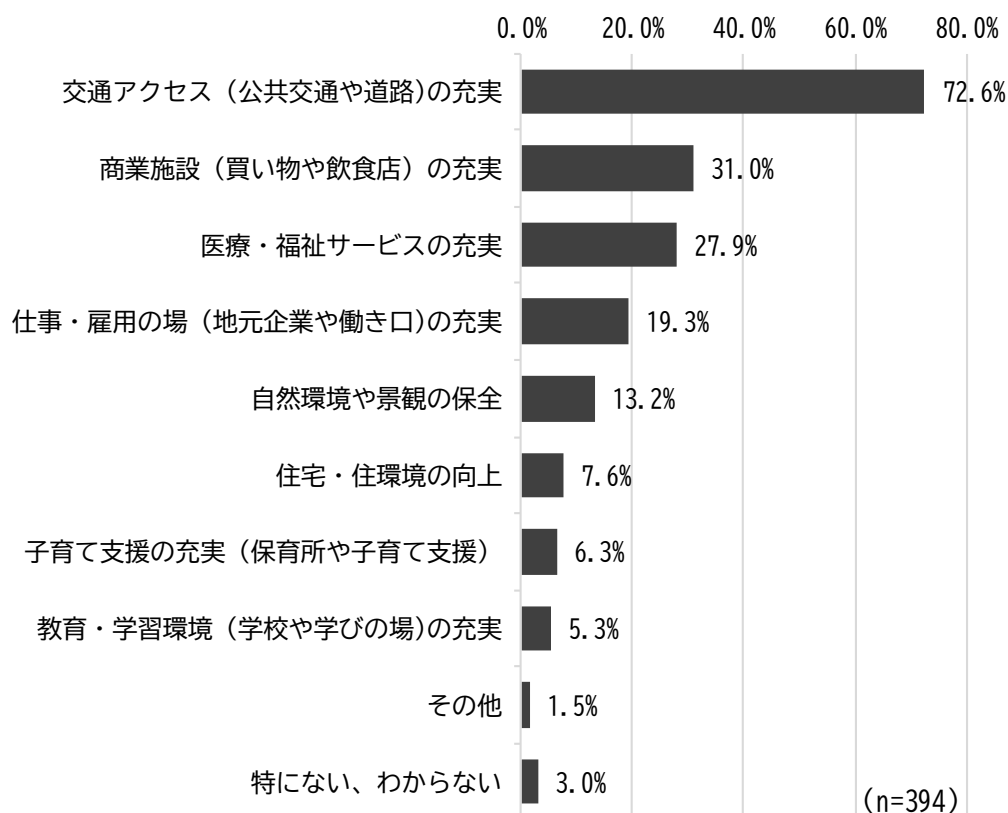
質問 25 あなたが、ときがわ町に住み続けるためには、何が必要だと思いますか。
(2つまで選んで○)

全体でみると、「交通アクセス（公共交通や道路）の充実」が72.6%で最も多くの回答を占めており、公共交通の利便性や道路環境の整備が重視されています。

次いで、「商業施設（買い物や飲食店）の充実」が31.0%、「医療・福祉サービスの充実」が27.9%で、これらも住民の生活利便性を高めるために求められています。

また、「仕事・雇用の場（地元企業や働き口）の充実」は19.3%となっており、一定の回答はあるものの、交通や生活利便性などと比べるとやや優先度が低い傾向となっています。

【全体】



〈その他の回答〉

面白いと思える町づくりやコミュニティ形成。
新しいことにチャレンジしやすい環境
減税
経済支援
地元の人を大切にする
終バスはやすぎ。本数少なすぎ。

性別で見ると、「交通アクセス（公共交通や道路）の充実」は、男女ともに最も多い回答ですが、女性は76.8%と男性の67.6%を上回っており、女性の方が交通の利便性に対する関心が高い傾向です。

また、「医療・福祉サービスの充実」についても、女性が34.2%、男性が21.8%で、女性の方が医療や福祉に対して関心が高い傾向です。

一方、「仕事・雇用の場（地元企業や働き口）の充実」や「自然環境や景観の保全」は男性の方が関心が高い傾向となっています。

年齢別で見ると、「交通アクセス（公共交通や道路）の充実」は、全ての年齢層で回答が約7割程度を占めています。特に15～34歳では79.0%と最も高くなっています。

「医療・福祉サービスの充実」は、年齢が高くなるほど回答が高く、65歳以上が40.4%、50～64歳が36.4%となっています。

「商業施設（買い物や飲食店）の充実」は、65歳以上が33.8%、15～34歳が30.0%で他の年齢層も20%を超えて高く、日常生活における買い物の利便性が求められています。

また、「仕事・雇用の場（地元企業や働き口）の充実」は、35～49歳で28.3%と高く、雇用・就労について重視しています。

【性別・年齢別】

		交通アクセス (公共交通や道路)の充実	教育・学習環境 (学校や学 びの場)の充実	医療・福祉サービスの充実	住宅・住環境の向上	商業施設(買い物や飲食 店)の充実	子育て支援の充実(保育所 や子育て支援)	仕事・雇用の場(地元企業 や働き口)の充実	自然環境や景観の保全	その他	特 に な い 、 わ か ら な い
全体(n=394)		72.6%	5.3%	27.9%	7.6%	31.0%	6.3%	19.3%	13.2%	1.5%	3.0%
性別	男性(n=179)	67.6%	6.7%	21.8%	8.4%	28.5%	5.6%	25.1%	17.3%	2.2%	3.4%
	女性(n=190)	76.8%	4.2%	34.2%	7.4%	32.1%	7.9%	14.2%	8.4%	1.1%	2.6%
	回答しない(n=4)	100.0%	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%
年齢	15～34歳(n=100)	79.0%	9.0%	8.0%	10.0%	30.0%	14.0%	19.0%	10.0%	2.0%	5.0%
	35～49歳(n=46)	69.6%	2.2%	17.4%	10.9%	26.1%	8.7%	28.3%	17.4%	6.5%	2.2%
	50～64歳(n=77)	71.4%	3.9%	36.4%	7.8%	28.6%	2.6%	15.6%	14.3%	1.3%	1.3%
	65歳以上(n=151)	69.5%	4.6%	40.4%	6.0%	33.8%	3.3%	18.5%	12.6%	0.0%	2.6%

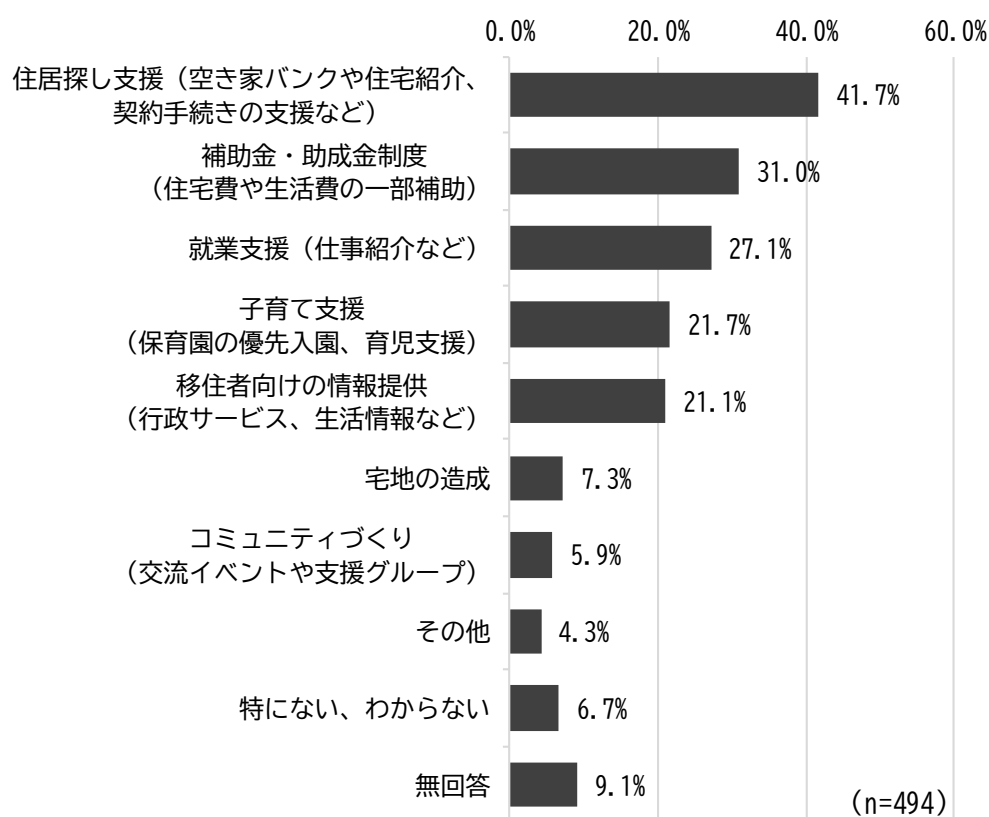
(4) 移住のために必要な支援〔複数回答〕

質問 26 多くの人がときがわ町に引越してきたくするためにはどんな支援が必要だと思いますか。(2つまで選んで○)

全体でみると、「住居探し支援」が 41.7%で最も多く、次いで「補助金・助成金制度」が 31.0%、「就業支援」が 27.1%と続いています。また、「子育て支援」が 21.7%、「移住者向けの情報提供」が 21.1%となっています。

移住を検討する上で、住む場所の確保、生活費の負担軽減や安定した収入源の確保、子育て環境の整備や、新しい生活を始める上での情報提供が求められています。

【全体】



性別でみると、「住居探し支援」では、女性が 50.2%で男性の 42.2%を上回っています。

「就業支援」については、男性が 31.8%で女性の 28.2%を上回っています。「補助金・助成金制度」については、女性が 34.3%、男性の 33.2%で大きな差は見られません。「子育て支援」に関しては、女性が 25.8%で男性の 23.7%をやや上回っています。

また、「移住者向けの情報提供」では、男性が 24.6%で女性の 19.7%を上回っています。

年齢別でみると、「住居探し支援」では、35～49 歳が 58.2%、65 歳以上が 52.7%と、いずれも半数を超えています。一方、15～34 歳では 28.3%と他の年齢層に比べて低く、若年層は比較的住居探しへのニーズが低い傾向です。

「補助金・助成金制度」では、15～34 歳が 46.2%、50～64 歳が 37.0%と比較的高く経済的支援のニーズが一定程度ある傾向です。

「就業支援」は、65 歳以上が 34.9%、50～64 歳が 32.1%と高くなっています。一方、15～34 歳は 19.8%と低くなっています。

「子育て支援」では、35～49 歳が 27.3%、15～34 歳が 26.4%と他の年齢層より高く、育児や保育に関する支援ニーズが求められています。

【性別・年齢別】

		住居探し支援（空き家バンクや住宅紹介など）	就業支援（仕事紹介など）	宅地の造成	移住者向けの情報提供（行政サービス、生活情報など）	子育て支援（保育園の優先入園、育児支援）	コミュニティづくり（交流イベントや支援グループ）	補助金・助成金制度（住宅費や生活費の一部補助）	その他	特になし、わからない
全体(n=449)		45.9%	29.8%	8.0%	23.2%	23.8%	6.5%	34.1%	4.7%	7.3%
性別	男性(n=211)	42.2%	31.8%	9.5%	24.6%	23.7%	6.6%	33.2%	5.7%	7.1%
	女性(n=213)	50.2%	28.2%	5.2%	19.7%	25.8%	6.6%	34.3%	2.8%	8.5%
	回答しない(n=4)	25.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	75.0%	0.0%	0.0%
年齢	15～34歳(n=106)	28.3%	19.8%	7.5%	23.6%	26.4%	7.5%	46.2%	6.6%	8.5%
	35～49歳(n=55)	58.2%	27.3%	9.1%	18.2%	27.3%	7.3%	29.1%	12.7%	1.8%
	50～64歳(n=81)	45.7%	32.1%	11.1%	22.2%	24.7%	2.5%	37.0%	3.7%	4.9%
	65歳以上(n=186)	52.7%	34.9%	5.9%	23.1%	22.6%	7.5%	27.4%	0.5%	10.2%

〈その他の回答〉

交通の便
通学、通勤の支援
充実した公共交通機関
バスの運行本数を増やす
交通アクセスの充実
道路の整備が細部までいきわたること
安い新築の家、キレイな借家
商店の充実、不要な観光業の撤廃
大手チェーン店の開業・スタバ・マック・サイゼリアなど
商業施設を増やす
企業誘致（支援・補助金が出ても子供達が他へ出て行く）
企業誘致を行い従業員を定住させる。
大きな公園がある事、温泉やサウナ近くにあればなお良し
教育内容の向上（主権者教育と主体性を育む）
川を利用した事業（農林・観光・エネルギー）支援
唯一無二の文化や風土、そこで暮らす人々の人間性に魅了される移住希望者に刺さる訴求があれば、万難を排しやってくるのでは？そこで重要なのは地域と新規参入者との間に入るコーディネーター的な立ち回りの人材。
地域の一体感がほしい。ただ、田舎ならではの窮屈さはないような。
燃えるゴミ、焼却処理に戻して。ゴミの分別細かすぎ。転出を考えるレベルで不便
あらゆる虫に対する理解を得るための観察イベント
SNSなどでのライフスタイル発信。
行政の見直し

1 1 防災について

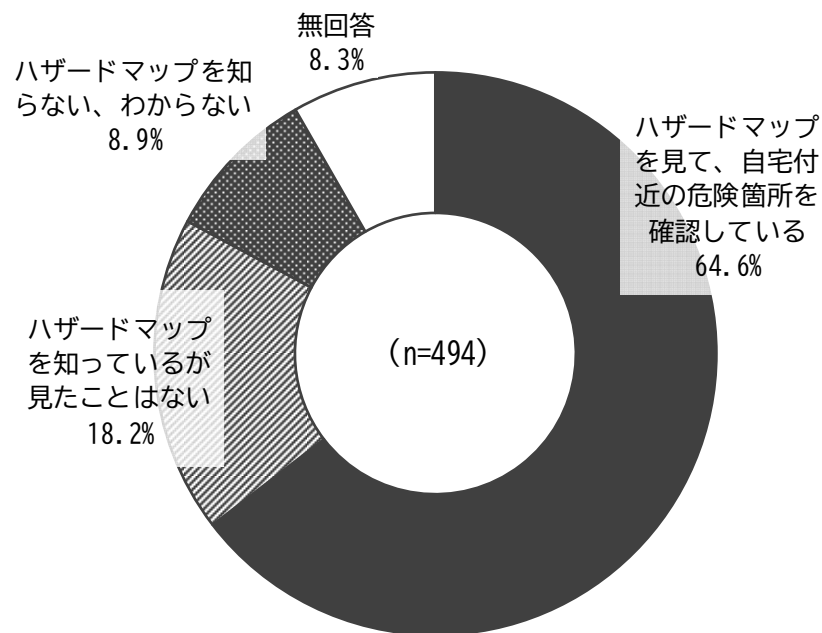
(1) ハザードマップの認知について [単数回答]

質問 27 あなたは、ときがわ町ハザードマップを見たことがありますか。(1つ選んで○)

全体でみると、「ハザードマップを見て、自宅付近の危険箇所を確認している」は64.6%で最も多い割合を占めています。

一方、「ハザードマップを知っているが見たことはない(18.2%)」、「ハザードマップを知らない、わからない(8.9%)」を合せて27.1%となり、ハザードマップを知らない、見ていない住民も一定数存在していることが伺えます。

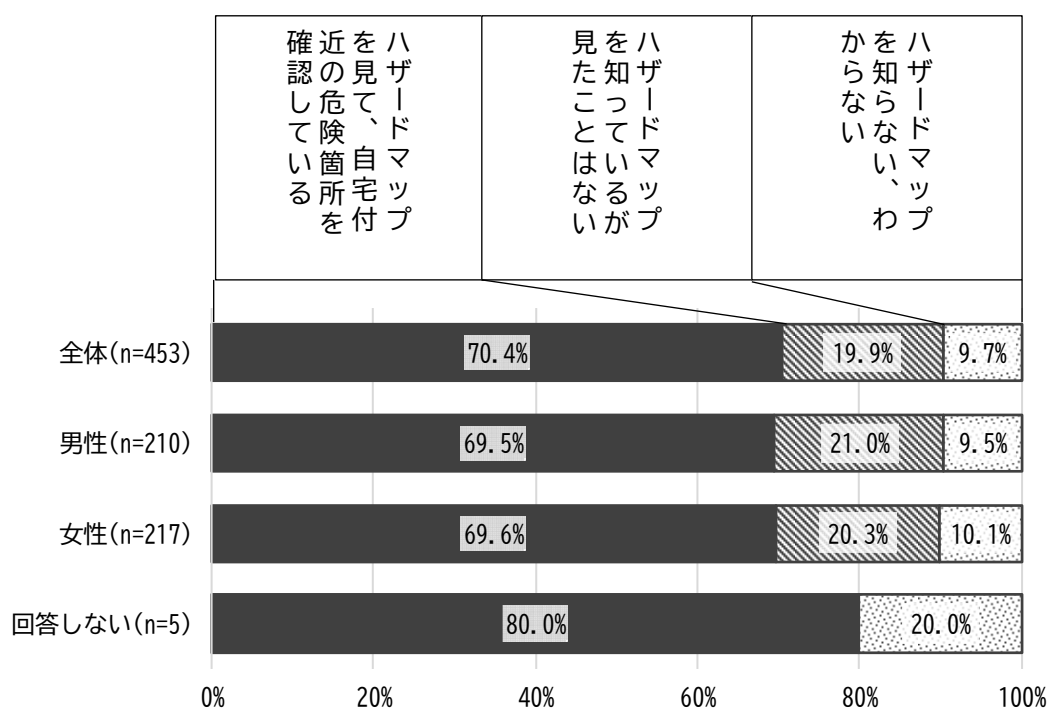
【全体】



性別にみると、「ハザードマップを見て、自宅付近の危険箇所を確認している」は、男性が69.5%、女性が69.6%で、男女ともに高い傾向です。

一方で、「知っているが見たことはない」は、男性が21.0%、女性が20.3%、「知らない・わからない」は、男性9.5%、女性10.1%で、男女差はほとんど見られませんでした。

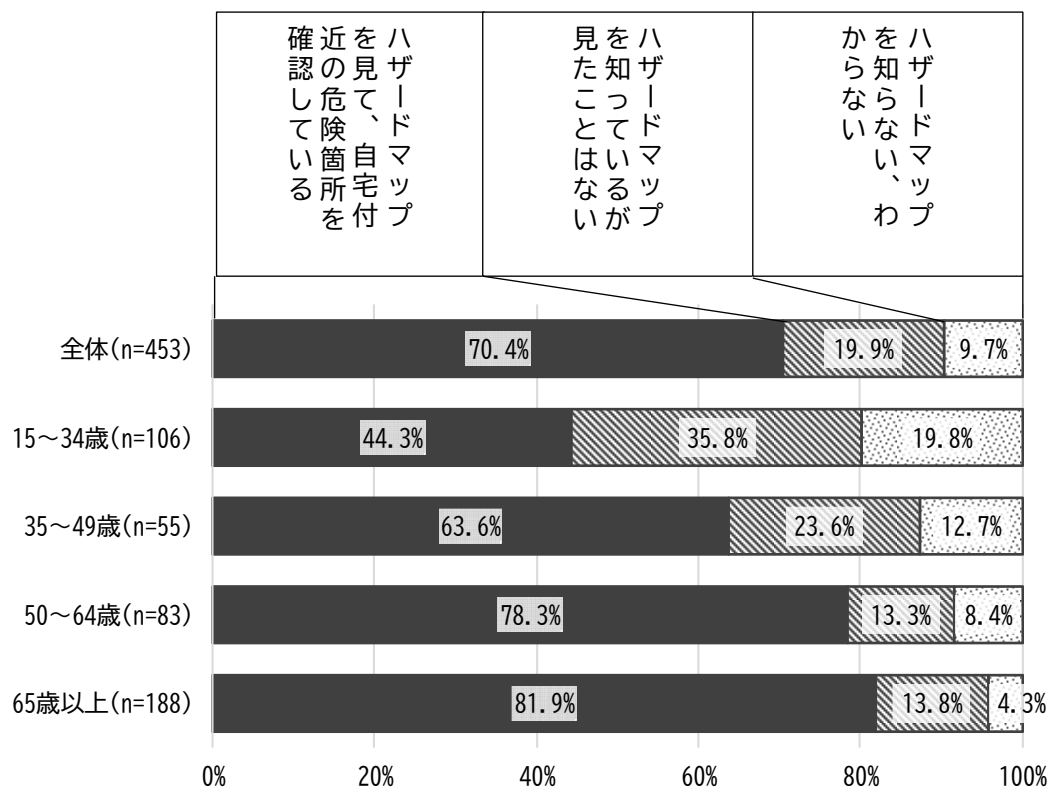
【性別】



年齢別にみると、「ハザードマップを見て、自宅付近の危険箇所を確認している」は、35～49歳が63.6%、50～64歳が78.3%、65歳以上が81.9%で年齢層が高いほど災害リスクを確認している傾向です。

一方、15～34歳はハザードマップを「知っているが見たことはない(35.8%)」、「知らない、わからない(19.8%)」で最も多く、35～49歳もそれぞれ23.6%、12.7%と認知が低い住民が一定数存在しています。

【年齢別】



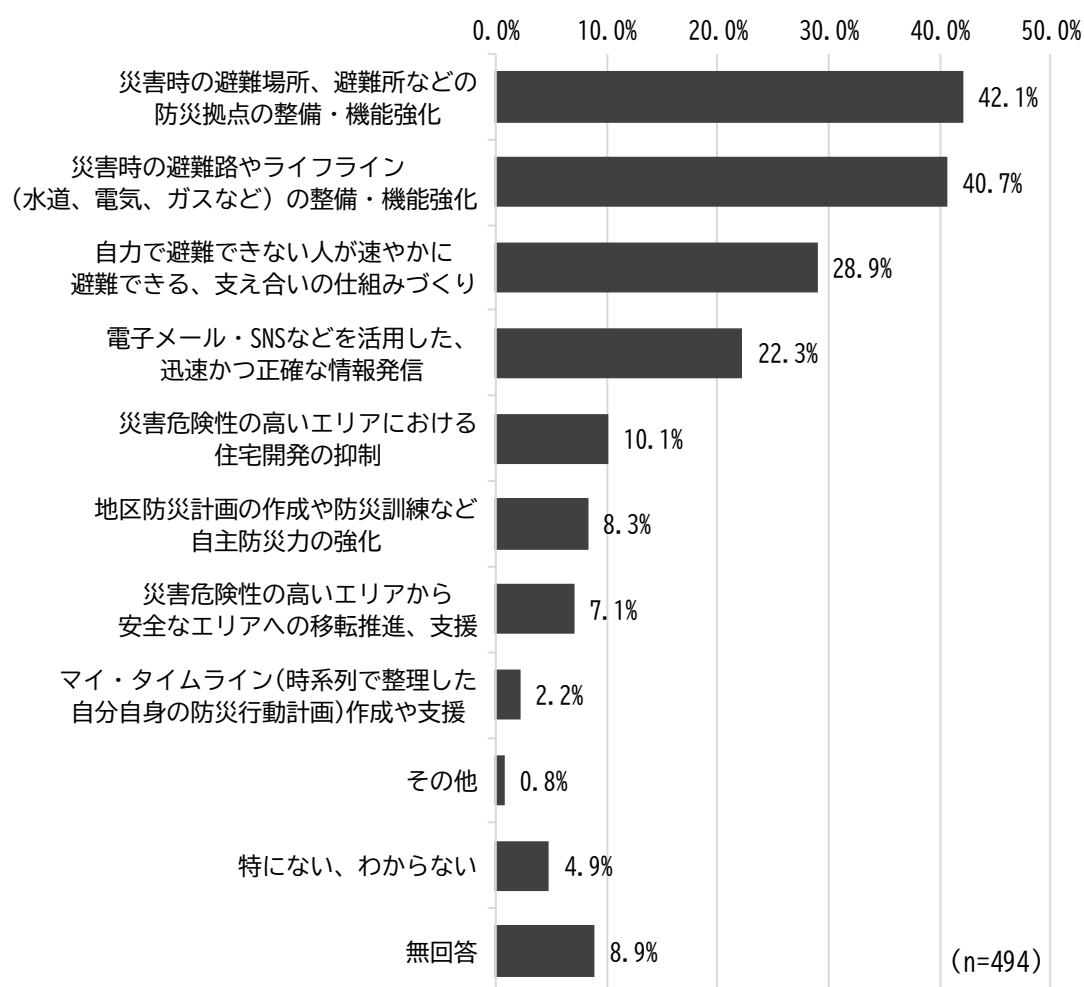
(2) 防災・減災対策として必要な取り組み〔複数回答〕

質問 28 あなたは、防災・減災対策として何が必要だと思いますか。（2つ選んで○）

全体では、「災害時の避難場所、避難所などの防災拠点の整備・機能強化」が42.1%、「災害時の避難路やライフライン（水道、電気、ガスなど）の整備・機能強化」が40.7%で上位を占め、災害発生時の安全性確保や生活基盤の維持が重視されています。

また、「自力で避難できない人が速やかに避難できる、支え合いの仕組みづくり」が28.9%で共助についても求められています。

【全体】



性別にみると、「災害時の避難場所、避難所などの防災拠点の整備・機能強化」、「自力で避難できない人が速やかに避難できる、支え合いの仕組みづくり」が男女ともに関心が高く、避難時の安全確保や共助について重視する傾向となっています。

さらに男性は、「マイ・タイムライン作成や支援」や「電子メール・SNSなどを活用した、迅速かつ正確な情報発信」など個人での備えや情報取得への意識もやや強い傾向が見られます。

年齢別にみると、若年層（15～34歳、35～49歳）では、「電子メール・SNSなどを活用した迅速かつ正確な情報発信」への関心が特に高く、15～34歳で33.0%、35～49歳で32.7%と、他の年代に比べて突出しています。一方、65歳以上では16.7%にとどまり、デジタルツールの活用に関する世代間の差が表れています。

中高年層から高齢者層にかけては、「避難路やライフラインの整備・機能強化」への関心が高く、35～49歳で49.1%、50～64歳で46.3%、65歳以上で43.0%となっています。また、「災害危険性の高いエリアにおける住宅開発の抑制」や「安全なエリアへの移転推進・支援」では、50～64歳で12.2%、65歳以上で12.4%と、高齢層で多く挙がっています。

さらに、「支え合いの仕組みづくり」は65歳以上で37.6%と最も高く、「自主防災力の強化」も同年代で12.4%と、若年層（15～34歳で7.5%、35～49歳で5.5%）より関心が高く、高齢者ほど地域の共助や自主防災活動の必要性を挙げています。

【性別・年齢別】

		災害時の避難場所・機能強化など	災害時の避難路やライフライン（水道、電気、ガスなど）の整備・機能強化	マイ・タイムライン（時系列で画）作成や支援	電子メール・SNSなどを活用した、迅速かつ正確な情報発信	災害危険性の高いエリアにおける住宅開発の抑制	災害危険性の高いエリアから安全なエリアへの移転推進、支援	自力で避難できない人が速い組み合わせで避難できる、支え合いの仕組みづくり	地区防災計画の作成や防災訓練など自主防災力の強化	その他	特になし、わからない
全体(n=450)		46.2%	44.7%	2.4%	24.4%	11.1%	7.8%	31.8%	9.1%	0.9%	5.3%
性別	男性(n=210)	42.9%	41.9%	3.8%	26.2%	11.9%	9.0%	30.0%	10.5%	1.0%	6.7%
	女性(n=214)	49.1%	45.8%	1.4%	21.5%	10.3%	6.5%	34.6%	7.9%	0.9%	4.7%
	回答しない(n=5)	40.0%	40.0%	0.0%	40.0%	20.0%	20.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	15～34歳(n=106)	44.3%	39.6%	1.9%	33.0%	8.5%	3.8%	28.3%	7.5%	0.9%	8.5%
	35～49歳(n=55)	40.0%	49.1%	1.8%	32.7%	10.9%	7.3%	30.9%	5.5%	1.8%	5.5%
	50～64歳(n=82)	48.8%	46.3%	3.7%	24.4%	12.2%	12.2%	26.8%	7.3%	0.0%	4.9%
	65歳以上(n=186)	46.8%	43.0%	2.7%	16.7%	12.4%	8.6%	37.6%	12.4%	1.1%	4.3%

〈その他の回答〉

大雨対策
食料の備蓄・確保
体育館の断熱改修
避難場所に高齢者が何%避難できるのか

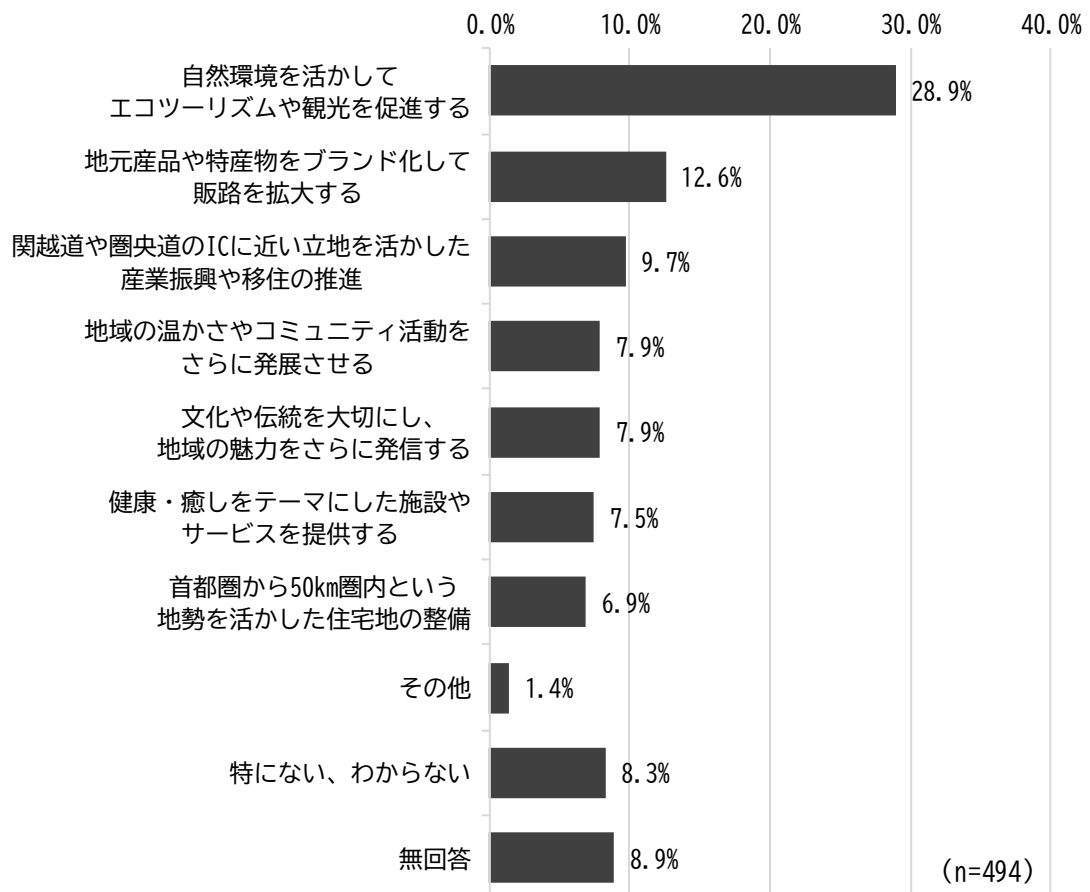
12 まちづくりの方向性について

(1) 町の強みの活かし方〔単数回答〕

質問 29 あなたは、ときがわ町の強みをどのように活かすべきだと思いますか。
(1つ選んで○)

全体では、「自然環境を活かしてエコツーリズムや観光を促進する」が最も多く 28.9%でした。次いで、「地元産品や特産物をブランド化して販路を拡大する」が 12.6%、「関越道や圏央道の IC に近い立地を活かした産業振興や移住の推進」が 9.7%となっています。

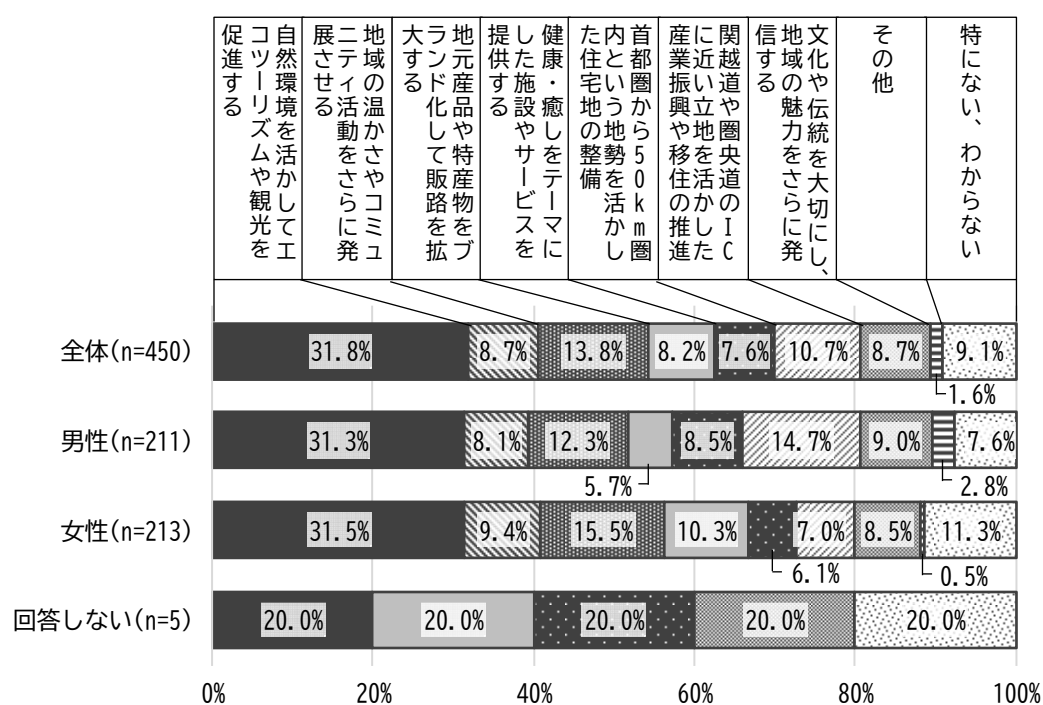
【全体】



性別にみると、男性は「自然環境を活かしてエコツーリズムや観光を促進する」が 31.3%、「関越道や圏央道の I C に近い立地を活かした産業振興や移住の推進」が 14.7%、「地元産品や特産物をブランド化して販路を拡大する」が 12.3%で上位となっています。

女性は「自然環境を活かしてエコツーリズムや観光を促進する」が 31.5%、「地元産品や特産物をブランド化して販路を拡大する」が 15.5%、「健康・癒しをテーマにした施設やサービスを提供する」が 10.3%となっています。

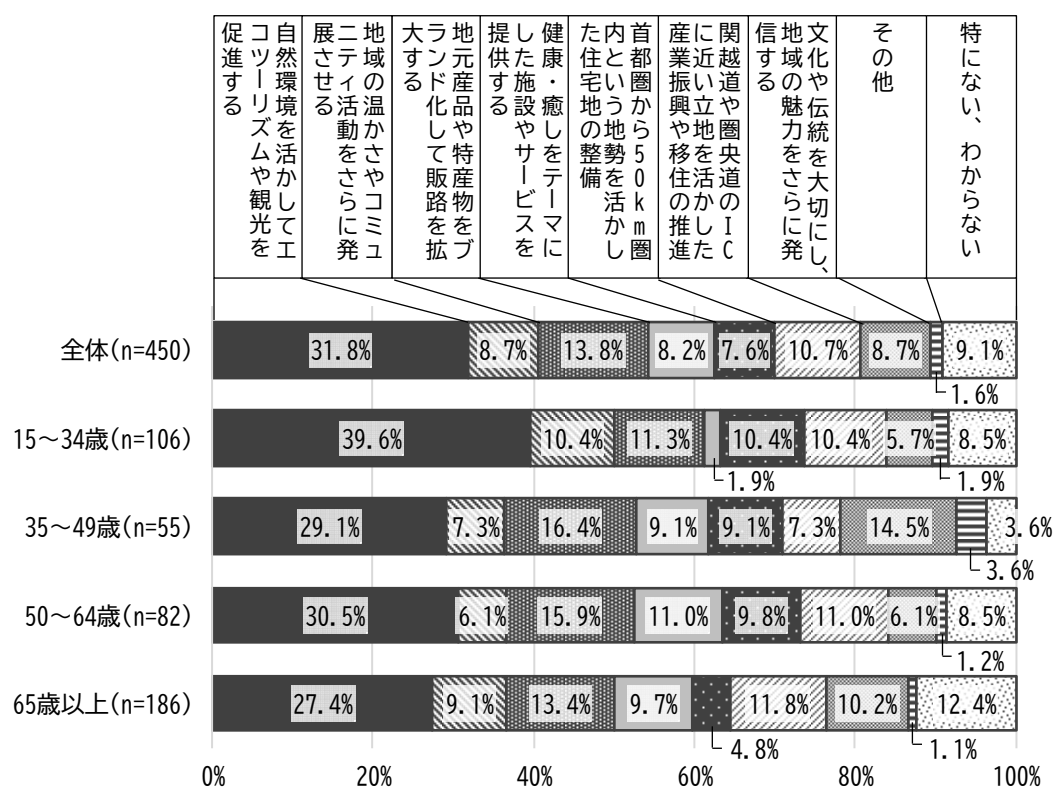
【性別】



年齢別にみると、「自然環境を活かしてエコツーリズムや観光を促進する」が全ての年齢層で最も多く、次いで「地元産品や特産物をブランド化して販路を拡大する」となっています。

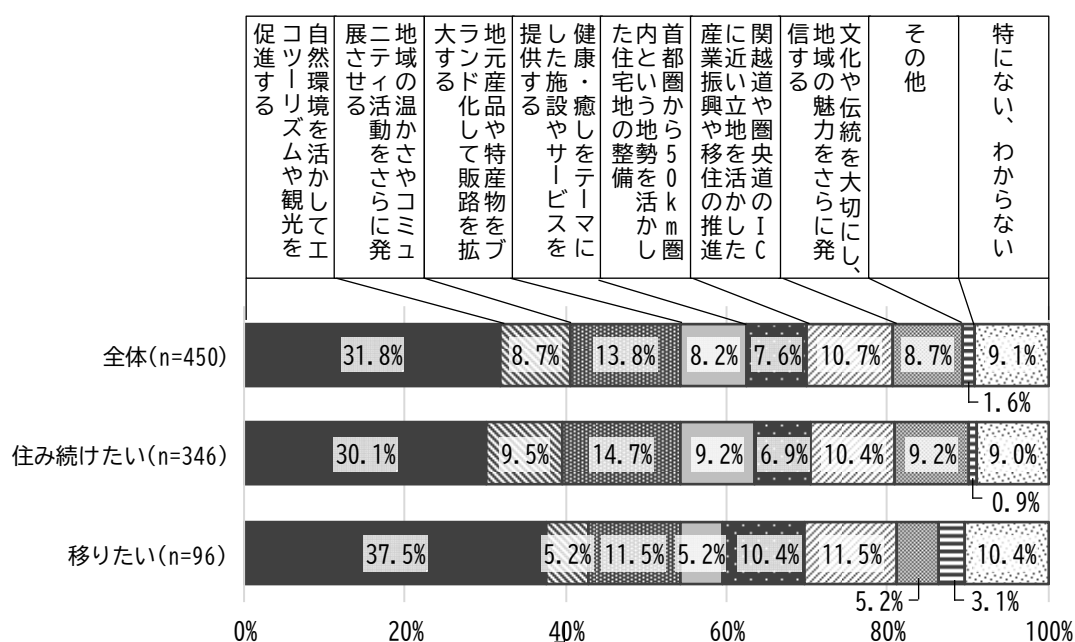
また 35～49 歳では、「文化や伝統を大切にし、地域の魅力をさらに発信する」もやや多くなっています。

【年齢別】



定住意向別にみても、「自然環境を活かしてエコツーリズムや観光を促進する」が最も多く、次いで「地元産品や特産物をブランド化して販路を拡大する」となっています。

【定住意向別】



〈その他の回答〉

今在住している人が安心して健康に暮らしていける町作り
自然環境を活かした移住の推進と地域コミュニティの維持
自然環境を壊して、人工的な商業施設にするのには反対です。 変にブランド化せずに、そのままのときがわ町であってほしい。
地震に強い土地を生かし狭い土地でも出来る企業誘致
交通の充実
太陽光や水力の電力会社設立
1 つには絞れない

(2) 人口減少対策〔複数回答〕

質問 30 あなたは、ときがわ町の人口が減少傾向にある中で、どのような施策に取り組むべきだと思いますか。（3つまで選んで○）

全体では、「企業誘致や若者が働ける場の創出」が 44.3%で最も多く、次いで「周辺都市への交通アクセス改善」が 40.5%と高い割合を占めています。

また、「医療・福祉支援策の充実」(22.7%)、「商業施設の誘致など生活利便性の向上」(20.4%)、「出産・子育て支援策の充実」(17.2%) も上位に挙げられており、生活利便の向上と子育て世代への支援が求められています。

【全体】



性別にみると、「企業誘致や若者が働ける場の創出」は、男性は 44.6%、女性は 46.3%と、女性の方がやや高く重視しています。また、「周辺都市への交通アクセス改善」においては、男性が 35.3%、女性は 46.7%で、女性の方が交通利便性を強く求めている傾向が見られます。

さらに、「医療・福祉支援策の充実」は男性 21.0%、女性 24.5%、「出産・子育て支援策の充実」は男性 15.6%、女性 20.1%となっており、女性の方がこれらの支援をより重視している傾向が見られます。

年齢別にみると、「企業誘致や若者が働ける場の創出」は、15～34 歳で 29.4%35～49 歳で 41.1%、50～64 歳で 35.6%、65 歳以上では 59.1%といずれも高く重視しています。

「周辺都市への交通アクセス改善」は、15～34 歳で 42.2%、50～64 歳で 50.0%と、幅広い年齢層で関心が高いですが、特に 50 代から 60 代前半で最も重視されています。「出産・子育て支援策の充実」は、35～49 歳で 32.1%と、子育て世代で最も高い支持を得ています。対照的に、「医療・福祉支援策の充実」は 65 歳以上で 30.5%と、シニア層で最も重視される項目となっています。

定住意向別では、「住み続けたい」と回答した層は、「企業誘致や若者が働ける場の創出」(47.9%)と「周辺都市への交通アクセス改善」(38.5%)を重視しています。

一方、「移りたい」と回答した層では、「周辺都市への交通アクセス改善」が 48.5%と最も高く、「企業誘致や若者が働ける場の創出」は 31.1%でした。

また、「若年層向けの家賃補助」は、「移りたい」層で 11.7%と、「住み続けたい」層の 5.3%を大きく上回っており、住宅支援が移住を促進する可能性が考えられます。

【性別・年齢別・定住意向別】

		企業誘致や若者が働ける場の創出	地元の産業の見直し、復興	周辺都市への交通アクセス改善	農業や林業の高度化、ICTを活用し若者が稼げる産業化への支援	農業等の企業化の支援・促進	大学や研究機関の誘致と協業	商業施設の誘致など生活利便性の向上	若年層向け等の住宅の供給	若年層向けの家賃補助	新婚世帯への住宅購入支援	結婚や出産のための支援	卒業後の町内居住を条件に償還免除とする奨学金支援	駅周辺等への行政や生活に必要な機能の集中・効率化の推進	駅周辺など生活利便の高い地域への移住・定住の推進	出産・子育て支援策の充実	医療・福祉支援策の充実	近隣の自治体と連携した地域の魅力向上	その他	特にない、わからない
全体(n=487)		45.0%	11.7%	41.1%	11.9%	6.6%	6.0%	20.7%	12.5%	6.6%	7.4%	15.0%	7.2%	9.9%	6.2%	17.5%	23.0%	8.8%	3.1%	4.1%
性別	男性(n=224)	44.6%	12.1%	35.3%	14.3%	8.5%	7.1%	20.5%	13.4%	6.7%	9.4%	15.2%	7.1%	7.6%	8.0%	15.6%	21.0%	9.8%	5.4%	4.9%
	女性(n=229)	46.3%	10.5%	46.7%	8.7%	4.8%	5.2%	21.0%	11.8%	7.0%	4.4%	14.8%	7.9%	11.8%	3.5%	20.1%	24.5%	7.4%	0.9%	3.9%
	回答しない(n=5)	20.0%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	15～34歳(n=109)	29.4%	6.4%	42.2%	6.4%	5.5%	5.5%	16.5%	16.5%	12.8%	8.3%	23.9%	12.8%	16.5%	7.3%	16.5%	11.0%	7.3%	2.8%	6.4%
	35～49歳(n=56)	41.1%	19.6%	32.1%	8.9%	7.1%	5.4%	12.5%	14.3%	10.7%	5.4%	10.7%	5.4%	10.7%	5.4%	32.1%	21.4%	8.9%	10.7%	3.6%
	50～64歳(n=90)	35.6%	15.6%	50.0%	13.3%	10.0%	4.4%	25.6%	10.0%	1.1%	11.1%	12.2%	4.4%	5.6%	5.6%	15.6%	20.0%	5.6%	2.2%	4.4%
	65歳以上(n=203)	59.1%	9.4%	38.9%	14.8%	5.9%	7.4%	23.2%	10.8%	4.9%	4.4%	12.8%	6.9%	7.9%	5.4%	15.3%	30.5%	10.3%	1.5%	3.4%
定住意向	住み続けたい(n=374)	47.9%	12.0%	38.5%	12.8%	6.7%	5.9%	20.1%	13.1%	5.3%	6.7%	15.2%	5.6%	8.0%	4.8%	19.0%	24.6%	10.4%	3.2%	4.3%
	移りたい(n=103)	31.1%	9.7%	48.5%	7.8%	6.8%	4.9%	24.3%	11.7%	11.7%	10.7%	15.5%	13.6%	14.6%	11.7%	13.6%	17.5%	1.9%	2.9%	3.9%

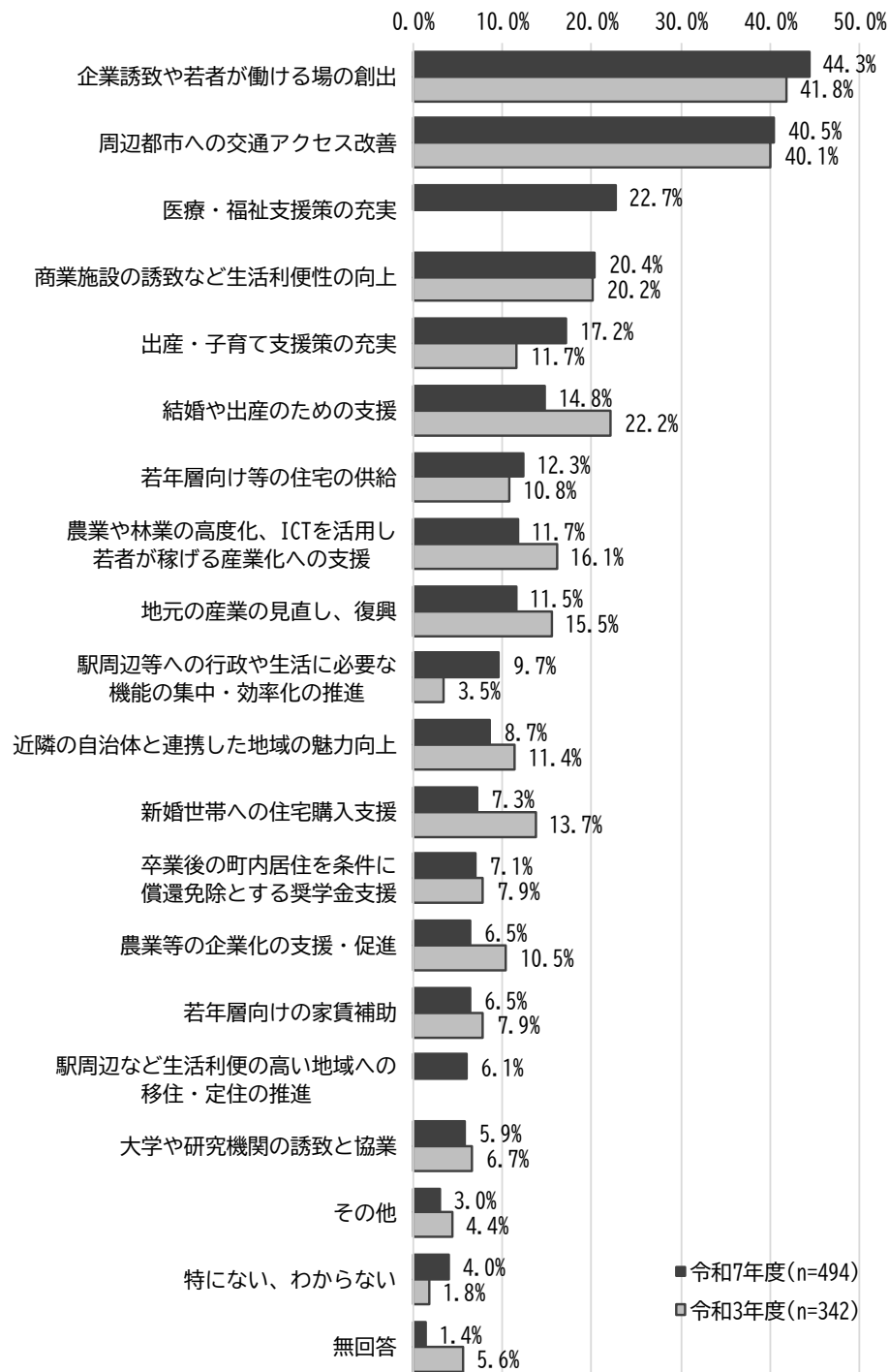
【前回調査との比較】

前回調査と比較すると、「企業誘致や若者が働ける場の創出」が41.8%から44.3%に増加しました。また、「周辺都市への交通アクセス改善」も40.1%から40.5%と微増しています。

さらに、「出産・子育て支援策の充実」は11.7%から17.2%、「若年層向け等の住宅の供給」が10.8%から12.3%とそれぞれ増加しています。

一方で、「結婚や出産のための支援」は22.2%から14.8%、「新婚世帯への住宅購入支援」が13.7%から7.3%に減少しています。

全体的に見ると、子育て支援や移住・定住支援策への関心が高い傾向が見られます。



〈その他の回答〉

東武東上線の停車駅をつくる
夜間の交通網の充実自転車道等自動車なしで過ごせる
バスの発着は明覚駅から。西平、大野、柵へもバス運行復活
マイカー購入の補助
地域のつながりを支援（おまつりとか）
地域の強みの創出
人口減少は全国的な傾向。楽しく豊かに減びるという徳島県神山町の NPO グリーンバレー大南氏の言葉がしっくりきますが、いかがでしょうか。
町全体の健康体操
e スポーツチームの設立及び企業家
時間・場所に縛られない働き方をする人を狙って誘致（クリエイターなど）
面白がって生きる人を増やして、町を元気にすることが根本解決かと。
自然を生かした大きな公園作り
若年層ばかりではなく全年齢層に魅力的な町にする
子が3人以上の親の年金を人数によって増やす。
経済的支援

13 今後のまちづくりに対する意見・要望

今後のまちづくりについて、ご意見や要望・提言などありましたらご自由にお書きください。

全体的な傾向として、交通の利便性改善、高齢者や若者を含む全世代が住みやすい生活環境の整備、人口減少対策としての移住促進や子育て支援、さらに町の豊かな自然環境の保全と活用を求める意見や要望が寄せられました。

交通（36 件）

- 車の免許を持っていなくても通勤、通学、病院へ行ける公共交通を充実して欲しい。
(女性/75 歳以上/瀬戸元下)
- 既存のバス路線に+で森林公園駅行きを設定し、利便性をはかる。(朝の始発T J ライナーに間に合う等) (男性/20~24 歳/玉川)
- 現在田中の信号から西へはバスは来ていません。乗合いタクシーはよく使われていそうですが、1 台に 1 人という事が多いです。これでは乗合いといえませんが。1 日 2 往復でもいいので乗合いタクシーを他に定期的にバス同様に動かしていただければ予約の心配なく気楽に乗れると思います。よろしくお願いします。(女性/75 歳以上/西平)
- 交通の便をもっと良くしてほしいです。(女性/15~19 歳/日影)
- 交通の便の悪さを解消できれば、住みやすさ、人口増加が格段に up すると思う。
(女性/50~54 歳/日影)
- バスや電車の便を増やしてください！！お願いいたします。(男性/15~19 歳/番匠)
- ときがわ町乗合タクシーが、自宅まで来てくださるととてもうれしいです。(女性/75 歳以上/番匠)
- 対外的にときがわ町は住みやすいといわれているが、山間部に住む高齢者にとって路線バスが走っていない地域はとても不便に思う。乗合タクシーを利用できない人達に何かもう少し手立てがないでしょうか？(女性/75 歳以上/田中)
- ときがわ町は「陸の孤島」なので、バスをもっと増発してほしい。買い物、通院、通学等自家用車がないと生活できない。(女性/60~64 歳/五明)
- 老後、安心して住める町にしてほしい。車を返納後の（通院、買物、運動、等）簡単に行けるようにしてもらいたい。交通の便をもっと良くしてもらいたい。(女性/75 歳以上/五明)
- 駅への増便（特に朝、バス）(男性/75 歳以上/関堀)
- 人口が少ないからかもしれませんが路線バスの運行、電車の運行時間の充実を計っていただきたい。
(男性/75 歳以上/本郷)
- 明覚駅の夕方、八高線に合わせた、バスの運行にしてほしい。電車が遅延している時は、バスも合わせてくれるとありがたい。越生からのバスも同じにしてほしい。(無回答)
- 3 周辺都市への交通のアクセス改善が重要かと存じます。(女性/75 歳以上/玉川)
- 町民の生活の一部である高齢者向けの足の確保。出歩きたくても中々出歩く事が難しい。
(女性/75 歳以上/西平)
- 交通利便性があれば自然環境が良いので人々は集まって来ると思う。まず、交通便を良くする事と思う。(男性/75 歳以上/五明)

- 正直、免許や車を持たない若者にとっては移動がしづらいと感じます。若者は友達と出かけたり学校へ行ったりと1日の中で町内を出る場面が多いのですが行きと帰り電車とバスそれぞれ時間を気にしていなくてはいけず、待ちぼうけることも多いです。駅が遠い人にとっても足になる人がいなければ自由に動けません。乗り合いタクシーも乗りたい時に乗れないこともしばしばあります。特に18時以降は乗りたくても予約が1時間先なんてこともあります。もう少し、町内や主要の駅への行き来のしやすさ、もしくは免許取得、車の購入の支援を考えてはいかがでしょうか。学生にとっては免許代も高いですし、ときがわはアルバイトも少なく免許代を自身で負担しなくてはいけない学生にとって苦です。私も大学4年にしてやっと免許を取るお金をためました。それまでは友人の運転やタクシー、バス、電車にたよっていましたがこれもお金がかかるのでしんどかったです。個人的ですが、駐車場（家の）に入るための道路が急坂で車を入れにくいです。しかし、公道のためいじれません。直せないですかね…。(女性/20～24歳/田中)
- 八高線の時間をもう少し増やして欲しいです。(バスも)土・日の12時と13時は部活に行く高校生が多いので一両編成だと乗れない方がいます。また、見てみると結構、ヘルプマークを付けている方がいますが手を差し伸べる方が少ないので貼り紙などをしても良いのかなと思います。動物が朝死んでしまっているのを見かけるとだいたい夕方には片づいていて温かい気持ちになります。ありがとうございます。あいさつ溢れる優しい町だいです。2026年、成人式でお世話になります。(無回答)
- 交通に関係することで、私が今住んでいる五明は小川町へ行くか嵐山町に行くか越生町へ行くかで車がないと、とても不便な所だと思います。駅があれば買い物や病院、または子供が(高校)学校へ行くのも便利で良いのではないかとと思っています。(男性/70～74歳/五明)
- 八高線12時台を追加してもらいたい。とても不便。1日の半分の時のくぎれ目時間なのでとても必要。・土地を利用して有料駐車場を作ってほしい。町外の人のために町のために。
(女性/50～54歳/馬場)
- お年寄りを行動しやすくしていただきたい。お年寄りには車の運転が厳しいため、バスの使用を行いやすくすることや、バスの割引をもっと行ってほしい。(男性/25～29歳/本郷)
- 玉川温泉に来る他市町村の方が多いので近くに駅が出来れば便利かと思います。
(男性/40～44歳/日影)
- 「玉川保育室つばみの部屋」付近に駅があったら交通アクセスが改善されると思います。
私自身社会人で残業することが多く、そうすると帰りの電車やバスの心配があったりします。新社会人の人達にとっても、交通アクセスが多いことは不安の原因の1つだと思うのでそこを改善すると良いと思います。是非ご検討願います。(女性/20～24歳/日影)
- 公共交通機関の発展(男性/20～24歳/玉川)
- 民間バスと乗合いタクシーとの中間の交通機関が欠如しているのではないのでしょうか(町内巡回限定バスの採用)例えば、バスセンターから嵐山方向への県道172+嵐山、県道173+嵐山の2路線の中間部分が空白状態となり、その中間位置の住民・生徒児童は大変不便です。(総合グラウンド交差点から和田橋田黒地区へ・坪内橋から春和地区へと県道172・173に交わる地帯等が交通機関の空白といえます。)
- 町財政への圧迫は理解でき、不合理な負担を強いるつもりはありませんしかし、これから盛り立てていこうとする地域住民・商業観光や医療介護・生徒児童を肉体的に疲弊させることが町外流出の一因となっていることを併せて、ご考慮いただきますようお願いいたします。(女性/75歳以上/田黒)
- 通勤・通学の公共交通機関の充実(女性/15～19歳/番匠)

- バスの本数を増やしてほしい。13 時、14 時などテスト期間中は帰りが早くなるため無料のバスで 19 時頃のバスがほしい。小川町駅発の(回答しない/20～24 歳/馬場)
- 車がないと生活できない。運転免許を返納したら生活できないのではないかとと思っている。
(女性/50～54 歳/五明)
- バスを増やしてほしい。もう少し遅い時間まで走ってほしい。もしくは、片道分の定期を購入できるようにしてほしい。通学でバスを使用しているが終バスが早すぎて、帰りはバスに乗ることが難しいため。(女性/15～19 歳/田黒)
- 交通機関の充実(男性/70～74 歳/瀬戸元下)
- 明覚駅から他の駅への移動手段を増やして欲しい。武蔵嵐山から明覚駅へ行くバスは乗り換えが楽だが、小川駅からのバスでは、東武東上線からの乗り換えで、40 分ほど待たなければ行けないことがあり、大変な思いをしている。確かに利用者は少ないかもしれないが、八高線は小川駅で東武東上線から乗り換える時、40～50 分ほど待たなくてはならない時があり、とても大変な思いをしている。特に、夏に小川駅の八高線ホームで長時間待つことはとても大変だ。八高線の本数を増やすことは難しいと思うが、バスの本数を増す政策をして欲しい。(男性/15～19 歳/別所)
- 今回のアンケートで、選ぶ選択肢の個数が少し足りないと感じた部分がありました(学校教育の部分)。まちづくりの点では、交通の便を 1 番改善した方が良くと考えます。利用率や運転士さんの人手不足などがありますが、その点を改善することで、車を持っていない町外の方でも観光に来やすいのではないかと考えます。また、商業施設やサービス業では、少しずつ充実してきていると感じています。
(女性/15～19 歳/西平)
- 八高線の本数が少なすぎるため、車を運転できない学生にとっては致命的で、ギリギリに学校に着かないようにするには、他の市町村の学生よりかなり早く起きて家を出なければなりません。代わりに越生駅から学校に行こうとするなら、徒歩で1時間ときがわ町から越生駅までかかってしまいますし、路線バスを使うのにも、ときがわ町内のバス停でも家からそこそこ距離があるので、電車の代わりに使うのには便利さに欠けます。
乗り合いタクシーが埼玉医大行きのように、少し運賃が高くなってもいいので、越生駅行きが出来るとはるかに便利になるとも思いました。(回答しない/15～19 歳/馬場)
- 老人が増え、運転免許証の返納などで行動が狭くなれば内に閉じ込めってしまう(外に出られない)心配が…。近隣の市町村の状況など考慮して頂きたい。(女性/75 歳以上/瀬戸元下)
- 高齢者の交通手段の確保。(女性/70～74 歳/大附)
- 駅からのバスの本数を増やしてほしい(女性/15～19 歳/瀬戸元下)

道路（6 件）

- 道が狭く歩行者にとって危ない所があるので対策を続けてほしいです。(女性/35～39 歳/番匠)
- サイクリングロードの整備(都幾川～入間川～荒川)をしてほしい。都内からロードバイクで来町する富裕層のアクセスも狙えるのではないかと。
町内ではヒルクライムできる場所や各所にカフェもあり、燃料を使用しない交通手段でクリーンなのでいかがかと。(男性/35～39 歳/玉川)
- 道路の整備(女性/70～74 歳/番匠)
- 交通量が多い通学路の子供への支援、解決策がほしい。(女性/15～19 歳/瀬戸元下)

■近年、サイクリングでときがわ町に訪れる人も多く特に土日は山間部でも良く見かけます。サイクリングを通して、町が活性化するのは嬉しいですが、道路の幅が広くない箇所や複数人で隊列を組んで走る自転車を車で追い越すにも難しく、地元住民としてはあまりよく思いません。そもそも、道路をサイクリング用に整備している訳でもなく、車と同じようにスピードの出るものなので、普段から車を使う側からすると運転するのが怖いです。

また、サイクリングで訪れる人たちのマナー向上を呼びかけるべきかなと感じます。

地域の住民も、安心して過ごせるように対策をしていただきたいです。(女性/20～24 歳/大野)

■高坂駅への直線道路が欲しい。都内に向かうには坂戸駅に行くのが直線に近いものの、坂戸駅近辺は朝、混雑するため、都内方面に通勤する場合、高坂駅前に自家用車で行きパークアンドライドが現状最短時間。森林公園駅から行くより 10 分ほど早い。直線的であるほうが望ましいものの、まずはV字に遠回りになる大橋の交差点を直線で結べる道路（現状細い裏道あり・亀井農村センター前の道）の整備を要望する。(男性/55～59 歳/玉川)

生活環境（22 件）

■パソコン、スマートフォンを使いこなせない高齢者や障がい者などに事務的な説明と手続きの手伝いをして欲しいし、役場まで交通が不便（免許を持たず車に乗れない）で行けない人が多くなって来ている現状を手助けして欲しい。地区の公民館などを利用して（曜日を決めて）出張していただけたらと思う。(女性/75 歳以上/瀬戸元下)

■空家問題、火事で燃えた後の取り壊しの放置を役場に頼んでも何も解決してくれない。(16 年間)

(無回答)

■花粉の時期は本当に辛いので、少しスギの木を減らすことは可能でしょうか。夜眠れないです。

(女性/25～29 歳/番匠)

■町民の皆様の生活の利便性の向上を希望します。(男性/75 歳以上/瀬戸元下)

■私の住んでいる所は年 2 回の道路清掃、運動場の草刈り、公民館草刈り、ペットボトル又は廃品回収等の用事が多くて大変です。そういう用事をもう少し減らしてほしいです。(男性/70～74 歳/五明)

■通信エリアの拡大（携帯電話エリアの制限があり利用できなかった）。働く場所がない。

(女性/60～64 歳/西平)

■①児童館が都心部には存在するのになくて困ってました。小・中・高・大学生にとって家と学校以外で勉強するスペースが町内にあったら良いので、公民館の勉強スペースはとても助かってます。(もっとほしいですが)しかし防犯カメラもないので、1 人の時など女子には物騒です。是非検討して頂き早急に設置してほしいです！安心・安全により近づく町づくりのほどよろしくお願いします。

②通学路の安全が（学校・家・地域で担う）だとあいまいで活動となり変化できないので、より踏み込んだ体勢づくりを実施してほしいです。(男性/45～49 歳/瀬戸元下)

■高齢化が急加速している現在です。食料品などの買い物に行くのも大変です。西平はお店がありません。移動スーパーなどの対策考えて頂きたいです。道路整備や木の伐採も対策お願いします。空き家の木や雑草も対策お願いいたします。(女性/75 歳以上/西平)

■カラオケが近くにないので 1 店くらいはあって欲しいです。(まねきねこ、カラオケ A11 などの)

学生にとっても遠くまで電車を使っていくのは面倒だし、高齢者の方の娯楽も増えて良いと思います。是非ご検討願います。(女性/20～24 歳/日影)

- ・本球駐車場（コモリバの駐車場はここじゃない）の看板を作りおくべきです。町外車迷惑です。本球入口のコモリバの看板1つ先へ場所かえてほしいです。（元：里山グリの所入口）
 - ・コモリバの客（パンを買いに来る人）、なぜ本球駐車場（くさり、ポール破損）にとめるのか？トイレもどうして水着、はだか、宿泊客利用するの。スポ小子供教育上悪い。トイレ、コモリバ側いつもあけてあって全開、客、出くわす。コモリバの客マナー悪い。毎年GW、夏とトラブルあり。コモリバに作らせてください→雨・風に強い鉄看板にしてください。毎年役場の方大変だと思うので。（女性/50～54 歳/馬場）
- 知り合いの話ですが、町内で駅の駐輪場でバイクを盗まれる、農機具を盗まれるなどの被害に遭った人がいます。（トラックに乗せてあった）子どもに対する犯罪も世間的に増えているので、安心できるまちづくりのために防犯対策にも力を入れてほしいです。（女性/35～39 歳/番匠）
- ときがわ町は自然がきれいで静かでとてもいいところだと思っています。最近は新しいカフェができたりマルシェなどのイベントもたびたびあってとても楽しみにしています。ふらっとときがわもおしゃれで町外の友人にも配っています。ただ、住むとなるとスーパーに行くにも車が必ず必要になり、高齢者には不便だと思います。しょうがない事だとは思っていますが、わたしも年を取って体が不自由になってきたらもう少し交通の便がいいところに移り住むしかないと思っています。ネットスーパーが使えると良いのですが、大体は範囲外です。病院の送迎や訪問診察やデイサービスも範囲外だったりして、介護の点でも不便に感じています。（女性/35～39 歳/西平）
- キャッシュレス決済できる小売店の充実、居住による何かしらの減税措置、自動車を持たなくても住める格安交通網の充実、大手企業の誘致による雇用の創出、精神障害者でも住みやすい町づくり（自治会の強制参加の取り止め等）があると良いかと思います。（男性/30～34 歳/本郷）
- 移住者を増やすことももちろん大切なことだが高齢化が進む中ですでに住んでる人の声に耳を傾け負担を少なくしないと移住者が増えたところで結果数は変わらないと思う。（女性/20～24 歳/別所）
- 水道の配管の改善（女性/55～59 歳/玉川）
- 街灯を増やしてほしい。夜道が暗いため。（女性/15～19 歳/田黒）
- 町内のお店で使える商品券をまた配ってほしい。（女性/15～19 歳/田黒）
- 街灯を増やして欲しいです（女性/15～19 歳/西平）
- 大野地区の水道管について、雨が少なく水が出なくなった時に町からも協力（給水車など）をお願いしたいです。冬にかけての乾燥した時期は特に不便です。（女性/15～19 歳/大野）
- 高齢化が進むなか昔住んでいた所でパン屋さんや八百屋さんが車でメロディーをかけて来るという移動販売がありました。そんな小さな移動販売はいかがですか？町づくりにはほど遠いですが…
（女性/65～69 歳/田黒）
- 下水道の整備推進と街灯を増やして、防犯パトロールの強化。（男性/65～69 歳/五明）
- 昨今のアウトドアブームで町外からの来訪が増える一方、河原や道路、敷地内進入などの使い方指導やルール違反した人に対する対策などが、めちゃくちゃ遅れていると感じます。住民の迷惑だけでなく環境への悪影響も大きいです。（女性/45～49 歳/番匠）

施設誘致（11 件）

- ホットもつととかがあるととても良いと思う。（女性/50～54 歳/馬場）
- コンビニ併設型本屋（森林公園駅前のローソンのような）を作る。（フリースペース有）
（男性/20～24 歳/玉川）
- 五明にあったコンビニも閉店してしまい不便になってしまった。（女性/60～64 歳/五明）
- ロードバイク、ツーリングコースとしているのは分かるがとにかく危なくマナーが悪い。山小屋カフェ、古民家カフェ多すぎる。豆腐屋も温泉も地元の人間は行かない外部からの人を目的に様々取りくんでいるのかもしれないが定住するどころか治安が悪くなる一方な気がし、昔のようなどこかでゆったりとしたときがわが失なわれつつある気がする。今一度ときがわの強みを考え伸ばすことで住人も戻ってくるのでは？ 不要な観光業は強みではないと思う、幼ない頃自由に遊んだ川原や学校は皆有料になったり許可なく入れなくなっている。コンビニが少なく、ドラッグストアも少ない生活なのに必要なファクターが充実していないところに人は定住しません。（男性/40～44 歳/田中）
- 現在 60 才前半ですが、高齢になるに心配している事は車で運転して出られなくなる事です。特に食、ですが車内スーパーみたいなのがちょくちょく来てくれるとありがたいです。（女性/60～64 歳/西平）
- 飲食店のチェーン店が欲しい（女性/65～69 歳/番匠）
- コンビニが閉店してしまった。何か小さな販売所を作って欲しい。（女性/60～64 歳/日影）
- 徒歩で行ける、スーパー等の充実（高齢者の為）（男性/70～74 歳/馬場）
- 買い物などできるお店を増やしていただければと思います。（女性/60～64 歳/西平）
- ときがわ町は個人営業店が多くいいとは思いますが、外の地域の人が遊びに来るとなると人気や知名度が低く、ときがわ町に来るメリットが少ないので、有名なチェーン店などをある程度入れてきたほうがいいと思います。（無回答/15～19 歳/本郷）
- ときがわ町の強みは自然やコミュニティだと思いますが、1 つ大きな商業施設、例えばラウンドワンやドン・キホーテ、イオンモールなどがある、若しくはムーミンパークのようなレジャー施設があれば自ずと人が集まり、活性化されると思います。（男性/35～39 歳/桃木）

公園（5 件）

- 二本木公園を使いやすくする。（屋根付き駐輪場を作る等）※井戸はいらないと思います。
（男性/20～24 歳/玉川）
- 公園に砂場がほしいです。（女性/30～34 歳/番匠）
- 子供たちのあそび場、公園が少ない。せせらぎしかない。（女性/50～54 歳/馬場）
- とにかく公園が少ない。健康器具などある公園もほしい（女性/35～39 歳/馬場）
- 町内に子供たちが集まり、ペットも散歩できるような大きな公園が整備されたら嬉しいです。
（女性/15～19 歳/番匠）

環境（9件）

- 人口減少で、大変です。A Iに参考の為教えてもらうのも良いかも。人口減少している現在、議員も職員も多い支出を減らして、焼却炉を作ってほしい。か、合併をした方が良い。子育ても年寄りばかりで知識が無い様にチラシ見て思う。若い知識のある賢い方がもっと活動出来る意見が言えるときがわでありますように
・雑がみ保管袋は、紙も印刷代も不用です。ダンボール箱に入れるか、紙袋に入れてもいい、もったいない無い血税（雑紙収入になるが、印刷代、紙代無駄）（女性/75歳以上/五明）
- 最近、ソーラーパネルの設置による景観の変化が目立つ。今後の異常気象の継続による雹や洪水による災害時、パネルの損傷が気になる。有害物質が含まれていると聞いているが大丈夫なのか？又、処理をするにも高額なお金がかかるとか、処理できない等聞くがその対策も出来ているのかが気になる。
（女性/55～59歳/日影）
- ゴミ集積所のルールが守られていない。（男性/70～74歳/瀬戸元下）
- 再生可能エネルギーとは、太陽光パネルや風力でしょうか？これらが、いかに自然破壊し、環境に悪いか、EV自動車がいかに悪いかは、すでに証明されています。パネルや風力は、ぜったい設置してはいけません（中国にお金が行くだけ）子育ては、今の人たちの要望は分かりません。経済に余裕があれば、もっと子どもも生めるし、町も活性化するでしょう。（女性/65～69歳/番匠）
- 土、日のどちらか、清掃センターをやってほしい。（女性/70～74歳/玉川）
- ゴミ分別細かすぎ。焼却施設作って。（女性/50～54歳/田黒）
- 2050年までに二酸化炭素排出を実質ゼロとするために、地域特性を活かした再エネと断熱の普及を進めてほしい。雇用創出や防災、熱中症予防、エネルギー安全保障などメリットが大きく、早く取り組めば環境に優しく住み良い町としてブランド力向上に繋がる。（女性/45～49歳/五明）
- 太陽光パネルを設置する事業者を規制してほしい。
町内の山の斜面や田んぼに太陽光パネルを散見するが、木々も生き物も刈りはらって景観の悪いものを作られたのでは町の良さがどんどんなくなっていくように思える。（男性/35～39歳/玉川）
- 私宅に接している町道の清掃は、暗黙の了解でその道に接している家の人が草刈りなどしていますが、年を取るとそれも大変になり、放置すれば雑木は大きくなりいざ伐採しても枝など処理する方法も今は大変で（野焼きもできず）困っています。自然豊かなこの様な地で生活するのはすばらしい事です、まわりに迷惑をかけずに済む方法はないものかと思案中です。（女性/75歳以上/瀬戸元下）

自然保護・活用（7件）

- 河川敷…桜並木にするとか、蛍が飛ぶ河とかは？（女性/75歳以上/瀬戸元下）
- 山林の活用。（女性/70～74歳/大附）
- 私が小さいころ、近くを流れる瀬戸川は、アユやウナギが生息している、大変自然豊かな川でした。しかし、その後川岩工事などにより、豊かな自然は完全に破壊されてしまいました。子供心に大変悲しかったです。どうか、自然を大切にし、また、より充実させていただきたいと思います。また、サイクリングロードを整備するのも良いと思います。（男性/65～69歳/瀬戸元上）
- 〈ホテルで町おこし〉自然豊かなときがわでホテルを増やす取組み。〈れんげ畑で町おこし〉今は見かけなくなったれんげ畑で子供を遊ばせてみたい。花摘みや王冠など作りたい。こんなことできたらいいな！と思います。（男性/30～34歳/玉川）

- ときがわ町の強みである自然環境を活かすまちづくりをして欲しい(男性/25～29 歳/玉川)
- せっかくある自然環境をほったらかしにして何にも活用していない場所が多すぎるし活用するにもハードルが高い。まちが進んで事業者などに斡旋し、効率よく観光客を呼び入れて商店などでお金を落としてもらう取り組みを積極的にするべきだと思う(男性/60～64 歳/田黒)
- 観光ばかりに気をとられ、大切な自然をこわさないでほしい。(女性/65～69 歳/田中)

公共施設（6 件）

- せせらぎホールのジムを充実してほしい。壊れて使用出来ない時が多く台数も少ない。仕事帰りに使いたい方も多く、順番をまっている。若い方は町外でジムに行っている人も多いが料金も高いので、町内で安く利用出来るようよろしくお願いします。(女性/60～64 歳/日影)
- 廃公共施設の使用方法(男性/75 歳以上/西平)
- 町内に点在する町有施設（指定管理者対応）に対する具体的な運営サポートの強化並びに指導を要望します。まちづくりと点在拠点の活性化、再構築は早急に取り組むべき課題と考えます。同様に町補助金交付団体への指導と運営につきましてもサポートが更に必要と考えます。よろしくお願い申し上げます。(男性/65～69 歳/西平)
- せせらぎカードの更新町外高校生 1,200 円は高すぎる 900 円にしてほしい。
(回答しない/20～24 歳/馬場)
- 建具会館の運営方針も、周辺住民への説明もないのが不安です。(女性/45～49 歳/番匠)
- 活かされてない町有施設を有効活用し、町がお金を稼ぐ。観光客がお金を落としてくれる仕組み作りをする。簡単ではないと思いますが、頑張ってください。(男性/30～34 歳/日影)

住宅（6 件）

- （山間部）分譲地の整備も大切だが、空き家の活用・情報をもっと外部に発信して欲しい。
(女性/40～44 歳/関堀)
- 住む家が少ない(無回答)
- 空き家バンクの物件数が少なすぎる。もっと増やし、低家賃 1 万～3 万で貸し出せるようにして行く。空き家が目立ち始めている。見た目が悪い。(女性/60～64 歳/日影)
- シェアハウス町の中は、女性専用にするべきでは！(女性/70～74 歳/玉川)
- 町は率先して、空家、休耕地などを開発、借り上げを行うべきである。地主は町なら信用でき安心して空き家を手放しやすくなる。早急に行うべきである。(男性/45～49 歳/西平)
- 空き家が多いので、それを活用できたら良いと思います。自然豊かで子育てにはとても良い町なのにもったいないです。
親が住んでいるときがわ町に引越しを決意しましたが、ネットで調べても家族で住める物件は見つかりませんでした。簡単に来られる場所ではなかったため、最終的には親に物件を探してもらいました。実際に引っ越してきて町を散歩すると、沢山空き家がある事がわかりました。家を持っているもののどうしたら良いか分からない人が多いように感じます。(女性/30～34 歳/馬場)

移住（5件）

- 自然の豊かさ、土地の安さを前面に出せば都会の喧騒にストレスを感じている層の方々に移住地として候補にあがるはずです。（男性/45～49 歳/本郷）
- 空き家バンクなど住宅紹介をもっと進めるべきです。今の職員では、特に町長では無理でしょう。
（女性/75 歳以上/日影）
- 移住者です。ときがわ町に住みたいけど土地がなかなか見つからない、と言う知り合いに何人か会いました。私達は運よく土地を購入し、移住することができましたが、土地探しは大変でした。空き家バンクも拝見しましたが、交通の利便性、周辺の環境から現実的ではない所も多く感じました。子どもを育てる環境として、ときがわ町は良い所だと感じますが、移住するにあたり、住居問題は少しハードルが高いように思います。小さいお子さんがいる家庭ではやはり新築で…と考える人も多いのではないのでしょうか。地主さんの高齢化等で管理が難しいなどの土地の調査、把握、移住者に向け発信、全てすぐにできる簡単なことではないと思います。ですが、移住するにあたり、大変だった、気になった事でしたので書かせて頂きました。失礼がありましたら申し訳ありません。これからも町民としてよろしく願いいたします。（女性/30～34 歳/玉川）
- 土地が売りに出されれば、短期間で売れて移り住んでくれる人がいるように思う。
使っていない（使う予定の無い）土地を売りに出してもらえば住んでくれる方がいると思う。
（男性/45～49 歳/本郷）
- 今後たった何十年で町が無くなる危機感が強く、早急に移住者を増やす策を考えて SNS を使い大々的にアピールするべきだと思います。
都心まで遠くないのに田舎暮らしができるとても良い場所なのに田舎の良さは消され、かといって都会についていけず中途半端で魅力が無いと思います。（女性/35～39 歳/番匠）

産業（12 件）

- 休耕地が増えているが利用方法はないのでしょうか。（女性/75 歳以上/玉川）
- ときがわ町は静かで自然豊かで良いと思っているが町政の方向性が自然を主体にするのか産業を主体にするのかよくわからない。玉川地区に工業用地もあり畑や田もあるのにもったいない気がする。工業用地には会社を誘地し自然を破壊するやり方ではなく、農業の重要性が見直されている現在それを十分に生かせる方法も良いのかなと思われる。高齢者でも動ける方がいればそのような方に働ける場を提供するのも一つかな、と。体を動かす事は認知症予防にもつながっていくと聞いた。町が農・林業の支援の充実を図ったり、又、町が農・林業を経営する事ができれば、大変面白いと思う。農業大学の協力を得て、農業希望の若者も呼べればそれも大変面白いかな、と。（女性/55～59 歳/日影）
- 畑、田、農地の使い方。米作りなどしたいが平日は仕事で出来ない。鳩山町、小川町のような、ライスセンター、機械組合などがあればやってみたい。道の草刈りするのに、ラジコン式の草刈り機のリース。産業に林業とあるが、岡山県の真庭市くらいに地元に大きな木材会社、それに関係する機械屋、運送業などがあるのか？（無回答）
- 農業や林業がカッコ良いと思えるような社会になるといいですね。私事ですが、10 年程前からちっと広めの菜園を始めて食べ物作りの大変さありがたさ、安心感色々な思いをする事ができました。そして自分をカッコ良いと思えます。（無回答）

- 林業はときがわ町になくってはならない第一次産業です。県議・国会議員等を通して、林野庁に働きかけも必要です。宮崎県に全国から若い人達が集まっています(林業従事者)参考にしたらどうですか。以前、緑の雇用の方がときがわにきていましたが、その補助金がなくなったと同時にやめてしまいました。それでは何の対策にもなっていません。全国に先がけて、準公務員扱いにしたらどうですか。その財源は国、県に林野庁業に働きかけをしたほうがいいです。林業従事者になりたい若者はたくさんいます。そういう人達がときがわに住んでくれれば人口減少はとめられます。それには生活できるだけの仕事確保も必要ですが生活できる給料も必要です。(男性/70～74 歳/西平)
- 野生動物が多くなりました。農業をしても畑の柵が必要となり無駄な経費がかかる。(シカ・アライグマ・ハクビシン・たぬき)(女性/70～74 歳/大附)
- 質 23 の1 林業を活性化させるには、小・中の頃から、地域で関心をもてる催しや働き方を考える機会をつくる。木を使って、作品を創り国内、国外にPRする。(回答しない/75 歳以上/無回答)
- 木の村、というからには、伐採後の木の処理設備、焼却場、焼却熱利用の施設(風呂)などを作って観光利用として欲しい。小枝しか捨てられない現状は困る。(女性/65～69 歳/玉川)
- ふれあい農園の運営・管理、キウイ棚の管理についても疑問があります。年によって方針がころころ変わるのはこの町の一番良くない所と思います。(女性/45～49 歳/番匠)
- 土地柄を生かした産業の創成・空き家の活用(インキュベーション・センター e x.) 芸術家、開発者、研究者の活動が行なえる住宅の提供(男性/65～69 歳/瀬戸元下)
- 日本全国的な問題であると思いますが地方の人口減少・過疎化、ときがわ町の木工業の減少、荒れ果てた田畑を見ると残念に思います。これらが復活してくれる事を願うばかりです。
(女性/60～64 歳/本郷)
- ワーケーションに適した地域だと思いますので、空き家をワーキングスペースとして活用するなど、地元でのビジネス立ち上げ・雇用創出も大切なテーマだと思います。
行政に携わる皆様、いつも私たちのためにご尽力くださりありがとうございます。
(男性/45～49 歳/本郷)

にぎわいづくり(8件)

- 町中心部とは違って賑わいが有りません。祭り事は町中心部だけです
町中を視察したらどうですか?(女性/55～59 歳/日影)
- ときがわ町は天然の蛍／6月やカブト虫やクワガタ虫／8月等が多くいるので子供向けに昆虫観察ツアーなどを企画してみればときがわ町のイメージアップになるのでは。(男性/60～64 歳/瀬戸元下)
- 町内には、最近県外ナンバー車両が非常に多くなったように思える。通過車両なのかわからないが、通過するだけでなく現金をお納めて頂ける新たな名所がほしいと思う。
例. 三波溪谷を利用した周辺の観光、催し等(男性/70～74 歳/別所)
- 1. 「ふれあいの里たまがわ」を道の駅にして、駐車スペースを拡大し新玉川橋(西)を中心とした新しい町の中心地を作る。※追加で道路、交差点の矢印等を舗装し直す。
2. 1 とセットで明覚駅やせせらぎホール前(遊歩道を整備し憩いの場を作る)にレンタサイクルを設置し町を周遊してもらう。
3. 1 とセットで他の市町村と連携したイベントをおこなう。(訪れる機会を増やす。)例) 比企郡1日周遊ルート、スタンプラリー、施設割引券付きなど。(男性/20～24 歳/玉川)

- 自然は沢山あるのに人が沢山集まり一日遊べる場所がない(無回答)
- 川の広場周辺、水量が減り遊びづらくなりました。都幾川が気軽に遊べるような自然と融合した整備を望みます。また夏場山の方で川遊びをすると駐車料金がなくて驚きます。気楽に町周辺の人々が遊びに来てそこには多くの地元の人々がいてこんなところに住めたら良いなと思える町になってほしいです。(男性/45～49 歳/玉川)
- ときがわ町を全て楽しめるスポット（道の駅や直売所）を充実させたい。ここに行けばときがわ町の名産品がそろそろ！的なお店や施設が欲しい。地域が盛り上がるし（そこに出品したくて頑張る）外部から来た人も、ときがわの魅力がわかりやすいと思う。(女性/40～44 歳/関堀)
- もう少し遊べる場所があったほうが良いと思います。ときがわ町に来るきっかけができ、少しでもときがわ町のことを知ってもらえたらいい場所だと気付いてもらうことが出来ると思います。
(無回答/15～19 歳/本郷)

観光・誘客（４件）

- 玉川温泉にサウナやグランピング場を作る。(男性/20～24 歳/玉川)
- ときがわには阪東 9 番慈光寺という有名な寺があるのだから、これにもっと力を入れきれいにして観光客を呼んだらどうか？今の慈光寺はきたなくて、よそからきて下さる人に見せるのがはずかしい状態です。(女性/75 歳以上/西平)
- 自然をまちの活性化にするのと同時にキャンプ場だけではなく、使われていない古民家や空き家を利用した宿泊施設があってもいいのでは。農業体験。（1 年を通した）(女性/45～49 歳/番匠)
- 素人考えですが空き家を利用し、移住者だけで無くカフェやお店など新規事業を考えてる人に補助金を出して移住してもらおうと観光客も増えるんじゃないかと思います。(女性/35～39 歳/番匠)

コミュニティ（５件）

- 「良いまちづくり」の為にいろいろなイベント等、行なわれていますがまだまだ参加者も少ない様に思います。多くの人に関心を持つ様になればいいと思います…(女性/70～74 歳/玉川)
- 旧市民と移転して来た住民との間に非常に「ギャップ」「差別」等がある。この問題を解決しないと、全てが空転で未来は無いと考える。(男性/65～69 歳/番匠)
- 「お金が一番とする価値観」に根ざした政策は未来世代、社会を幸せにしないと思います。恵まれた自然環境を大切にして、地域コミュニティが助けあい、よりそいあい、分けあう、そんな人間関係を作れたらいいと思いませんか？(無回答)
- 外国人居住者が増加しているが、地域住民と共存できるように外国人へアプローチしたほうが良いと思う（夜中に大きな声を出したり、交通ルールを守る等）。
・自治会（隣組制度）で行っている道路清掃など地域住民が担っている行事の先行きを心配している。
今後 10 年を待たずに支障が出ると考えている。現時点でも農業用水路の草刈りなど管理ができていない。(男性/50～54 歳/玉川)
- 今後のまちづくりをどう考えているのか、意見交流の場が欲しい。その際、色んな層の方が交流出来るようにして欲しい。町全体のコミュニティとしての繋がりがもっとほしい。(男性/15～19 歳/五明)

情報（４件）

■魅力ある町だと思いますが、意外と知られておりません。ときがわ町だと「これ」と言う知名度を上げるようにして欲しいです。例えば「他の町・村などない、安心安全な物がタダでこれだけ得られるなど、アピールをお願いします。未来の人々にとって暮らしやすい町でありますように願います。

（男性/55～59 歳/五明）

■私たち夫婦はときがわ町におおよそ１年前に高知市の限界集落から、東京に住む両親の高齢化を理由に移住してきました。今回のアンケートで聞かれているような内容について、全て重要な取り組むべき項目だと思いますが、残念ながら町の取り組みが広報誌やウェブサイトでは全く伝わりません。どうすればもっと伝わるか、訴求できるか？発信者の立場（お知らせしたからあとは見てね的な）だけではなく住民側の目線での情報ニーズに対する内容を検討していただけると町の取り組みがリアルに伝わるのではないかなと思います。（男性/50～54 歳/本郷）

■ときがわ町は近隣市町村よりもあまり知名度が高くない町だと感じている。今後、多くの方にとときがわ町について知っていただくには SNS 等を使用した情報発信が必要不可欠なのではないかと考える。

（男性/15～19 歳/玉川）

■町がどういう取り組みをしているかも分からない。（女性/50～54 歳/五明）

プロモーション（３件）

■都市部から、すごく遠いという先入観を持たれていますが、実際は信号も少ないし、都市部への車の移動は想像以上に短時間でできます。（男性/45～49 歳/本郷）

- 1. 国道 254 号や 407 号などから具体的な内容でときがわ町をアピールした看板を設置する。
2. 高速の案内板に比企郡やときがわの地名を追加してもらう。（男性/20～24 歳/玉川）

■ご苦労様です。質問 30 での意見ですが、今の時代ですので若い人達には発信力があります。20 代、30 代、40 代を中心としたプロジェクトを作ってもいいのかなと思います。（男性/70～74 歳/西平）

駅周辺開発（４件）

■明覚駅を出ると何もない駅前、コンビニ 1 つない駅はさすがにきついなと感じる。タクシーもない（予約制だとフラッと遊びに来にくい）あるのはバスのみ。ときがわらしい山の方面へは行きにくいと思う。車所有者としては駐車スペースの少なさも感じる。（女性/40～44 歳/関堀）

■駅前に何もなさすぎる。飲食店（有名な）を増やしていかないと町は活性化しないと思う。林業が盛んだと思うが、それをもっとアピールする方法を考えた方が良いのでは…山や林の地形をいかしたアクティビティ施設を造ったりするのも良いかと思う。（男性/45～49 歳/番匠）

■ときがわ町の玄関となる「明覚駅」周辺や、観光施設周辺のデザインが進むと効果的だと思います。飲食店・お土産店・イベント会場等。（男性/45～49 歳/本郷）

■駅にエレベーターが欲しい（越生方面に行く際、必ず階段を上らなければならない。高齢者には厳しい。（無回答）

教育（８件）

■少子化が進んでいるため、少なくとも玉川中学校と都幾川中学校の統合はした方がいいと思う。校舎が少なくなれば維持費や人材費などが浮き、登下校の支援や子育てなど町の活性化に繋がるような政策ができると思う。

また、部活にもよると思うが、部活動の人数も少ないため統合すればそれに困らない。例えば私が都幾川中学校へ通っていた時、野球部の人数が少なく、小川西中学校の野球部と合同で練習をしていた。その時、人によっては自転車で小川西中学校へ合同練習へ行っていた。現在は小川西中学校は樺台中学校と統合し、小川中学校となり、野球部は無くなったらしい。そのため、他の中学校へ合同練習に行くようになるかもしれない。それが玉川中学校だとしても自転車で移動することは大変だと思う。そのため、都幾川中学校と玉川中学校の統合を進めるべきだと思う。（男性/15～19 歳/別所）

■次の二つを望みます。

１．給食の質の改善。ときがわ町で育った人は健康で、スポーツも勉強も得意になるように。

①飲み物は牛乳以外にも選べるように。

②雄性不稔でない種（在来種、固定種）から育てた野菜を必ず１品は使用する。

２．教育の改善

子ども家庭庁が言っているように「国連子どもの権利条約」を尊重した学校教育、子育てができればすばらしい。

この二つが出来れば子育て世代がときがわ町に移住してくると思う。お金のあまりかからない人口減少阻止対策になると思います。（男性/75 歳以上/番匠）

■学校等でＬＧＢＴＱの人への配慮がより必要だと思います。

先生はもちろん、中学校のカウンセラーの人のＬＧＢＴＱに関する知識が足りないと感じています。ＬＧＢＴＱに関しての心無い言葉で傷ついた経験も多いです。

これが改善されれば安心してときがわ町で暮らすことができるので、将来もときがわ町に住み続けようと思えるかもしれません。（回答しない/15～19 歳/馬場）

■給食費の無償化をお願いいたします。（男性/35～39 歳/西平）

■子供が学童ひまわりクラブに通っています。床が傷んでいて、足の裏に床のトゲが刺さってしまったことがありました。子供たちが安全に過ごすことができると良いなと思います。

（女性/50～54 歳/五明）

■老若男女が食育を通し健康に暮らしていけるよう情報を発信し、自給自足率を 100%まで目指し、近将来やってくる食糧危機に備える。学校給食からのパン・乳製品の排除健全な子供を育てる町づくり

（男性/55～59 歳/別所）

■高校を卒業後ときがわを出て行ってしまおう人が多く、ときがわに残りたいと思える町づくりをもっと行ってほしい。また、子供の外国でのホームステイをまた行ってほしい。私はNZに行っている学ばせていただけて本当に感謝している。（男性/25～29 歳/本郷）

■将来のことを考えますと教育に力をいれるべきだと思いますし、教育の充実が計かれていれば必ず注目を浴びることになります。ただ漠然とした教育ではだめです。（男性/70～74 歳/西平）

子育て支援（４件）

- 児童館がほしい、小学生が自由にすごせる場が少ない（親が結局みてないといけない）
 - ・働く場少ない→子どもを預けて仕事できない働いてない人が多いイメージ（無回答）
- 現在私は学生で、将来は町を出て働くことを検討しています。しかし、ときがわ町は自然豊かで時間がゆっくり流れていて地域の人々も暖かく、とても住み心地の良い街です。いずれ結婚して、子育てをするようになったらときがわ町に戻ってきたいという思いもあります。もっと、ときがわ町の子育て支援が充実し、経済面でのサポートもして頂けたら繁栄すると思います。（女性/15～19 歳/番匠）
- 子育てしたくなる魅力的な環境があったら、結婚も出産する人も増えるとは思いますが、簡単な事だとは思ってはいません。結婚子供離れしている若者が多い時代ですから難しい問題だと思います。

（女性/55～59 歳/本郷）
- 若い世代に来てもらうべく子育て支援を手厚くし、子どもが少ないから現状維持で仕方ないと思わず、少ないからこそ出来る事がたくさんあると思うので変えていって欲しいです。
児童館のような子どもの居場所を作って欲しいです。（女性/35～39 歳/番匠）

医療（２件）

- ときがわ町内に医療関係（外科、内科等）が出来ましたら、どんなに住みやすい事かと思う。つまり完全な設備の整った医療機関の事。（男性/75 歳以上/五明）
- インフルエンザワクチンを近隣の市のように（東松山・坂戸・鶴ヶ島）などみたいに 18 才以下全員に打って補助を出してほしい。（女性/30～34 歳/玉川）

健康福祉（３件）

- ときがわ町だけでなく、人口減少は、どこも同じだと思う。高齢社会となっても、なるべく最後の時まで、自立して生きていたいとは思っているが、いずれ車の運転もできなくなってくるし、認知症の人口は増え続けてゆくと思っている。フレイル予防として、「月イチ食堂」の施策はとてありがたいといつも感謝して利用している。「貯筋教室」の参加も、いつまでも元気でいるために大切なことと思う。広報をよくみて、高齢者のためになることは、実行したいと思っている。近所に小学生も殆どみることがないくらい減っている。淋しいことだけれど、自然のなりゆきにまかせるしかないような気もする。役場の方はみんな親切に接してくださるのでこれからもそうしてほしい。

（女性/75 歳以上/瀬戸元下）
- 町の人が利用できる公園を増やし、そこでは健康体操のできる遊具が充実しており、コミュニティーの場として皆が自然と集まってくる。医療費が日本一安い町づくり。（男性/55～59 歳/別所）
- 今、高齢者が困った時の対応を強化して欲しい。一人暮らしの高齢者が保証人で困って居ます。どうかこの間に対応をお願いしたい。全ての人達が住み安い町で有りますように願っております。

（男性/70～74 歳/馬場）

まちづくりの方向性（16 件）

- 私たちがときがわ町に住み続けるには、交通の便が良く、生活の利便性が高く、災害に強く、子育て環境の充実等考えていただいている中で、更なるときがわ町の魅力を高め、一層の安心安全なまちづくりに期待いたします。（男性/75 歳以上/五明）
- 子育てしやすく、老後安心して住める町づくりをお願いします。（女性/60～64 歳/番匠）
- ・良い所にみがきをかけ、とがった政策、町づくりをする。・住民が住んで良かった、住みたい、住み続けたい町に・行政だけでなく、住民が何をしたら良いのかを問う必要がある・小さなとがった町をめざすべきかな。（男性/65～69 歳/玉川）
- どこかの成功例をまねするより、オリジナルを強化する方向で進んでほしい。（女性/35～39 歳/馬場）
- ときがわ町は、環境も良く、都内にも電車で 1 時間と利便性も良く「東京に近い田舎」として、大変暮らしやすい町だと思います。我が家の息子は二人とも都内で仕事をしている為、都内に住んでいます、もし将来、雇用が町内であれば、子育てをするのに戻ってきてもよいかと思っています。ときがわ町の未来を考えたら若い方々に手厚い支援が必要だと思います。戻ってきたい（ユーターン）移住したい、住むならときがわ町と思ってもらえるような施策を希望しております。（女性/60～64 歳/玉川）
- 若者や子育て世代がときがわの自然の豊かさに気づき魅力だと思えるような政策（徹底的な子育て世代への支援）を掲げて欲しいです。それも全国的にも注目されるような内容で。消滅自治体から何としても脱却してほしいです。（女性/75 歳以上/桃木）
- 子供が減っていくのがとても残念。若い夫婦がたくさん住んでくれるような町づくりができればよいのですが…。（女性/60～64 歳/五明）
- 「開かれたときがわ町」が重要。玉川工業高校の廃校は大変惜しい財産を失ったことだと思います。外の地域から通って来る 600 人に近い生徒を失ったことは、ある意味、外への窓口を 1 つ閉ざしてしまったと同じことです。何とか工夫して若者をこの地域につなぎとめておける大事な存在だったと残念でなりません。これから同じ位効果の出しやすい環境、設備を作り出すことは不可能だとは思いますが、日常的に、この町に他の地域から人々が入ってくる工夫が必要だと思います。（女性/75 歳以上/田黒）
- 高齢化が進み、独居や空き家が多くなっている。過疎地域への支援、税金投入、又は交通手段の問題などを考えると、地域の統合も必要ではないか。また、少子化によって、子育て世代が離れていってしまう。特に、高校に通うための交通の便が悪いなどの理由で、引っ越すケースも多いようだ。従って現存の状況では人口が減るばかり。他市町村から移住してくるような対策は必要。空き家を安価に購入できる、借りられる、または、仕事を提供する、又は大手企業が土地を誘致し、リモートワークができるよう、住まいや会社を提供するなど、外からの人口を増やさなければ、町全体の過疎化は進むと思う。消滅都市とならないよう、早期に手をうつ必要があると思う。（女性/65～69 歳/田黒）
- ときがわ町（点）と他の行政（線）をつなぐ政策を考える。・小、中をときがわ町にいない子たちは、ときがわにはきません。持ち主は土地、家屋を処分し、外部の人が住んだりできるような風通しのよい利用を推進したらどうでしょうか？（回答しない/75 歳以上/無回答）
- 日本国民全体の人口が減少傾向にある中でときがわ町の人口が減少しているのが特別な事では無く自然現象だと思われるので必要以上に観光・移住者受け入れ対策に税金を使うより、今の居住者に向けた道路整備（通学路にもかかわらず歩道整備がされていない所が多々ある様に思われます）や環境対策（医療や教育の充実（例えばこんな学校に通わせたいと思ってもらえる様な授業内容など））に力を入れれば若年層の定住化や移住者も増えるのではないのでしょうか。（女性/55～59 歳/田黒）

■お世話になっております。今回のアンケート、有効利用されることを願っております。

①自然環境や景観の保全はもちろん、これらを町の魅力・強みであると捉え、それを活かせる魅せ方、表現の仕方を真剣に考え、行動に移していく。移住者や、新しいモノを作ろうとしている、主に若い世代の活動や、これからの展望に、町としても興味・関心を持ち、それらを伸ばす、連携する体制を取る。町の特徴となっていくように。

②地元と人や、年配の方も暮らしやすい町であることも重要なので、①と②がうまく融合できる形を探してほしい。「ちょうどいい町ときがわ」まずは町内から！これからもお世話になります。

(男性/40～44 歳/五明)

■若者や外国人が住みやすい環境を整える。(女性/75 歳以上/玉川)

■ときがわ町の将来について、おおきな町を目指し大きくするのか、小さな町で纏めるのかによって施策が変わってくると考えます。農業も建具産業又は林業も今後成長する事はないと思っています。町として新たな方向として医療や介護に特化した施設や相談所又は山林を終末医療場に開放するなど動物セラピーの導入に特化した地域としてのときがわ町としての役割も考えられるのではないのでしょうか。これからの町の方向を明確にし目標を明確にする必要があると考えます。

物作りでは小さくまとまってしまう発展は望めません。サービス産業に特化した考えを発展した方がときがわ町の将来につながるのではないのでしょうか。(男性/75 歳以上/大附)

■森林の開発、建設しても利用する人が少ないと考えられる施設の建設はしない方がいいと思う。

(女性/15～19 歳/瀬戸元下)

■豊かな自然環境を残し、教育と福祉に力を入れ充実していれば、人は集まると思います。

ときがわ町民憲章に沿ったまちづくりをお願いいたします。(男性/40～44 歳/大野)

補助・助成金（4 件）

■移住者の立場からの意見です。・移住を考える時、補助や支援は頼りにしません。補助・支援が有効なのは、一部の少数に対してだと思います。(男性/45～49 歳/本郷)

■英検、TOEIC の受験に補助金をお願いします。(女性/60～64 歳/日影)

■現在留学を検討しているので、町の奨学金制度ができたらいいなと思います。(女性/15～19 歳/番匠)

■補助金、助成金など現金支給を考えすぎるのも問題ではないですか？(男性/75 歳以上/玉川)

■税金を安くしてください。(男性/35～39 歳/馬場)

文化財（1 件）

■町の国宝を所蔵する寺院の先行きに不安があります。もう少し町としての介入・指導など検討すべきと考えますが、どの程度状況を把握しているのでしょうか。(女性/45～49 歳/番匠)

要望等（8 件）

■仕事の都合で都会からときがわに移り 40 年余りになりました。ここ数年いろいろな面でとても良くなってきていると感じます。これからも住民の意見をとり入れていただき、よりよい町に発展していただける様願っております。(女性/75 歳以上/玉川)

■ときがわ町は自然に恵まれとても住みやすいが若者には、不便で活動する場が少ない。交通アクセスやデジタル化、若い人が住みたいと思える環境が望ましいが高齢者と共存するのが難しいだろう。年齢性別問わず生きたいと思える場所であってほしい。私は70才で身体も不自由ですが生きています。

(女性/70～74 歳/玉川)

■成人した子ども達がときがわ町に住まいを構えたいと思うには、何が必要かと考えながら意見したつもりです。自身がもっと年を重ねると、福祉サービスに力を入れて欲しいと思うかもしれませんね。

(女性/55～59 歳/玉川)

■ときがわ町が好きなので、これからも温かい町であってほしいです。(女性/20～24 歳/日影)

■観光強化のメリットが分からない。地元に金が落ちず、誘致企業のみが儲かってる。地元の興味は向かず、特異な人が目立つ。ときがわ町の自然な姿で勝負すれば良い。それで廃退するなら、合併すれば良い。(男性/40～44 歳/五明)

■生涯、住み続けたい町とは子育て世代ばかりではなく、高齢になっても安心して暮らせる町にしてほしいです。若い人もいずれは高齢者です、若者を呼び込むだけではなく、その後もどうか、よろしくお願いします。(女性/50～54 歳/西平)

■がんばれ。(男性/15～19 歳/馬場)

その他（8 件）

■前質問同様、どうしたら若者が町に残りたいと思うかは、若者の意見を聞くべきで、ときがわ町在住の中学生以上 20 代までの全員にアンケート調査したらよいと思う。高齢者の意見はあまり意味がないと思う。(男性/60～64 歳/玉川)

■最初の質問で個人情報が多く、無解答といたしました。最近「匿名・流動型犯罪グループ（トクリュウ）」等の犯罪が多く個人情報が特定出来るような質問にはお答え出来ません。(最初のページに「個人が特定されることはありません」と書いてありましたが、100%信用出来ない社会情勢である為。)

(回答しない/無回答/無回答)

■住民アンケートということですが住所の質問があり個人を特定するものになってしまうと思います。

(女性/65～69 歳/雲河原)

■まちづくり以前に、このようなアンケートは既婚者に送れ。質問 12 は 13 以降に書け。

(男性/55～59 歳/無回答)

■質問に対して、回答欄数が多すぎて選びにくい！(女性/75 歳以上/玉川)

■アンケートがわかりにくい。施策を知っているものとしての質問でほとんどの人は、前提を知らないと思います。(女性/70～74 歳/大附)

■ときがわ町には働く所もなくスーパーは遠く、若い人は結婚もしない人が男性女性を問わず多数いる。こんな魅力のない町は近々に消滅して当然でしょう。行政も議会もやる気のないのが大問題だ！

(男性/70～74 歳/梶平)

■職員（観光課、商工会）による不正行為が発覚し、モラルの低さが露呈してしまった。又、花しょうぶ園の廃止など行政のやる気のなさが現わになり、失望するばかりです。このような状況で 20 年後果して、町は存続しているのでしょうか？まずは、小子化対策とか移住者とかいっていないで誠実な行政組織をたてなおすのが肝心なのは？(男性/55～59 歳/番匠)

■見直しはデジタル系の事に 1 億も使わない事だと思います(男性/50～54 歳/馬場)